

以上ヨセフアスノ言ハ教會歴史家ユーシピアスノ著書並ニ有名ナル神學者オリジエンノ書ニ引用セラレタリキ是ヲ以テ之ヲ見レバ聖ヤコブガ如何ニ能クユダヤ人ノ習慣風俗若クハ其思想ヲ守リシカ其又如何ニ完全ナル人物ナルカヲ示スニ於テ余師アリト謂フベシ然レモ此等ノ言ヲモテ眞ニヨセフアスノ記セシニ非ストスルモノアリ然レモ此言假令眞正ナル彼ガ記録ヨリ出デタルモノニアラズトスルモユーシピアス及ビオリジエンノ著書ハ確ニ此ハ公會ニ於ケル初代ヨリ言ヒ傳ヘラレタル事實タル事ヲ證スルニ餘アリトス

ユーセピアスハヘゲシバスノ著書ヨリ引用シテ左ノ興味アル記録ヲ遺セリキ曰ク聖ヤコブハ生レテ既ニナザレ人(數六〇三)トナリ葡萄酒ト他ノ酒トヲ用ヒズ又肉ヲ食ハザリキ薙刀ヲソノ頭ニアラズ曾テ香油ヲ塗ラズ身モ亦タ湯沐ヲ絶チテ彼ハ宮殿ニ於テ人民ノ爲メ祈禱スルヲニ於テ其時ノ多クヲ費シ其跪坐スルヲノ屢ナルガ爲膝ハ駱駝ノ膝ノ如ク固リヌ此ハ第三世紀ニ於ケル聖ヤコブニ就テノ言傳ナリト

ユーセピアスハ更ニ語ヲ進メ彼ガ死ノ狀ヲ説テ曰ク頃ハ基督昇天後第十六年恰モ踰越節ノ時ナリキ例ノ如ク多クノユダヤ人等ハ宮詣デノ爲メニエルサレムニ集リ來リヌ然ルニユダヤノ有司等ハ此ル時ヲ機會トシテナザレノイエスノ徒弟等ガ反旗ヲ舉ケンモ測ラレズト杞憂ヲ懷キケルヲモテ彼等ハ監督ヤコブノ勢力ヲ利用シテ禍害ヲ未萌ニ絶ントセリ故ニ彼等ハヤコブニ請フニ民等ノ紛擾ヲ起サラン様勸告スベキヲ以テセリ彼等ハヤコブヲ拉シテ殿ノ頂ニ立セ其下ニ民等ヲ會ヘテイザトテヤコブニ迫リヌヤコブハ從容トシテ答ヘテ曰ク卿等ハ何ノ故ヲ以テ余ニ請フニ人ノ子主イエスニ就キ語ルベキヲ以テスルカ彼ハ今權能ノ右ニ坐ス而シテ天ノ雲ニ乘リテ復再ビ地上ニ臨シ給フト意外ニモ此ル語ヲ聞キシバリサイ人等ハ怒心頭ニ發シ直ニヤコブヲ執ヘテ之ヲ投ケ落シ殿守等ハ棍棒石杯ヲモテ彼ヲ打チ殺シヌト蓋シ此ノ言傳ヘノ眞偽如何ハ之ヲ確知スルヲ能ハズト雖モ當時ヤコブノ性質ニ就テ基督教會ノ證明スル所ハ是レナリトス而シテ

此ル言傳ハ到底或ハ聖パウロ或ハ聖ペテロ或ハ聖ヨハネニ就テハ起リ能ハザル所ノモノナルベシ聖ヤコブハ死ニ至ルマデ眞ノユダヤ人ナリキ縱令彼ハ新信仰ヲ受ケ新希望ヲ懷キ居シニ相違ナキモ然モ猶ユダヤ宗教ノ一風俗ヲ死ニ至ル迄確守ナシタリキ

記シテ此ニ至リ吾人ハ最モ重要ナル一點ニ會ス贖罪ノ教理ニ反對スル論者動モスレバ曰ク聖パウロト云ヒ若クハ聖ペテロト云ヒ共ニユダヤ人トシテ教育セラレタル者ナルヲ以テ主キリストノ死ハ罪ヲ贖フテフ彼等ノ思想ハ是レエルサレムノ宮殿祭司聖壇及ビ献物等ニ就テ緣由シ來リシモノニシテ血ヲ以テ罪ヲ洗ヒ罪ノ赦ヲ受クルヲ言ヒ顯セルモノナリト若シ果シテ然トセバ前ニ既ニ記セル如ク聖ヤコブハ他ノ使徒等ニ勝リテユダヤ的思想ニ充サレタルヲモテ吾人ハ其著書中ニ於テ此ル語ヲ多ク見出スヲ得ベキ事ノ實際ハ然ラズノ書中會テ一二ノ之ニ及ビタルナク或ハ主キリストノ血或ハ主キリストノ犠牲或ハ世ノ罪ノ爲ノ挽回ノ祭物或ハ贖罪或ハ主キリストノ人類ノ爲

ニ祭司ノ長タル事等ニ就キテハ幾度卷ヲ繰返ストモ吾人ハ竟ニ發見スルコトナフシテ終ランノミ此ノ熱心ナルユダヤ人(聖ヤコブ)ハ(聖ヤコブ)ハ會テ一度モ主キリストノ行爲ヲ説明スル爲ニユダヤ宗教ノ制度ヲ假用スルヲアラザリキ其著短篇ニ於テ主キリストノ死ハ贖罪ノ犠牲タルヲ記サリキ而シテ其(聖ヤコブ)エルサレムニ住ヒ常ニ宮殿ニ於テ祈リツ、アリタルハ偶主キリストノ行爲ヲ説明センガ爲ニ彼ガユダヤ宗教ノ制度ヲ用ヒザリシヲ知ルニ足ランカ然リ而シテ聖パウロヨハネペテロノ三人ガ主キリストノ行爲ヲ説明スル爲ニユダヤ宗教ノ制度ヲ用ユルハ即チ彼等ガユダヤ的ニ教育セラレタルノ理由ニ非ズシテ吾人ハ主キリストガ聖靈ヲモテ其自ラ成シ給ヒタル贖罪ノ教理ヲ啓示シ給ヒタルニ基クモノナリトナサバ爾ヲ得ザル也

聖ヤコブハ其著書ニ於テモーセノ律法ト宮殿ニ於テ神ニ事フル事トヲ忘レザルノ旨ヲ遺シタリ例令バー〇二十五ニ於テモーセノ律法ノ代トノ主キリストノ律法ヲ指シテ自由なる全き律法テフ語ヲ以テセ

ルガ如キ又全二十七節ニ神なる父の前に潔して穢なく事することは孤
子と寡婦を其患難の中に眷顧また自ら守て世に汚れざる是なりトア
ルガ如キ蓋シ神ニ事フルテフ語ハユダヤ的思想ニ據レバエルサレム
殿内ニ於テ儀式ヲモテ神ニ事フルトヲ指スモノナルガ聖ヤコブハ此
ノ語ヲモテ主キリストニ從フ事ヲ指示センガ爲ニ轉用セリ卓越ナル
哲學者コルリッヂ本節ヲ註解シテ曰クキリスト教ノ禮式ト神ニ事フル
トハ宮殿ニアラス信者一生ニ實行スル道德ナリ基督教ハ恩寵ト真理
ノ組織ニシテ宮殿ニ於ル禮拜ノ代ニ各所ニ於テ光アルモノニ由テ包
マレ其四方ニ正義ヲ表出スルモノナリト而シテ初代基督教會ニ於ケ
ル贖罪ノ教理ニ就ケル證明ハ專ラ聖ヤコブノ書ニ由テナサレタリキ
贖罪ニツキ論究スヘキ主要ノ點ハ主キリストノ生涯ト其死ノ目的ハ
唯ダ人類ノ道德的靈性的性質ヲ善化シ人類ヲシテ再ビ神ニ引キ還ヘ
スノトナルカ將タ主キリストノ死ハ人類ノ罪ヲ赦スノ事ニ必要缺ク
可カラザル事ナルカニアリ抑モ本書ニ由リテ一考シ來レバ聖ヤコブ

及其時代ノ信徒等ハ明ニ前者ニ就キ其信ヲ措ザリシハ次ノ説明ニ由
テ之ヲ知ルニ足ル當時ニ於テ行ヲ兼ザル信仰ニ由テノミ救ハルベシ
ト明ニ思惟セルモノアリ即チ初代教會ニ於テハ人ノ正ニ救ハルベキ
ハ唯タ信仰ニ由リテノミナリト信ゼラレ其信仰ノ指ス所ハ唯タ主キ
リストノ十字架上ノ死ノミナリキ聖ヤコブハ此等ノ思想ヲモテ全然
誤謬ナリトハナサバリキ若シ其信仰ニシテ正當ナルモノナランニハ
其結果ハ信徒ノ生涯ニ於ケル善行トシテ發セラレザルヲ得ザル也聖
ヤコブノ時代ニ於ケルエルサレム教會ニ於テハユダヤ人ノ信徒トナ
レルモノ多カリキ彼等ハモーセノ法律ニ由テ能ク罪ノ性質ヲ辨ヘタ
ルモノナルヲモテ誤テ以ラク若シ主キリストヲ信スルトセバ縱令
信仰ヲ表ハスベキ義シキ行ヲナサズ常ニ罪ヲ犯シツ、アルト雖モ主
キリストニ由テ確ニ救ハル、ヲ得ベシト是レ當時代ニ於ケル異端ナ
リキ然レモ若シ當時代ニ於ケル公會ノ説ク所ノモノ主キリストハ人
間ヲ善化スルトニ由リ救拯ヲ與フルカ爲メ即チ死シタリトセンニハ

此ル異端ヲ生ズベキ一ノ餘地ナカリシナラン何トナレバ信仰ヲ表ハ
スベキ義シキ行ヲ行ハズ日常罪ヲ犯シツ、アルモ主キリストヲ信ス
ルニ由リ猶救ハル、ヲ得ベシトノ誤解ト主キリストノ事業ハ人類ノ
性質ヲ善化セシメ而シテ救ヲ與ヘンカ爲ニ死ニ給ヘリトノ教ハ全然
相反スルモノナルヲ以テ也蓋シ初代ヨリ現時ニ至ル迄キリスト教會
ノ教理ハ救拯ハ主キリストノ死ヲ信ズルコトニノミ由リテ來ルベシ
トノ事ナリキ然レドモ此ル真正ナル教理ヲ確信スルモノナリト雖モ
尙ホ誤認ニ陷ルノ危険ナキニアラズ即チ救拯ハ單ニ主キリストヲ信
スルニ由ルモノナレバ義シキ行爲ノ如キハ救拯ニ對シテ關スル所ナ
シトスル是レ也別言スレバ人ハ其罪ヲ棄テザルモ自己ヲ信者ナリト
稱スルヲモテ已ニ救拯ニ達セル者ナリト思惟ス最レ最モ恐ルベキ誤
謬ナリトス若シ夫レ使徒等ノ説キシ所ニシテ主キリストノ事業ハ人
類ノ性質ヲ善化セシメ救拯ヲ與ル爲ニ死シ給ヒシトセンニハ日々罪
ヲ犯シツ、アル者ニシテ誰カ能ク自ラ救拯ニ與ルヲ得ベシト思惟ス

ル者アランヤ例令バ身ヲ縲縛ニ辱シムル者アランニ誰レカ能ク自ラ
自由ナル者ト思惟センヤ或ハ疾病ニ犯サレ或ハ身ニ多クノ苦痛ヲ感
スル者誰カ能ク自ラ思惟ヒテ能ク健全ナリトスルヲ得ン如此其心意
性情ノ陋劣ナルヲ自ラ能ク知ル者ニノ自ラヲ謂ヒテ救拯ニ價スル者
ナリト稱スルヲ能クセンヤ此ハ數多ノ理由ヲモテ使徒等ノ説キタル
教理ハ決シテ此點ニ存セスノ寧彼點ニアリトセザルヲ得ザル也即チ
人ハ信仰ニ由リテ救ハル、トノ事是レ也讀者ノ知レルカ如クユダヤ
人ハ主キリストノ時代ノ前ニ當リ之レト同様ナル異端ニ陷リテアリ
キ彼等ノ以ラク我儕ハアブラハムノ子孫ニシテ神ノ律法ヲ守ルベキ
ヲ公ニ言表セル者ナルガ故例令大ナル罪ヲ犯スト雖モ尙法律ニ由テ
救ハルヲ得ベシト實ニ神ハアブラハムニ約束ヲ與ヘ玉ヘリキ且ツ約
束ノ後四百三十年ヲ經テ與ヘラレタル法律ハ此ノ約束ヲ無効ニスル
ヲ得ズ法律ノ未ダ授ケラレザル前ニ當リテ此ノ約束ハ不變ノ者トシ
テ存セラレキ即チ神ハ約束ヲ與ヘ給ヒシカ故又法律ヲモ授ケ給ヒキ

然レドモユダヤ人ハ此ル幸福ナル約束モ神ノ明命ニ違背スルコトニ由リテ無効トナルテフコトヲ全ク忘了シヌ斯ノ如ク聖ヤコブノ時ニ於ケルキリスト教徒ノ中ニモ之ト同様ナル誤謬ニ陥リタル者鮮少ナラザリキ夫レ神ハ主キリストヲ信スル者ニ永遠キ生命ヲ約シ給ヒシト雖モ若シ其身ニ相應シキ義シキヲ行フニアラズンバ神ノ永遠キ榮光ニ與ルヲハ到底望ムベカラザル也即チ何人ト雖モ信仰ニ由テ救拯ヲ望マン者ハ己ヲ神ノ恵ニ委テテ正義ヲ守ラズンバアルベカラズ而シテ此ノ教ニ相反スル異端アリトセバ己ニ當時ノ教會内ニ贖罪ノ教理ニ保タレタルヲ知ルニ足ラン

其陋心未ダ此ノ世ヲ脱ヒザル者口頭ノミニテ或ハ曰ク吾ハ主キリストヲ信セリ故ニ又救拯ルベシト然レモ若シ主キリストノ目的ニシテ唯人ヲ善化スルヲノミナリセバ聖ヤコブハ殊更ニ信仰ヲ説ズシテ只義シカレトハ勸メシナランモ彼ハ然ラズシテ信仰ヲ尊ビヌ然モ所謂善行ヲ兼ザル信仰ヲ排斥シテ是レ口頭ノ語ノミニシテ眞誠ノ信仰ニ

アラズトシタリキ聖ヤコブ信仰ニツキニケノ例ヲ擧ゲヌ曰クアブラハム(一)曰クラハブ(二)是レ也雅二〇二十三、ニ曰クアブラハム神を信ず其信仰を義とせられたりト實ニアブラハムハ信仰ニ由リテ義トセラレヌ开ハソノ信仰行ト共ニ働キ且行ニ由テ信仰全備ヲ得タレバナリトアリ而シテアブラハムノ義シキ行ハ其信仰ノ證據トシテ見ルベキ所ノ者ナリキ如斯拉ハブモ亦當時代ノユダヤ人ノ思想ノ見本トノ篤信家トハ見ラレタリキ來十一〇三一、ニ曰ク「信仰に由テ妓婦ラハブは信せざるものと共に亡びざりき蓋偵者を接て之を平安ならしめたればなり」ト又雅二〇二五、ニ曰ク「妓婦ラハブ使者を受之を他の途より去しめて義とせられたれば行に由るに非ずや」ト以上ノ双節ヲ對照シ來レハ其間毫モ相反スル主意アルナシ聖ヤコブノ所謂行ニ由テ義トセラル、トハ即チ信仰ヲ證スル行ニ由テ義トセラル、モノナリトノ意ニシテ二十二節ノ語ト同意義ナルヲ明ナリ然リ行ノ義トセラル、所以ノモノハ其信仰ニアリ而シテ行ノ利益スル所ハ其信仰ノ證明トナ

ルコナリ即チ行信仰ト共ニ働キ且行ニ由テ信仰完備ヲ得タル也ト蓋シ之ヲ云フ

右絮説ノ旨ヲ仔細ニ玩索シ來レバ吾人ハ左ノ歸結ニ達セザルヲ得ザル也則チ若シ聖ヤコブノ教ヘシ所ニシテ縱令主キリストヲ信ズルモ其救拯ニ與ルハ得ベカラザル事ナルモ主キリストハ人類ノ性ヲ善化スルコトニ由テ救ヒ給フモノナリトノ主意ナリセバ其信仰ト行ニツキ彼ガ論ゼシ所ノモノハ大ニ異點ヲ生ゼズンバアラザルベシ則チ此ル場合ニ於テハ彼ハ彼ノ不良ナル生活ヲナスト雖モ尙ホ救拯ニ與ラシテ望ム者ニ對シテ主キリストハ人類ヲシテ善ヲ愛スルノ心ヲ起サシメ又善事ヲ實行スルノ力ヲ與ヘンガ爲メニ來リ給ヒキ故ニ若シ人類ニシテ主キリストニ由テ其罪消シ了ルニ非ズンバ主キリストノ力ト主キリストノ救ノ惠トハ人類ニ關係スル所アラザルベシト云ヒシヤ疑ヒナカルベシ別語ヲ以テ之ヲ言ヘバ信仰ナル語ハ彼ノ所論ニ於テ一ノ價值サヘナカルベシ看ヨ世ニ賤ガヒノ金貨アルハ偶眞實ナル

金貨アルヲ知ルニ足シムルガ如ク吾人ガ一般普遍ナル眞理ヲ發見スル時ニ於テ必ズ之レト相伴フテ似而非ナル眞理ノ出デ來ルハ決シテ怪ムニ足ラザル也

之ヲ要スルニ初代教會ニ於テ一ケノ異端存シタリキ即チ其日常振舞フ行爲ノ不良ナルニモ拘ハラズ唯主キリストヲ信スルノミニシテ救拯ルベシトノ是レ也而シテ此ル異端ノ存セシハ當時ノ公會ニ於テ教ヘタル教理ノ主キリストノ贖罪ヲ信ズル事ニ由リ正ニ救拯ルベシトノコトナリシヲ反證スルニ足ランカ且ツ此ル異端ニ對スル聖ヤコブノ所論ハ一層之レヲ證シテ力アルモノニ非ズヤ

吾人ハ之ヨリ進ンデ雅各書ノ教ユル所ニ就キ少シク講説ヲ試ントス人或ハ動モスレバ雅各書ト聖パウロノ書簡トヲ對觀シ早計ニモ謂テ曰ク義トセラレ、テウトニ就キ其教ユル所兩書各相異ナレリト然レモ若シ兩使徒ノ教ニ就キ其深長ナル意味ヲ充分ニ悟了徹底セバ其相反スル點一モ之レナキヲ見出スヲ得ン蓋シ聖パウロハ宛然ガ神學先生

ノ如クニ熱心ニ人ハ信仰ニ由テノミ義トセラル、ナリト言ヘリキ此ル教理ハ新約全書全體ノ道理ニ由テ指示セラル、所ニノ吾人ヲ今少シク聖パウロノ意ヲ尋チシメヨ聖パウロ以爲ラク人ハ唯ダ神ノ無限ナル恩恵ニ由テ救ハル、モノナリ神ハ先ヅ初ニ人類ヲ愛シ給ヘリ故ニ人類モ亦神ヲ愛スル者トナレリ而シテ神ノ前ニ於テハ主キリストニ由リテ顯彰セラレタル恵ノ外何物モ能ク罪ノ刑罰及ビ永遠キ滅亡ヨリノ脱レシメ得ル者ナシ故ニ聖徒中最モ卓越セル者ノ功績ヨリモ寧天國ニ在ル最モ少キ者ノ益アルニハ如ザルナリ其聖徒トシテ數ヘラル、ガ如キハ唯ダ是レ聖靈ナル神ノ活動ノ結果耳如何ニ卓越セル聖徒ノ功績ト雖モ褒賞ニ價スルモノアルコトナシ何トナレバ聖徒タルヲ得ルノ力ハ唯ダ神ノ恩賜ニ由リテノミ得ラルヘキモノナレバナリ人類ハ神ニ向ヒテ一物ヲモ寄進スル能ハズ庶物皆神ノ能手ヨリシテコソ之ヲ領ク實ニ神ト人類トノ關係ハ唯タ人類ノ神ニ賴ルアル耳是レ蓋シ上下二者ノ關係ナリトス而シテ吾人ニノ此ノ關係ヲ明ニシ且

ツ自ラヲ之ニ委ユルハ即チ謂フ所ノ信仰ナリ是ヲ以テ人ハ信仰ニ由テ義トセラル、也ト此ハ聖パウロ所論ノ大意ナリト謂フベキカ
聖ヤコブハ神學先生ニ非ズ彼ハ只タ牧師トシテ日々業務ニ鞅掌スル普通人ノ爲ニ其義務ニ就キテ語ルコトヲナセリキ故ニ其所説ニシテ人神ノ聖前ニ義トセラル、ガ爲ニハ義シキ行爲ヲ行フコト切要ナリキトアルハ蓋シ其處ナリトス惟フニ聖ヤコブハ思想ニ就テ語ラズ事實ニ就テ語リキ彼ハ唯人類當然ノ責務ヲ談ズル耳或人ノ言ヘルカ如ク吾人ハ主キリストヲ信スル其日ニ於テ義トセラルベキモノナリト云フハ固ヨリ眞實ニシテ虛妄ノ論ニアラザル也然リト雖モ其何人タルヲ問ハズ苟モ信仰ヲ有ツモノナランニハ又之レト共ニ善行ヲ有セザルベカラザル也別言スレバ眞正ナル信仰ノ結果ハ善行也故ニ信仰ナキ者ハ義トセラル、能ハズ如斯善行ナキ者モ義トセラル、ヲ得ザル也蓋シ善行ハ常ニ信仰ト伴ヘバナリ
以上ノ所論ニ由リ吾人ノ正ニ知ルベキハコト苟モ教ニ涉リテ論ズル

時ハ之ヲ神學的ニ論ズルト之ヲ實踐的ニ論ズルト其間多少甄別スル所アルヲ記憶スベキ事是也故ニ今這般ノ教理ニ就キ之ヲ論ズルニ神學的道理ヲ以テセバ人類ハ唯ダ信仰ニ由テノミ救拯ニ與ルベキモノナリト云ハザルベカラズ然レモ之ヲキリスト教徒ノ生涯ニ於ケル日常ノ義務上ヨリシテ論ズレバ善行ナキ者ハ到底救拯ニ與ルヲ得ベカラザルモノトナサザル可ラザル也故ニ道ヲ傳フル者ハ信仰ノ前ニ當リテ先ツ悔改ムベキヲ宣ベ傳ヘ又信仰ノ結果トシテ之ニ繼クヘキ善行ヲナスベキヲ熱心ニ宣傳セザル可ラザル也是等ノ理由ヲモテ聖パウロト聖ヤコブノ教ヘシ所ハ其主意尤モ正確ニ相同シキモノナリトセザルヲ得ザル也惟フニ雅各書ヲ考究セル傳道者等ハ確ニ或一事ヲ了解セシナラン即チ普通ノ業務ニ從事スル男女ニ神學即チ心靈上ノ真理ヲ教授スルニ當リテハ折々其學校ニ於テ學習セル神學的術語ニ據ズシテ其教理ヲ説明セザルベカラザルノ要アルヲ若シ然ラズンバ往々ニシテ危險ニ陥ルノ虞アリ而シテ彼ノ神學上ノ知識ニ深邃ナラ

ザルモノ神學的術語ヲ利用シテ其罪ヲ掩ハントスルノ危險ハ吾人ノ屢々見ントスル所ナレバナリ是レ豈ニ悲痛浩歎スベキ事ニ非ズヤ吾人ハ雅各書ニ於テ一大教訓ヲ學ブヲ得即チキリスト教徒ノ生涯ニ於テ神ノ愛ヲ信スルト神ノ命令ニ從順ナルコトハ之ヲ分離スル能ハズ二者同一ナルコトヲ故ニ若シ吾ハ主キリストヲ信スルガ故ニ惡ヲ避ケ又熱心ニ善ヲ爲シテハ必ズシモ必要ナラザル也ト論ズル者アラバ此ハ異端ノ尤モ大ナル者ト謂ハザルベカラザル也然レトモ此ハキリスト教ノ初代ヨリ今日ニ至ルマデ信徒ノ内ニ存セル所ニシテ忠實ナル主ノ牧者等ハ此ル異端ニ向テ熱心ニ抵排ヲ試ミザルベカラザル也時トシテ義トセラルテフ教理ニツキ言ヲナスモノアリ曰ク吾人ハ主キリストノ義ニ由テ神ノ聖前ニ義トセラルベキモノニシテ主キリストノ義ハ恰モ吾人ノ上衣ノ如キモノナリト此ル思想ハ必ズシモ誤謬ナリト言フ能ハスト雖モ新約全書中ノモノニアラザルナリ而シテ往々此ル義ノ上衣ヲモテ其罪ヲ掩フノ危險アルモノトス若シ人之ヲ犯

サバ聖パウロノ所謂善を來らせんとて惡を作は宜からず斯る人の罪せらる可は宜なり〔羅三〇八〕トアルガ如クナラン耳抑モ贖罪ノ意味ヲモテ如此附會セバ主キリストノ世ノ罪ノ挽回ノ祭物ナルヲ信スルノ士ハ後日主キリストノ審判ヲ受ケ納レザルモノトナラン然レトモ此ハ是レ異端ニシテ哥後五〇十ニ記サレタル「われら必ず皆キリストの臺前に出で善にもあれ惡にもあれ各々身に居て爲し所のこと」に循ひ其報を受くべき者也トアルニ正ニ相撞着ス此ル異端ヲ防ンニハ熱心ニ終ノ審判ヲ宣ベ傳ヘザル可ラズ終ノ審判ニシキテハ聖パウロガ凡テノ人ニ對ヒ信仰ニ由リテ義トセラルベキ事ニツキ説教セシ條中ニ於テ主ノ畏ルヘキ事ト記ルサレキ而シテ聖パウロ彼自身ニ於テモ之ヲ深ク胸中ニ記憶シ熱切ニ此ル重要ナル義務ニ精勵セリ

使徒時代ノ人々ノ如ク今ノ世ノ人々モ亦々時トシテ神ノ恩ト福音ノ教ヲ已ガ物慾ニ代ユルコトヲナス而シテ又傳道者ノ或者等ハ神ノ恩ノ福音ヲモテ只道德上ノ教トシテ之ヲ説ク此ハ恐ルヘキ誤謬ニ屬ス鳴

呼昔時使徒等ノ福音宣傳ニ由テ起レル異端ニ髣髴タルモノ今ノ福音宣傳ニ由テ起ルトセンニハ蓋シ此ハ何等ノ證據ナルベキヤ言フ迄モナク蓋ハ吾人が現ニ説ク所ノ贖罪ノ教ハ使徒等ガ其昔時ニ於テ説キタルモノト同一ナルノ證據ナルベキナリ雅各書ハ主キリストノ福音宣傳ニ對シテ往々起ラントスル行ヲ兼サル信仰ニ由テ救拯ヲ得ベシトノ危險ナル思想ヲ豫想セルモノ、證據トシ見テ可ナランカ而シテ此ハ復主キリストノ死ハ人間ニ救ヲ與フルモノニアラズ其死ノ唯一ノ目的ハ新道德ヲ人類ノ間ニ興スコトナリトノ思想ハ決シテ初代ニ於ケルキリスト教會建設者等ノ教ヘシ所ニアラサル事ノ證明ナリトス

贖罪論

第七章

主耶蘇基督贖罪論

第七章 贖罪ノ事實ニ關スル聖パウロノ證明

吾人ハ上來聖ペテロヨハ子ヤコブ杯ガ贖罪ノ事實ニ關シテ與ヘタル證明ヲ考究セリヤコブハ主キリストノ兄弟ニシテ他ノ二人モ亦其親シキ友ニテアリキ彼等ハ三年間主キリストニ親炙シテ其薰陶ヲ蒙リタル所ノ者ナリ甦ノ後主ハ此三人ニ屢己ヲ顯ハシ玉ヒテ天國ニ就ケル事杯詳シク語り給ヘリキ(徒一〇三)主ハ其ノ生涯ト其ノ苦楚ト其死ヨリ甦リ給ヘル歴史トヲ世ノ人々ニ告ゲ示メシ且ハ悔改ト其ノ名ニ縁テ罪ノ赦ノ與ヘラルベキヲ萬國ニ行キテ宣ベ傳ヘサセンガ爲メ(路二四〇四六ヨリ四八マデ)ペテロトヨハ子ヲ選任シ給ヘリキ故ニ此ル緊要ナル點ニ就キ即チ神ガ人間ノ罪ヲ赦シ給フノ理由ニ就キテハ彼等決ノ主ノ聖旨ヲ誤解スルガ如キハ萬々アルベカラザルノコトナリトス但シ是特別ナル默示並ヒニ其ノ三年間主ニ親炙シタルヲ以テ自ラ

其聖旨ヲ知得シタルヲ以テ也然レモ聖パウロニ至テハ贖罪ノ教義ニ關シテ之ヲ説キ教ユルノ權彼等三人トハ自ラ異ナル所アリテ存ス聖パウロハ主キリストノ在世中途ニ主ヲ知ルニ至ラサリキ然レモ彼ハ天ノ現示ヲ見キ(徒二六〇一九)則チ主キリストハ彼ガダマスコニ往カントスル途上ニ於テ陽ノ光ヨリ尙ホ一層輝キアル光明ノ中ニ於テ其自ヲ彼ニ現ハシ玉ヘリキ彼ハ確ニ其聲ヲ聞キ彼ハ主ガ特ニ默示シ玉ヒタル眞理ノ證明者タルベキノ命ヲ受ケタリキ主ハ特ニ選シテ彼ヲ異邦ニ遣ハシ給ヒヌ徒二六〇一八ニ記シテ彼等の目を啓き暗を離れて光に就きサタンノ權を離れて神に歸せしめ彼等をして我を信するによりて罪の赦と聖られし者の中に於て業を受るとを得させんが爲なりトアルガ如ク當時聖パウロガ不思議ノ業ヲ行ヒ得タル事實ハ是レ廣ク世人ニ對シテ彼ノ接シタル現示ノ眞實ナリシヲ證明スル所ノモノナリ又其ノ彼ガ宣ベ傳フル教ヲ聞ケルモノ、心ノ中ニ神ヲ認ムルニ至ラシムルハ其ノ説ク所ノ眞誠ナルヲ證明スル所ノモノナリ

彼ハ其ノ改心前既ニナザレノイエスノ生涯ノ一班ニ就キテハ知ル所アリシナラン則チ主ノ十字架ニ釘セラレ給ヒシ事及ビ其弟子等ガ主ハ死ニ勝チテ甦リ天ニ昇リ給ヒシテ事ナド宣傳セルヲバ知リ居タルナリ主ノ死後六七年彼ハ都エルサレムニテリシガ當時キリストノ門徒等ト非キリスト派ナルユダヤ人トノ間ニ烈シキ爭論ヲ惹キ起シヌキリスト教徒ナル新團體ハ著シキ速力ヲモテ新會員ヲ得ツ、アリキ故ニ祭司モ多ク信仰ノ道ニ從ヘリ(徒六〇八)トハ蓋シ當時キリスト教ガ如何ニ進歩セシカヲ證明スルノ語句ナリトス聖パウロハ最初ノ殉教者ナルステパノノ死ニ當リテヤ彼ハ其衝ニ當リテ其死ヲ賛シテ投票シキ故ニ彼ハキリストノ朋友タル徒弟等ガ常ニキリストノ生涯ニ付キ語リシヲアルヲ知リ居タルヤ明ナリ彼改心ノ後暫クダマスコニ留マリテ信徒ト俱ニ其禮拜ニ列リ其説教ヲ聞キヌ彼ハ又時トシテ親シク主キリストノ奇蹟ヲ見其教ヲ聞ケル人々ニ接シテ其物語ヲ聞ケルヲモアラン然レモ彼ハ其宣傳スル所ノ教理ハ敢テ之ヲ他人ニ受

ケ又教ヘラレタルモノニアラスシテ主自ラ彼ニ示現シ玉ヘルモノナルヲ明言セリ加拉太一〇十一、二ニ曰ク「兄弟よ我なんぢらに示す我會テ爾曹に傳へし所の福音は人より出づるに非ず蓋われ之を人より受ず亦教られず惟イエスキリストの默示に由て受たればなり」ト此ハ主ノ靈彼ノ心ニ福音ノ眞理ヲ悟ラシメシヲ云フ者ナリ蓋シ其然ルハ彼ガ奇跡ヲ行フノ力ヲ有スルニ由リテ證セラル、ナリ羅十五〇十九ニ「キリスト我を助て異邦人を順從しめん爲に休徴と奇跡の能と神の靈の能を顯し」ト記セリキ此ハ未ダ彼ヲ見ザル羅馬ノ教會ニ書キ贈レル所ノ者ナリ然レモ彼ハ其自ラ勅建セル哥林多教會ニ書キ贈レル書中ニモ奇跡ヲ行フノ能アル旨ヲ示セリキ即チ哥後十二〇十二、ニ曰ク「われ休徴と奇跡と妙用をもて爾曹の中に多く忍びて使徒の證をなせり」ト以上ハ是レ聖パウロ彼自身ノ權威ノ天出ナルヲ證センガ爲メ記セル所ナルヲ以テ彼ガ受タル默示ニ付キ語ル所ナシ讀者ハ必ズ主ガダマスコ途上ニ於テ聖パウロニ現ハレ彼ニ命シテ往ケ而シテ異邦人ニ

宣傳ヘヨト仰セラレキヲ了知セラル可シ而シテ異邦宣教ノ目的ハ彼等異邦人ヲシテ罪ノ赦ヲ受クルノ機會ヲ與フルコト徒二六〇一八是ナリコトヲモテ彼ガ説ケル教理ノ中ニ於テ神ガ罪ヲ赦シ給フノ理由「贖罪ノ教理」ハ是レ天ヨリ降ル權威ヲ有スルノ言ナリトス蓋シ此點ヲ確メ置クハ他ノ考究上最モ必要ナリ何トナレバ此點ノ確立ハ多大ノ證據ヲ供スレバナリ

初メ基督教會ノ内ニアリテ聖パウロ福音ヲ宣傳スルテ事ニ付キテハ烈シキ反抗アリキ且聖パウロガ異邦人ニシテ信者トナルモノハ必ズシモモトセノ禮式ニ遵フノ要ナシト宣言セル語ヲ執ヘテ教會中ノ有力ナル一派ハ甚シク之レガ爲ニ憤激セリ例バシリヤ國アンテオケ教會ノ信徒ハ多クハ異邦人ナルヲモテ凡ソ信徒タランモノハ割禮ヲ受クベシテフコトニ付キテハ烈シキ議論ヲナシタリキ而シテユダヤ律法崇拜ノ一派ハ聖パウロハ其朋友等ノ權威ヲ承認スルコトヲセザリキ此ク相互ノ意見衝突セルヲモテ彼等ハ俱ニエルサレムナル使徒及ビ

長老等ノ判定ヲ請フニ至レリ之ヨリ先キ十二年間聖パウロハ會テ足
ヲエルサレムニ停メタルナカリキ但五年前少時此ニ在リテペテロ
及主ノ兄弟ヤコブニ會見セシノミ然レモ他ノ使徒等トハ會テ相見ル
コトナカリシガ此ノ時彼ハ久シ振ニ首都エルサレムニ在リキ彼ハ自
家ノ議論ヲモテ使徒ノ前ニ爭辨スルガ如キヲアランニハ甚シク憂ヒ
シナラン故ニ彼ハ之ヲ防カンガ爲ニ公會大會議ノ前ニ當リ重ナル人
々ト親シク相ヒ談スルヲナセリ彼ハ此ノ相談ノ席上ニ於テ彼ガ十
一年間經營辛苦ノ末漸クニシテ建設セルキリスト教會ニ對シテ宣傳
セル福音ノ如何ヲ事詳細ニ説明セリ彼ハ公會ノ分離ヲ來サンコトニ付
キ痛ク考慮ヲ煩ハセリキ大會議ハ正ニ開カレタリ議論ハ宛然アンテ
オケ教會ニ於ケルカ如ク激烈ナリキ故ニ若シキリストノ死ト人類赦
罪ノ關係トニ付キ聖パウロノ教ユル所ト十二使徒ノ教ユル所ニ異點
ノ存スルアリモセバ其議論中ニ於テ赤裸々トシテ露呈セラレタルベ
キナランモ然モ其異點ニ付キテハ少シノ徵證サヘアルコトナシ是レ蓋

シ聖パウロノ説ク所ノ福音ト十二使徒等ノ説ク所ト敢テ異ナルナキ
ヲ明證スルモノニアラズヤ而シテ議論ハ唯左ノ一點ニノミツキテ行
ハレヌ即チ異邦ノ信徒ハユダヤ宗教ノ禮式ニ遵フ可キヤ否ヤテフ點
是ナリキ議論ハ終結ヲ告ゲ議會ハ閉ラレ又聖ヤコブヨハ子ペテロ等
ハ其右ノ手ヲ予ヘテ聖パウロト交ヲ結ビキ彼等ハ彼等ノ衷ニ在リテ
働キ給フ聖靈ハ又均シク聖パウロノ衷ニ在リテ働キ給フヲ承認シヌ
聖パウロハ確ニ異邦宣教ノ使命ヲ領セルモノナルヲ疑ハサリキ信仰
ノ教ニ就キテハ兩者少シノ異點ナク使徒等ハ聖パウロノ説ク所ハ主
キリストノ説キ玉ヒタル教理ノ真正ナル發表ナルコトヲ言ヘリキ
贖罪ノ教理ニツキ聖パウロノ證明ヲ聖書中ノ全體ニ比論シテ詳悉ナ
ランコトハ余ノ爲サントスル處ニ非ス故ニ吾人ハ最モ簡短ニ主キリス
トノ死ノ目的及結果ニ就キ彼ガ其説教中ニ表ハシタル思想ヲ三四ノ
重要ナル書ト比較シテ以テソノ贖罪ノ教理ニ就ケル證明ヲ明ニセン
ト欲ス聖パウロハ特ニ異邦人ノ使徒トシテ選バレタルモノナリト雖

凡其ノ彼ガ初メテ説教セルハユダヤ人ニ對シテナリキユダヤノ風俗ニヨレバ會堂ニ於テハ獨リ教ノ役者ノミナラズ熱心ナル信者モ亦講説スルヲ得タリキ故ニ若シユダヤ人ナル信者ニシテ重要ナル思想ヲ懷抱センニハ會堂ニ於テ自由ニ宣教スルノ權利アリコトヲモテ彼ハ其ノユダヤ人ニ嫌忌セラル、ニモ拘ハラズ會堂ニ於テ憚ラズ宣教セリ彼ハ改心ノ後直ニダマスコ市ノ會堂ニテナザレノイエスハ神ノ聖子ニユダヤノ預言者等ガ會テ其ノ諸書中ニ指示セルメシヤナルヲ論ジヌ(徒九〇二十、二十三)聖ルカハ此時ニ於ケル彼ノ説教ノ材料ノ如何ナルモノナリシカヲ告グルナシ故ニ吾人ハ當時ノ説教ニ於テ彼ガ主キリストノ死ト贖罪ノ關係ニツキ説ク所アリシヤ否ヲ知ルヲ能ハザルナリ其後彼ガ小アジアギリシヤ等ノ諸會堂ニ於テ宣べタル多クノ説教中唯ダーノミ聖ルカニ由テ吾人ニ傳ヘラレヌソハ徒十三〇十四、ヨリ四十一迄ニ載セラル、所ノモノニシテビシデアノアンテオケ會堂ニテナサレタル所ノモノナリキ此ハ彼ガ爾曹は主キリストに

從ヒ且彼を信せざるべからずトノ題ニテユダヤ人ニ對ヒ爲シタル説教ニシテ彼ガ主キリストニ從ヒ且信スベキノ理由ヲ彼等ニ與ヘタル一例ナリ彼ハ其説教中ニ於テ始メニ神ガユダヤ國民ヲ選民トシテ選ビ給ヒシ事ヲ説キ次ニユダヤ初代ノ歴史ニ遺サレタル神ノ諸ノ恩恵ヲ説テ其記憶ヲ新ナラシメ特ニ神ガ來ルベキ聖國ノ前表マタ預言タルベキガ爲ニユダヤ王國ヲ建テ給ヒシヲ説ケリ彼ハ又神ガダビデニ下シ玉ヒタル約束ヲ拈出シテ神ハダビデノ裔ヨリ救主ヲイスラエルニ下シ玉ヒシヲ斷言セリ彼ハ主キリストニ就キバプテスマヨハチノ證明ヲ引照シタリキ而シテエルサレムノ有司ト民等ガ主ヲ棄テ之ヲ殺シ之ヲ葬リタルトヲ語リ又主ガ死ヨリ甦リ給フハ古キ聖書ノ預言ニ適スルモノナルヲ斷言シタリキ彼ハ此等ノ點ヲ説キ去リタル後「然ば人々兄弟よ此人に由て罪の赦の爾曹に傳はるを知爾曹モ一々の律法に依て義と爲ること能はざる凡の罪も信する者は皆かれに由て赦され義とせらるゝなり」ト説キ(徒十三〇三十八、九)主キリストノ死ト

赦罪ト義トセラレ、トトノ關係別言スレバ其赦罪ノ理由ニ至リテハ一モ説ク所ナキモ然モ彼ハ此言ヲモテ確ニ主キリストヲ信スルニヨリ罪ノ赦ヲ受ク可キヲ教ヘタリ此ニ由テ吾人ハ神ガ約束シ給ヒタル救主ハイエスキリストニシテユダヤ人ノ待チ望ミタル主モ又主キリストナルヲ知ルヲ得加之モノセノ律法ニ依リ正ニ義トセラレ、ト能ハザル凡ノ罪モ主キリストヲ信スルヲニ由テ赦サレ義トセラレ、トナリト而シテ彼ノ教ヘシ所ノ救トハ内部即チ性質ノ變化ニ由テ來ルニ非ズ直ニ外部ヨリ來ルモノナリ即チ主キリストガ人類ノ爲ニナシタルモノナリト知ラル、ナリ

異邦人ニ對スル聖パウロノ説教ハ一ハルステラニテ市民等ガパウロトバルナバニ對ヒテ神ニ寄スルニ相應ハシキ尊敬ヲモテ彼等ニ寄セントセシ時ソヲ拒絶セントテ爲セルモノニハアデンスノアレヲ山ニ於テ特ニ偶像ノ拜スヘカラサルヲ論シタル者ナリトス彼ハアレヲ山ノ説教徒一七〇二二、ヨリ三一マテノ終結ニ於テ世界ノ審判ヲ説キ神

ハ主キリストヲ立テ、人々ヲ鞠キ玉フ可シ蓋シ神ガ主キリストヲ甦ラシメ玉ヒシハ世界審判ヲ彼ニ托セ玉ヒシノ明證ナリト云ヘリキ而シテ彼ハ罪ノ悔改ニツキ説示セシモ罪ノ赦シニ付キ一ノ語ル所ナク唯主ガ裁判官ニテ在スヲノミ指示セリ然リト雖モ如此ハ決シテ彼ガ異邦人ニ對シテ爲シタル説教ノ常體ニハアラザリシト見ユ惟フニ如此ハ格別ナル體裁ナリシナラン歟使徒行傳ニ記サレタル他ノ説教モ亦是レ普通ノ體ナラズシテ格別ナルモノナリキ此等ノ三者ハ皆均シク彼自身改心ノ模様ヲ語ルニ止マリシノミ右ノ外エペン教會ノ長老等カ集リタル席上ニ於テ彼等ガ忠義ナル者トナルベク勸説セル一段ノ説教アリ其言ニ曰ク爾曹自ら慎み且爾曹ガ聖靈に立てられて監督とされる其全群を慎み主の己が血をもて買ひ給ひし所の教會を救ふ可し(徒二十〇二十八)ト以上ハ是レ聖ルカガ彼ノ説教トノ吾人ニ傳フル所ノ者ナリ吾人ハ今彼ガ其著書中ニ自家ノ説教ナリトシテ引用セル説教ニヨリテ彼ノ説教ニ付キ一層能ク了解スル所アルベシ

彼ハコリント人ニ向ヒ哥前一〇十七ニ於テキリストの我を遣はし、
は「パウテスマ」を施さん爲に非ず福音を宣傳へさせんが爲めなり」ト云
ヘリキ彼ハ福音ヲ宣ベ傳フルハ即チ主キリストノ死ヲ宣傳スルコト
ナリトノ思想ヲ有シタリキソハ「われに言の智慧を用しめ給はず是キ
リストの十字架の虚くならざらん爲なり」トアルニ由テ明ラカナリ彼
ガ説教ノ主點ハ主キリストノ十字架ニアリ故ニ彼ハ此ノ與義ノ人々
ニ了解セラレザランコトヲ恐レテ卓越ナル學術上ノ見識ヲ語リ若クハ
流暢華麗ナル辨舌ヲ弄スルコトヲナサバキ彼ハ第十八節ニ於テ其宣
傳ふる所は是れ十字架の教にして信せざるものに取りては愚なるも
のなりト記シヌ而ノ又二十二節ヨリ二十四節ニ於テ「ユダヤ人は休徵
を乞キリシヤ人は智慧を覓む我儕は十字架に釘られしキリストを宜
傳ふ即ち此はユダヤ人には礙く者キリシヤ人には愚なるものなり然
ぞ召れたるものにはユダヤ人にもキリシヤ人にもキリストは神の大
能また神の智慧なり」ト記シヌ

次ニ聖パウロハコリント人ヲシテ彼ガコリント人ト俱ニ居リ且其説
教ニヨリテ偶像教ヲステ、キリストヲ信スルモノトナリシヲ憶起セ
シメンガ爲メ哥前一〇一、二ニ於テ「兄弟よ我曩に爾曹に到りし時も言
と智慧の美たるをもて爾曹に神の證を傳へざりき蓋我イエスキリス
トと彼の十字架に釘られし事の外に爾曹の中に在て何をも知まじト
意を定められたればなる」ト云ヒキ此等ノ諸點ニ就キ一考シ來レバ彼ハ何
ガ故ニ其説教中主キリストノ十字架ニ釘ラレ給ヒシコトニ尤モ精力ヲ
注ギテ語ルコトヲナシタルカノ感ナクンバアラズ蓋ハ彼ハ決シテ固陋
ニシテ物ニ凝滞スルノ人ニ非ズ彼ハ善ク人ニ應テ道ヲ説クノ法ヲ熟
知セリ故ニ彼ハ多クノ場合ニ於テ頗ル鄭重ナル言語ヲ用ヒ慎ンテ人
ヲ怒ラシムルコトナク常ニ聽ク者ヲ喜ニ滿タシムルノ説法ニ熟練セ
リ例令バ彼ガ「アグリッパ」王ニ向ヒ「特に幸なるは爾エタヤ人の例と彼
等が論ずる所の端緒を悉く知り玉ふ事なり」ト云ヒシガ如ク彼ハ開口
先ヅ頌讚ノ語ヲ放チタリキ（徒二十六〇三）又「アデンス」ニ於テキリシヤ

人ニ對ヒテ教ヲ説ルノ時ニ當リ彼ハ自家ノ所説ヲ確メンガ爲ニギリシヤ詩人ヲ引照ナシタリキ(徒十七〇二十八)又其ユダヤノ有司ノ前ニ訴ヘラレシ時彼機敏ニモバリサイ宗徒ノ黨心ニ訴ヘテ「我ハバリサイの人まれバリサイ人の子なり死たるもの、甦るとを望に因て我今審る」(下ハ徒二十三〇六)云ヒ又此等ノ例ニ田テ之レヲ見レバ彼ハ其豐富ナル知識ヲモテ巧ニ聽者ノ心ヲ操縦シヌ彼既ニ如此ク機智ト才能トヲ有ス彼何ノ目的アレハ爾ニ好ンデ丁寧反復十字架ノ死ヲ宣説スルカ有名ナル學者リーンズタンレー曰ク「凡ソ十字架ニ釘セラル、ハユダヤ人ノ思想ニ取リテハ一障礙物ニシテ且メシヤ即チキリストニ就キテハ多大ノ醜辱ヲ蒙ラシムルモノナリトシテ考ヘラレギリシヤロマニ於ケル學識アル輩ニハ十字架ノ教ハキリスト教ヲシテ却テ卑陋ナラシメ賤視セシムルモノトシテ思惟セラレタリ言フ迄モナク聖パウロノ願望ハ其ユダヤ人ト異邦人ナルトニ拘ラズ皆主キリストヲ神ノ聖子人類ノ教主ナルヲ承認セシムルコト是レナリキ然ルヲ彼何カ故

ニユダヤ人ト異邦人トニ拘ラズ均シク嫌惡セル此ル事實ニ付キ多ク語ルコトヲナシタルカ蓋シユダヤ人等ガ十字架ノ教ヲモテ領ケ難キモノトスルハ是レ彼等ガ不信ノ口實トスルモノニハアラザルカナザレノイエスハエルサレムニアルユダヤ人ニ由テ拒絕セラレ遂ニ十字架ニ釘ケラレ給ヒヌ故ニエルサレムニアラザル他ノ諸國ノユダヤ人等ガ主キリストヲ救主トシテ戴クヲ肯スベキノ理由トハナラザルナリエルサレムニ在ルユダヤ人等ハイエスノ如何ヲ熟知シナガラ其教ヲ棄テ特ニユダヤノ大法庭ニ於テ主キリストニ死刑ヲ宣告セルハ明白ニキリストガ人ヲ欺ク者ナルコトノ證據ニハアラズヤソハ兎ニ角聖パウロハ其説教ニ於テ主キリストノ十字架上ノ死ヲ宣言セリ此ハ其死ノ主キリストノ目的及ヒ働ニ密接ナル關係ヲ有スルモノナレバナリ

主キリストノ以前ニアリタル先覺者及ビ大改革者等ハ政治上ノ嫉惡或ハ民ノ暴怒ニ觸レテ殺サレシモ聖パウロハ主キリストノ死ハ彼等

ノ死ト大ニ異リタル者ナルヲ宣傳ヘタリ例令バ彼ノプラトールハ其師
ソクラテスノ哲學ヲ唱道スルニ當リ師ハアデンスノ法庭ニ於テ死刑
ノ宣告ヲ受ケ遂ニ殺サレキハ宣ベタリキ然レモソクラテスノ死ノ故
ヲ以テギリシヤロマノ學識アル人々ハプラトール哲學ヲ以テ決シテ愚
ナルモノトハナサザリキ如此若シ聖パウロニシテ主キリストノ死ヲ
以テ單ニ殉教者ノ死ト全一ナルモノトナシタランニハ彼等學者輩ハ
決シテ其教ヲ愚ナルモノトハセザリシナルベシ

彼等學者輩ハ平素ユダヤ人ヲ蔑視セルモノナルヲ以テ其反動ノ情ト
シテ殘酷ナルユダヤ人ノ犠牲トナリタル者ノ教ハ却テ彼等ノ全情ヲ
惹キ起シ彼等ハ喜ンテ之ヲ納受セシナラン歟借テ聖パウロハ何ガ故
ニ其說教ニ當リ主キリストノ十字架ニ死シ給ヒシヲ肝要ナル者トシ
宣說セシヤ彼ハ何ガ故ニ凡テノ場合ニ於テ其死ノ聽者ニ取リテ頗ル
重要ナル關係アルヲ宣ベシヤ讀者ノ知レルカ如ク彼ハ一年ト六ヶ月
コリントニ在テ神ノ言ヲ宣傳セリ徒一八〇二當時ノ聽衆ヤ決シテ今

日ノ信徒ガ每安息日ニ聖堂ニ會シテ謹慎ニシテ諦聽スルガ如クナラ
ズ其說教中彼ハ常ニ聽者ノ質問ニ由テ妨ゲラレサテハ議論トナリテ
其煩ハシサ言フベカラズ彼ノ反對者モ亦同情者モ教理ノ中解シ難キ
節アレバ彼ガ説明ヲ請ヘリキ神ノ聖子ガ畏クモ十字架上ニ釘セラレ
給ヒシテフコハユダヤ人ニハ礙クモノギリシヤ人ニハ愚ナルモノニ
シテ議論ヲシテ紛々絶ヘザラシムルノ因子ナリキ若シ彼ニシテ此ハ
一大奧義ナリト云ヒシナランニハ人或ハ問フテ曰ハン神ハ何ガ故ニ
此事實ヲ承認セシヤ何カ故ニ卿ハ其說教ニ於テ主キリストノ教訓ト
ソノ不思議ノ事跡ニツキテハ只其僅少ナル部分ヲ説キノ死ニ付キ
テ太ダ多クヲ語ルヤト彼ハ其コリント人ニ贈レル前書ノ冒頭ニ於テ
彼ガ説ク教ノ主要ナル點ヲ記シテ曰ク初めに十字架の教またイエス
キリストと彼の十字架に釘られし事なりト(前一、〇一八、二、〇二)而ノ同
書ノ終ニ於テ彼ハ其ノ特別ナル要點ヲ指示シテ曰クわが爾曹に傳へ
しは我が受けし所の事にて其第一は即ち聖書に應てキリスト我儕の

罪のために死云々ト哥前十五〇三但シ此ハ彼ガ福音ノ初步トシテ人々ニ傳ヘシ所ナリ彼ガ其教ヲ説クニ當リテヤ主キリストガ人類ノ罪ノ爲ニ死シ玉ヒシテフコハ蓋シ其冒頭ノ語ナリキ此ル語ハ頗ル特異シ語ノ如シト雖モ其意味ハ必ズシモ了解シ難カラズ則チ試ニ一二文學ノ書冊ヲ緝カンカ吾人ハ之ニ類シタル文字ヲ發見スルニ難カラズ或ハ平談俗話ノ中ニサヘ之ニ類シタル語ハ輒スク見出サルベキヲ以テ吾人ハ其意味ヲ了解スルコトヲ得吾人ガ街路ニ放歌シ夜中人ノ安眠ヲ妨害シタル爲メ將タ公園ノ樹木ヲ手折リタル爲メ街路通行ノ妨トナルベキ露店ヲ出シタルガ爲ニ均シク皆違警罪トノ科料ニ處セラレ或ハ人ヲ傷ケタル爲メ竊盜ヲナシタル爲メ放火殺人ヲナシタル爲メ或ハ牢獄ニ投ゼラレ或ハ死刑ニ處セラレ、ニ非ズヤ如斯〇ニテフ語ハ意味明白ナルモノナリ時トシテ人ハ他ノ偽證ニ由テ冤罪ニ處セラレ或ハ法官ノ見込ヲ以テ罪セラレ或ハ人ノ重罪ノ爲ニ捲ゾヘラレ體憾ヲ飲デ絞臺ニ登ルガ如キ事ナキニアラズ然レモ彼等多クハ熱心ニ

冤枉ノ罪ヲ鳴シテ而シテ死ヲ遂グルヲ例ナリトス然リト雖モキリストニ關シテハ以上ノ如クナラズキリストハ其宣告ニ對シテ言遁ノ言ヲ設ケズ自ラ喜ンデ死ニ就キ玉ヒヌ實ニ彼ハ無罪ニシテ我儕人類ノ罪ノ爲ニ其死ヲ遂ゲヌ吾人ハ之ヲ聞テ珍異ノ情ヲ惹キ起シ動モスレバ正當ナラザル事ナリト思惟ス然レモ聖パウロハ此人々ニ告ゲンガ爲ニ特ニ天ヨリ授ゲラレタル福音ノ初步ナルヲ明言セリ

主キリストガ人類ノ罪ノ爲ニ死シ玉ヒタル事實ヲ確信シ宣敎ノ第一着歩トシテ其ノ死ヲ論ズルヲモテ聖パウロノ説ク所ハ通常「十字架ノ敎」ト稱セラレタリ此ハ決シテ驚ク可キ程ノ事ニハアラザルナリ蓋シ主キリストガ人類ノ罪ノ爲ニ死シ玉ヘルコトヨリ主ト凡テノ人類トノ間ニハ各々骨肉ノ如キ格段ナル關係ヲ有スルニ至リヌ其關係タルヤ父子ノ間ヨリモ寧一層密接ナルモノアリ凡ソ世ニ於テ此クマデニ密接ナル關係ヲ有スルモノ又他ニアルベカラズ而シテ此關係コソ現世ト來世ニツキ人ノ有スル希望ト畏懼ノ岐ワカレニノ又總テ人類ノ歴史ト

目的トテ支配ス如此主ノ死ハ甚ダ奇異ナルモノニシテ又驚ク可キ事實ナリ此事實ホド吾人人類ニ取リテ切要ナルモノハアラザルナリ聖パウロガ其說教中ニ於テ之ヲ主要ノ點ナリトセシハ又已ムヲ得ザルノ事ナリトス而シテ聖パウロガ此ノ事實ヲモテ其說教中ノ上位ヲ占ムベキモノトセシ理由尙他ニ一アリ夫レ主キリストガ聖パウロニ命ジテ異邦宣教ヲナサシメ給フ主一ノ目的ハ異邦人ガ罪ノ赦ヲ受ク可キ事是也故ニ若シ主キリストニシテ果シテ吾人ノ罪ノ爲メニ死シ玉ヒシナランニハ其死ト赦罪トノ間ニハ込ミ入りタル關係アルナルベシ故ニ主ノ十字架ニ釘セラレ給ヒシ事實ヲ宣傳スルハ使徒タルノ使命ヲ拜セルモノ、緊要ナル義務ナリトス之ヲ以テ聖パウロガ其ノ說教ニ當リテ主ノ十字架ヲ宣說スルハ是レ蓋シ聽者ヲシテ各其教ヲ其身ニ引キ當テ、主ハ己レヲ爲メニ十字架ニ釘セラレ給ヒシトノ感覺ヲ惹キ起サシメンガ爲メナリシナリ此ル事實ノ説明ハ事實ソレ自身ヨリモ寧人心中心ニ之ニ反動シ之ヲ嫌忌スルノ情ヲ惹キ起サシメタリ

之ヲ例センニユダヤ人ノ如キハ其アブラハムノ裔ナルノ故ヲモテ神ノ刑罰ヲ免ル、ニ足ルトセリ故ニ彼等ハ此點ヨリシテキリスト教ヲ嫌忌スルヲセリ聖パウロ曰ク凡テ人類ハ其ユダヤ人トキリシヤ人トニ拘ラズ皆罪人ニシテ主キリストハ獨リギリシヤ人ノ罪ノ爲メノミナラズ又ユダヤ人ノ罪ノ爲メニモ死シ玉ヒキ而シテユダヤ人ノ割禮ナルモノハ決シテ神ノ特別ナル惠ノ方法ニアラズトユダヤ人ノ思想ヨリスレバ此ル說教ハ甚ダシキ罪ナリトシテ考ヘラレキ是ヲ以テ彼等ニ向ヒテ主キリストノ十字架ニ釘ラレ給シヲ宣傳スルハ彼等ノ爲ニ礙ノ石ナリキ故ニ聖パウロハ加拉太五〇十一、三「我もし今も割禮を宣ば何ぞ窘らるゝ事あらんやもし然せば既にや十字架に礎くこと止まる可し」ト云ヘリキ

ギリシヤロマノ學識アル人々ハ以爲ラク聖パウロハキリストノ新宗教ヲシテ十字架ニ由リテ却テ之ヲ卑陋ナルモノトセリ即チ乞食奴隸ノ如キ下等ナル輩ニ適ハシキ宗教トナシ下ダシタリトシテ之レヲ忌

ミ嫌フコトヲナセリ加之彼ガ十字架ノ教ヲ説明スルハ是レ凡テ聽衆ヲ蔑セルモノナリト蓋シ此ハパウロガ爾曹縱ヒ自ラ知ラザルニモセヨ悉ク皆罪人タルヲ免レズ而シテ神ハ爾曹ガ願ハザルニ方リテ前ニ已ニ其罪ノ赦ヲ與ヘ玉ヘリ然ルニ爾曹ハ管ニソノ必要ヲ認メザルノミナラズ如何ナル方ヲ以テスルモ罪ノ赦ヲ受クベキハ到底出來難キヲナリト思惟セリ下云ヘルヲ以テ也彼又曰ク身ヲ烟火蕭條タルガリラヤノ一寒村ヨリ出タル青年宗教家ハ優ニ知識ト道德トヲ有スルニモ拘ラスユダヤ人等ハ彼ヲ輕シ汝豈ニ牧師タルベキノ資ナランヤトテソノ教ユル所ヲ斥ケ遂ニハ極メテ醜辱ナル刑罰ヲモテ彼ヲ殺スニ至リキ然レモ彼ノ死ハ實際人類ノ各階級ノ爲ニ死シタルナリ吾人ハ唯彼ニ由テノミ罪ノ赦ヲ受クルヲ得ル下此レ聖パウロノ說教ノ大意ナリギリシヤロマノ教育アル人々ハ此ル說教ヲ聞キテハ殆ンド狂氣ノ沙汰ナリトシテ顧ミルコトナク天ヨリ降りシ教ノアル杯トハ到底アラルベキ筈ナシトテ之ヲ嘲笑セリ斯如キリスト十字架ニ釘ケラレ

タル教ハユダヤ人ニハ礙クモノギリシヤ人ニハ愚ナルモノナリキ上來陳ベタルガ如ク聖パウロハ其說教ニ於テ常ニ主キリストガ吾人人類ノ爲ニ死シ給ヘルヲ宣ベ傳ヘタリ而シテ彼ガ其死ヲ論ズルヤ漫然トシテ一定ノ目的ナク意義ナク語リシニアラズ其說教中ノ最大緊要ノ點トシテ說キタルヤ明ナリ

如今聖パウロノ書簡ニ據リ之ト同一ナル點ニ付キ少シク研究ヲ試ントス夫レ主キリストガ人類ノ爲ニ死シ給ヘリトノ教理ハ是レ無知無識ノ者ヲシテキリスト教ノ新信仰ヲ起サシムルニノミ必要ナル初步的ノ教理ナルカ將タ此ハ別ニ福音ノ深遠ナル意義ヲ指示スルノ教理ナルカ又彼ハ既ニ業ニキリスト教會ニ連リテ聖靈ノ示導ト訓誨トヲ受ケタル人々ニ宛テ贈リタル書簡中ニ於テ此ル言ヲ用ヒシカ彼ノ記セル書簡ハ主ガ人類ノ爲ニ必要ナル外部的働ヲナシ給ヒシヲ指示スルカ此ノ外部的ノ働ハ主ノ死ト相關スル所アルカ又其書中ニハキリストノ死ト人類赦罪トノ間ニ緊要ナル關係アルヤ否ヲ指示スルカ

以上ノ問題ニツキ以下少シク之ヲ剖拆セン

基督教會ガ今日ニ至ル迄保存セル書簡ノ中ニアリテ聖パウロガテサロニゲ人ニ贈レル前書ハ彼ノ最初ノ著作トシテ諸人ノ承認スル所ナリ此ハ彼ガテサロエゲニ於テ洗禮ヲ施セル後其所ヲ去リテ間モナク書キ記シタルモノナリ而シテ本書ヲ認ムルニ至リシ由來ハ蓋シテモテガ彼ノ許ニ來リテ左ノ二事ヲ告ゲシニ由ル即チ(一)テサロニゲ人等ガ道德上ノ危険ニ瀕シ居ル事及ビ(二)彼等ガ種々ナル異端ヲ考究スルニヨリテ其益ヲ享ケンヨリモ却テ信仰ヲ落スノ虞アル事はレナリテサロニゲ人等ハ曾テ偶像崇拜者ナリシモ今ハ熱心ニ之ヲ棄テ、活ケル眞神ヲ禮拜スルモノトナリタリ(前一〇九故ニ彼等ノ聲譽ハ四方ニ高ク弘マリ彼等ノ熱心モ亦著シク容易ニ消失スル所アラザリキ然レモ其良心ハ未ダ充分ニ鍛練ヲ經ザル者ナルヲモテ其宗教的熱心ハ偶「クリスチヤン」ノ公德タルベキ謹慎ト紀律ノ振肅トヲ害スルノ虞アリキ聖パウロハ彼等ニ向テ神ヲ知ラザル異邦人ノ猥褻卑陋ナル習慣ヲ

捨ツ可キヲ勸告セリ(二〇三ヨリ八マデ)又主キリストガ榮光ヲモテ再ビ降り給フヲ待ツノ間ハ怠惰燥急固陋等ノ惡弊ニ墮ルコトナク平穩謹慎ニシテ各自ノ職務ニ従事スベキヲ勸メヌ若シパウロニシテ(キリスト)ノ贖罪ハ内部的即人ノ心ノ内ニノミ相關スル者ト信ゼシナランニハ恐ラク彼テサロニゲ人ニ書キ贈ルニ左ノ如キ語ヲ以テセシナランカ曰ク「汝等ノ信仰ハ堅確ニシテ汝等ノ仁愛ハ熱心ニヨリテ充サレヌ然レモ汝等ノ道德ハ未ダ甚ダ不完全ナリ主ニ由テ吾人ノ受ク可キ救拯ニツキ汝等ノ思考フル所モ亦頗ル錯レリ加之主ノ再臨ヲ熱望シ或ハ贖罪ヲモテ理未兩世ニ於ケル外部ノ幸福ト相關スルトシ思フハ大ナル誤謬ナリ又人類ガ解キ放タルベキハ唯タ罪ノ繯絆ヨリノミ而シテ吾人ノ享クベキ榮ト譽ト永生トハ蓋シ各自ガ善人トナリシコトノ結果ナリト

然リト雖モ如此ハ固ヨリ彼ノ記ス所ニアラズ彼ハテサロニゲ前一〇十ノ後半ニ於テ來らんとする怒トハ云ヘリ又五〇三ニ記シテ曰ク「亡

滅忽ちに來らん_下此ハ悔改メザル不信仰ナルモノ、亡滅ヲ指セルノ言ナリトス此ノ亡滅ヨリシテ凡テ福音ヲ信ズルモノヲ救フハ是レイ
エス、キリストナリ_(撒前一〇十)又同五〇五、六、九、十ニ曰ク_(爾曹みな光の子ども盡の子ども也)われら夜に屬るもの暗に屬るものにあらず然ば我儕他人の寢るか如く寢るをせず醒て慎むべし蓋神我等を怒に遣せんとして定たるに非ず我儕の主エス、キリストに由て救を得しめんとして定め給ひたればなり_下由此吾人凡ノ信徒ハ皆光ノ子ドモ盡ノ子ドモノ如クニシテ生活セザルベカラザルノ必要アリ吾人ハ今本前書考究ノ結果トシテ左ノ三事ヲ決スルヲ得

第一、聖、パウロハ神ハ人類ノ罪ニ對シテ終ニ怒即チ刑罰ヲ與ヘ給フ可キヲ最モ明白ニ且ツ深く思考ナシタリキ而シテテサロニゲ人ニ對シテハ屢々此ノ點ニツキ語リタル事

第二、聖、パウロ及ビテサロニゲノ信徒等ハ此ノ神ノ怒ヨリシテ免レンガ爲ニ主キリストニ頼リシ事又聖、パウロハ將ニ來ルベキ怒ヨリ救ハ

レンガ爲ニハ先ヅ豫メ刻下ノ罪ヨリシテ解キ放タルベキノ必要アルヲ云ヒヌ然レモ來ル可キ救ハ只道德ノ進歩及ビ心靈上ノ變化ヨリ來リタル結果ノミニ非ズトハ彼ガ又最モ明ニ了悟セル所ナリキ言フ迄モナク彼レテサロニゲ信徒等モ亦タ未ダ完全クシテ聖キ性質ヲ備フルニハ至ラザリキ然レモ彼等ハ信仰ニ由リテ主キリストノ内ニ在ルモノナルガ故忽然トシテ降り來ルベキ亡滅ノ危險ヨリ救ハルベキモノナリキ蓋シ信仰ニ由リテ主ニ居ルモノハ二箇ノ救ヲ受ク則チ_(一)ハ罪ノ夤縁ヨリ自由ニセラル、_(一)ハ神ノ怒ヨリ免カル、事別言スレバ則チ内外兩部ノ救極ニシテ二者共ニ同時ナルト是ナリ

第三、外部ノ救ハ主キリストノ死ト緊密ナル關係アル事撒前五〇九、十ニ曰ク_下は神我儕を怒に遣せんと定たるに非ず我儕の主イエスキリストに由て救を得しめんと定め給ひたればなりかれ我儕の爲に死たり_〇是我儕をして醒たるも寢れるも彼と共に生しめんとてなり_下吾人ハ主キリストガ吾人ノ爲ニ死シ給フニ由リ幸ニシテ來ラントスル世

ニ於テハ神怒ノ下ニ正ニ亡滅サル可キ不信者ノ状態ト異ナル事及ヒ其兩者ノ間ニハ大ナル隔絶ノアルベキ事又主ノ再臨ノ前ニ當リテ既ニ世ヲ早メタルモノモ或ハ尙ホ生活ヲ保チテ目ノ當リ主ノ再臨ヲ拜センモノ苟モ信徒タラン者ハ皆均シク主キリストト俱ニ生クベキモノナル事

偕テ如何ナル理由アレバ吾人キリスト信徒ハ主キリストノ死ニ由リテ永遠ノ亡滅ヲ遁カレテ主ト偕ニ永遠ノ生命ト幸福ニ與ルヲ得ルカ切言スレバ(一)主キリストノ死ト(二)吾人ガキリストニ由テ神ノ怒ヨリ救ハルベキモノトナル事トノ兩間ニハ如何ナル關係ノ存スルカ而シテ此ノ兩間ニ存スル一要點ハ主ガ吾人ノ罪ノ爲ニ死シ給ヒシテフコト是ナリテサロニゲ人等ハ聖パウロノ説教ニ由リテ既ニ善ク此事ヲ知リ居タリ故ニ聖パウロノ書簡ニ記サレタルキリスト我儕の爲に死給ヘリトノ語ノ意ハ彼等ニハ能ク了解セラレタリキ聖パウロガ本書ヲ認メシハ其ノコリントニ住居シタル時ニノ當時彼ハ此ル敘理ヲ宣傳

シツ、アリキ夫レ主キリスト吾人ノ罪ノ爲ニ死シ給ヒシニヨリ(哥前一五〇三)其再臨ニ臨リ給フニ當リテヤ死生ニ拘ハラズ凡テ吾人ヲシテ神ノ怒ヨリ解キ放チテ自由ナルモノトナシ又永遠ノ國ニ於テ彼ト俱ニ住ミ圓滿ナル幸福ヲ蒙ラセ給ハン蓋シテサロニゲ前書中ノ中心點トモ見ル可キハ主ノ日ノ來ルコトナリトス其ノ日ニ及ビテハ凡テ悔改メザルモノハ極メテ苦キ刑罰ヲ蒙ル可ク信徒ハ圓滿具足セル幸福ニ與カルニ至ル可シ聖パウロノ曰ケルハ此ル苦キ刑罰ヨリ免ル、ト幸福ヲ受ク可キ事トハ唯是主キリストノ死ニ由ルノミト

主キリストノ死ヲ本書ニ記シタルハ是レ決シテ無意識的ニアラズ此ハ本書ノ重要ナル點ト密接ナル關係アルモノナリ而シテ主ガ吾人ノ爲ニ死シ給ヒシハ外部ヨリ來ルベキ一大危險ヨリ逃レシメンガ爲ナリ

之ヨリ進ンデ聖パウロガ加拉太人ニ贈レル書簡ニツキ討究セン
惟フニ本書ハコリント人ニ贈レル前後二書簡及ヒロマ人ニ贈レル書

簡ト同時ニ述作セル者ナラン歟右四書ハ共通ノ特質ヲ有ス有名ナル監督ライトフード其加拉太書講義ニ言ツテ曰ク「本四書ハ聖パウロガ其前後ニ記セル諸書ト異ナル二點アリ本四書ハ深厚ナル慈愛ト燃ユルガ如キ熱心トヲモテ記サレタル頗ル有力ナル述作ナリトス又四書中ニハ舊約全書ヨリ多クノケ所ヲ引照シ又多クノ問題ヲ掲ゲテ其論ヲ立テキ文體タルヤ多種異様ニシテ甚ダ直言的ナリ其他本四書ハ他ノ書簡ニ於テ用ヒザル譬喩ノ言ヲ設ケヌ蓋シ本四書ニ記サレタル教理ハ當時福音ニ反對セル諸異端ニ對シテ能ク辨證スルモノナリ就中加拉太書ノ如キハ右四書ヲ代表スル述作ト見テモ差支ナキナリト」本書ハ當時福音ニ關スル激シキ爭論ノ證明ナリトス但シ此爭論タル聖パウロト公會中ナルユダヤ黨ユダヤ教トキリスト教ヲ共ニ守ラント主張スルユダヤ人トノ間ニ起リタル所ノモノニシテ二者存廢ノ決スル分ケ目ノ爭鬪ニテアリキエルサレムノ公會々議ニ於テ講ゼラレタル和睦策ハ暫時間ノミ遂ニ永ク成功スルモノニアラザリキユダヤ

黨中ノ中庸派ハ議會ノ決議ヲ承認シタリシモ極端派ニ至リテハ全然之ヲ拒絕シヌ而ノ渠輩ハ聖パウロノ往ク所ニ隨ヒ在ル所ニ隨ヒヌ渠輩ハイエスヲキリストナリト承認セリ然レモ渠輩ハ己ヲモテエルサレム公會ノ信仰ト行爲トヲ定ムル儀型(代表者)ナリト自稱シ剩サヘ主ノ選ビ給ヒタル第一使徒等ノ權威ヲモテ教ヲ宣ベ傳フトハ云ヘリキ渠輩ノ主張スル主要ノ點ハ即チ異邦人ノ信徒ハ其義務トシテ割禮ヲ受ク可ク且ツモーセノ法律ヲ守ラザルベカラズトノ事ナリキ此ハ數年前已ニアンテオケ公會ノ煩ハセラレタル所ノモノニシテ「若なんぢらモーセの例に従ひて割禮を受ずば救ふことを得じ」徒十五〇(一)當時アンテオケ公會ハ此ル異端ニツキ使徒及長老等ニ對ヒテ如何ニ處スベキカ其訓令ヲ乞ヒタリキ夫レ聖パウロガ福音ヲガラテヤ人ニ傳フルヤ極メテ大ナル成功ナリキ今ガラテヤ人種ノ根元ヲ原ヌルニ彼等ハ元トケルト種族ニシテ小亞細亞ノ全部ニ蕃殖セルモノナリシモ爾來漸次中央ナル高地ニ集マリテ収縮スルニ至リキ彼等ハ其性燥急ニ

シテ且ツ激昂シ易キモノナリキ然レモ聖パウロノ教ニ耳ヲ傾ケシヨリ偶像ヲステ、主キリストヲ信ジ聖パウロヲ神ノ使人ナリトシテ喜ンデ之ヲ受ケ迎ヘヌ然ルニユダヤ黨人等ハ此ル新教會ニ來リテ惡シクモ教會ヲ攪キ亂シテ爭論ヲ始メヌ渠輩ハ曰ク割禮ヲ受ケザルモノハ凡テ神ノ國ニ入ル能ハズト又曰ク聖パウロハ眞正ナル使徒ニ非ス(固ヨリ彼ノ說教ニヨリテガラテヤ人ハ信徒トナリシニハ相違ナキモ)彼ハ何ノ地位モナク又福音宣傳ニ付キ一ノ權利アルナシトユダヤ黨人等ガ此ク淺間敷振舞フ一ノ報道一タビ聖パウロニ達スルヤ彼ガ一大驚ヲ喫セルヲ疑ナキナリ而シテ當時彼ハ或ハエペソニ在リシカ或ハマセドニヤヲ過リテアカヤニ向ヒ旅行シツ、アリシカ或ハコリントニ在リシカ今其處ヲ詳ニスル能ハザルナリ縱令其居所ハ何レナリシニモセヨ彼ハ此ル報道ニ接シテ痛心言フ可ラズユダヤ黨人等ニ對シテ憤慨ノ情禁ズル能ハズ自然輕侮心ヲ抱キタルベキハ是レ免ルベカラザルヲナリトス彼心ニ以爲ラク痛マシキカナガラテヤ人等ハ其

ノ無學ノ故ヲモテ割禮ヲ必要ナリトスル議論ノ由來スル所又其結果ノ如何ニ成リ行ク可キカヲ看破スルヲ能ハズシテ今ヤ石ヲ懷テ淵ニ臨メル人ノ如シ而ノユダヤ黨人等ハガラテヤ人等ノ無學ヲ奇貨トシテ自家ノ黨派ニ引キ入レンガ爲メ彫龍ノ辨ヲ弄スルハ實ニ卑劣臆病ノ行爲ナリ何ソ渠輩ハエルサレムアンテオケ等ニテ飽迄モ是非ヲ辨スルヲナサザリシカ何ガ故ニ渠等ハ余(パウロ)ト面前相會シテ議論ヲ上下スルヲナサザリシカト

ガラテヤ人ハ聖パウロノ教誨ニヨリテ初メテ偶像ヲステ、眞神ニ仕フルモノトハナレルナリ然ルニユダヤ黨人等ハガラテヤ人ニ對シテ聖パウロノ名譽ヲ汚シ且ツ其權威ノ存在ヲ否メリ是豈ニ如何ニ女々敷又局量狹少ナル所爲ニハ非ズヤ、是レ實ニクリスチアンノ資格ヲ没スルモノニハアラザル乎聖パウロハ思念一度此ニ至レバ滿身ノ情感烈火ノ如クニ炎ヘヌ彼ハ其熱ノ冷却スルヲ俟タズ直ニ筆ヲ援リテ書ヲ加拉太人ニ贈リヌ本書ヤ實ニ彼ガ憤懣ノ情ニ滿タサレテ炎々

燃ユルノ概アルヲモテ爾來千八百年ノ今日ニ至ルモ窓下几上靜ニ本書ニ對スレバ余焰ノ未ダ銷セザルヲ感ズ

本書ニ於テ聖パウロハ加拉太人ガ信徒トナリシヲニ付キテハ滿腔ノ愛情ヲ彼等ニ注ギテ同情ヲ表シタルモ然モ彼等ガ所信未ダ甚タ堅カラズ其變化シ易キヲ見テハ轉々憐憫ノ情ヲ禁ズル能ハザリキ第一、第二章ニ於テハ彼ハ自己ノ真正ナル使徒ナル事及ビ主キリストヨリ直接ニ其權威ヲ領セルヲ指示セリ第三章ニ於テ彼ハ多クノ問題ヲ掲ケテモ―セ律法ハ永久服従ス可キモノナラサルヲ論ジ始メタリ則チ曰ク「すでにイエスキリストの十字架に釘られし事を明かに其目前に著されたる爾曹よ誰か爾曹を誑かし、や」ト彼ハ既ニ加拉太人ニ向ヒテ主キリストノ死ニ就キテハ十分ニ説キ聞カセタレバ其ノ既説ノ教理ハ能クユダヤ黨人ノ誑惑ヲ防ギ得シモノナラントノ感想ヲモテ此クハ記シタルナランカ彼又曰ク「爾曹の聖靈を受けしはモーセの律法を行ふに由りてなるか將た又主イエスキリストを信するによりてなる

乎」ト爾曹前には聖靈の觸啓によりて其生涯を始め今は又外部の儀式に由りて全ふせらるゝと思ふ程にも愚なるものとはなりし乎爾曹が同じ國人なる未信の徒を離れて或は欺誑の言に乗せられ或は侮弄陷害せらるゝなど霜餐雪虐の中にあるは是れ徒事なる乎若し爾曹新しき使徒(即チユダヤ黨人)に聽くとなく割禮を受けざりしならんには爾曹のキリストに於ける信仰は徒然に歸せしならん乎神が聖靈を爾曹に注ぎ且爾曹の内にありて奇跡を行はしめ給ふは爾曹がモーセの律法を守り割禮を受けたるとに因てなるか將た又主キリストを信するとに因てなる乎」ト

以上ノ諸問題ハ以テ加拉太人ガ受ケタル新宗教即チユダヤ黨人等ガ教ヘシ所ノ愚蒙極リナキヲ證シテ餘リアルニ非ズヤ聖パウロハ此ル異端ヲシテ全然消滅ナサシメントヲ欲シタリ然レモ彼ハ又能クユダヤ黨人等ノ議論ノ根據ノ頗ル鞏固ナルモノナルヲ知りヌ何トナレハ彼ガ曾テ獻靖ノ途ニ上ラントスル時ニ當リ其心中這般ノ問題ニ付キ

大ニ疑惑スル所アリシハ今尙記シテ忘ル、事ヲ得ザル所ナレバナリ故ニ彼ハ慧眼ニモ此ル異端ヲ説破センニハ内部ヨリセザルベカラザルヲ看取セリ別言スレバ異端ノ基礎ヲ以テセザルベカラザルヲ看破シヌコ、ヲモテ彼ハ巧ニユダヤ教ノ歴史ト主義トヲ提ゲテ異端ニ答フルヲヲナシタリキ彼ハ本書ニ於テモーセノ律法ハ神ノ與ヘ給ヒシモノナリト斷言セリ此ノ點ニツキテハ彼トユダヤ黨人等ノ信ズル所共ニ相同シ然リト雖モユダヤ黨人ニアリテハユダヤ人ハ割禮ヲ受ケ且ツモーセノ律法ヲ守リタル者ナルニヨリ神ハ特ニ此ノ種族ヲ幸シテ榮譽ト特權トヲ與ヘ給リトハ云ヘリキ然ルニ聖パウロハ之ニ反シテ曰クソハ甚タシキ謬見ナリ何トナレバ神ハモーセ律法創成前四百三十年ニ於テ既ニアブラハムノ信仰ニ由テ汝及汝ノ子孫ニ由リ凡テノ國民ハ幸福ヲ受クベシト約束シ給ヒタリキ此約束ハ即チユダヤ人ノ受クベキ榮譽及ヒ特權ノ基礎ナリトス由之觀之ユダヤ人等ノ此ル榮譽ト特權トノ由テ來ル所ハ其ノ行爲即チ割禮ヲ領ケ律法ヲ遵守ス

ルヲニ因ラズシテ唯タ神ノ約束ニ存ス蓋シ此約束タルヤ變化ナキ神ノ約束ナレバ爾后々世神ガ與ヘ玉フ如何ナル教ノアリトテモ竟ニ變化スル能ハザル所ノ者ナリ抑モ神ハアブラハムノ信仰ニノミヨリテ自由ニ此ル約束ヲ締結シ給ヒタルモノナレバ後世其ノ約束ノ賜ヲ受クルニツキテハ神ハ決シテ信仰ト共ニ尙ホ他ノ條件ヲ追加シ給フコトナカル可シ此ハ神ガ唯タ一次ノミ締結シ給ヒタル約束ナリトス蓋シ神ノ之ヲ與ヘ給ヒタル理由ハ即チアブラハム神を信し其信仰を義とせられたリトアル是ナリ(加拉太三〇六)故ニ此ハアブラハムガモーセノ律法ヲ守リタルニ由ルニ非ズ何トナレバ當時未タ律法アラザリケレバナリ故ニアブラハムト同様ナル信仰ヲ抱ク者ハ凡テ眞ノアブラハムノ裔ニノ彼ト、モニ同シ幸福ヲ受クベキモノナリ(三〇七)然レモユダヤ黨人等ハ言フ若シ神ノ律法ト外部ノ禮式ヲ守ラザルモノナランニハ假令アブラハムノ信仰ノミアリトテモ何ノ効アルヲナシト聖パウロハ努メテ其ノ誤謬ヲ辨難セリ彼ハ其書ニ於テ更ニ論歩ヲ進

メテ曰ク「モーセの律法は多くの點に於て神の約束に劣るものなり」と
蓋シ聖パウロ所論ノ要點ハ左ノ如シ曰ク律法ノ目的トスル所及ビ約
束ノ目的トスル所トハ其間大ニ異ナルモノアリ律法ハ人間ヲ義トス
ルガ爲ニ非ズ只人類ヲシテ其罪アル性質ヲ認メシムルニ止マルノミ
〔三〇一九〕ト有名ナル學者メーヤ曰ク「神ガ律法ヲ與ヘ給ヒシハ次ノ目
的アルニ由リテナリ即チ人類ノ罪ヲ明ニシ其ノ罪ハ正ニ神怒ト刑罰
ニ相當スルモノナルヲ示スガ爲メナリ又吾人ハ經驗ニヨリコレヲ知
ル律法ノ常ニ此結果ヲ生ゼシトハ神ノ目的ナリキヤ」トアブラハムハ
信仰ニ由リテ義トセラレタルモノナリキ而シテ律法ハ漸ク此ノ後ニ
至リテ出デヌ蓋シ律法ノ用タルヤ人類ヲ義トセンガ爲ニ非ズ只己ヲ
モテ善人ナリト思惟スル者ヲシテ其罪アルヲ悟ラシメンガ爲ナルノ
ミ此ハ是レ實ニ聖パウロ所論ノ最中心點ナリトス然ラハ律法ハ神ノ
約束ニ戾ルモノナルヤ彼ハ此ノ二者ハ絶對的ニ相反スルモノニシテ
到底之ヲ相一致セシムルコトハ能ハザル事ナリト思惟スル乎約束ニヨ

レハ凡ノ國ハアブラハムニヨリテ幸福ヲ受ケザルベカラズ然レ律法
ニヨリテアブラハムノ凡ノ子孫ハ誼ハルベキモノナリキ蓋ハ律法ノ
書ニ載タル凡ノ事ヲ恒ニ行ハザルモノハ誼ハルベシト録サレタレバ
ナリ〔加三〇一〇〕聖パウロハ此點ニツキ最モ精確ニ主キリストノ死ヲ
説キ其死ノ性質ト目的トヲ明ニセリ則チ縱令ユダヤ人ハ律法ニヨリ
テ誼ハル、モ尙神ノ約束ヲ受クベキモノナリ何トナレバ律法ヲ犯ス
コトニ由テ來タリシ誼ハキリストノ死ニヨリテ全ク取り除カレタレバ
ナリ故ニ加拉太人ニ向ヒテ曰クユダヤ人等ガ汝等ヲノ服從セシメ
ントシタリシ所ノ律法ハ是レユダヤ人ヲ害フコト甚シカリシ所ノモノ
ナリキ故ニキリストハ此ノ誼ヨリ吾人ヲ解キ放チ玉ヒキト本書三章
十三節ニ曰ク「キリスト既に我儕の爲に誼はるゝものとなりて我儕を
贖ひ律法の誼より脱しめ給へり蓋すべて木に懸るものは誼はれしもの
なり」と録されればなり」ト故ニ爾曹異邦人ニユダヤ人ノ奉ズル
律法ニ從ヒテ義トセラレンコトヲ思フハ愚ノ至リト謂ツ可シ蓋シ律法

ノ存スル限リ主ガ人類ヲ贖ヒ玉ハザラン限リ吾人ハ詛ノ中ニアルモノニシテ律法ハ爾曹ニ取リテモ吾人ニ取リテモ救ヲ受クルノ妨害物ナリ而シテ吾人ハ唯主ノ死ニ由テノミ贖ハルト第十四節ニ記シテ曰ク「是れアブラハムに約束し給ひし恩恵イエスキリストに由て異邦人にまで及び我儕にも信仰に由て約束の靈を受しめん爲なり」下是レ蓋シ主ガ律法ノ刑罰ヲ受ケ給ヒタル目的ハ世ノ律法ヲ犯ス者ニシテ神ノ詛ヨリ贖ヒ彼等ヲシテ其約束ノ恩恵ヲ受ケシメンガ爲ナリトノ意ナランカ若シ聖パウロノ論中ヨリ主カ人類ニ代リテ刑罰ヲ受ケ給ヒタルテフ事ヲ取り除カバ彼ガ講說セル重ナル點ハ殆ント無効ニ歸スルナルベシ贖罪ノ教理ニ反對スル輩ハ動モスレバ則チ曰ク聖パウロガ主キリストノ死ヲ重シトシテ講說セル所以ノモノハ彼ガ之ヲモテ人心ヲ善化セントノ方便トシテ然ルナリト然リト雖モ彼ハ本書ニ於テユダヤ黨ニ辨ズルニ當リ主キリストノ働キニ付テハユダヤ律法ノ術語ヲ以テシタリキ而シテ其論意タルヤ明ニ主ノ死ハ人類ノ罪ヲ救

スノ理由ニシテ又人類ニ對スル外部的贖罪ナリトノ事ナルヤ言ヲ俟タザルナリ

儲聖パウロハユダヤ黨人等ガ加拉太人ノ信仰ヲ變化セシムルノ甚ダシキヲ見延テ彼ガ傳道上ノ成果上ニ偉大ノ影響ヲ與フベキヲ見タリユダヤ人等ハキリスト教信徒トナリシトハ雖モ猶其祖先傳來ノ宗教的諸禮典ヲモテ聖ナルモノト信シ彼等ハ自然ニモーセノ律法ト禮典トヲ尊敬シタリキユダヤニ於テハ幼年子弟ノ教育ハ專ラ此ノ尊敬心ヲ堅カラシムルヲ目的トシテ行ハレシヲモテ薰染ノ久シキ此ノ心輒スク除却センコトハ能ハザリキ而シテ彼等ガ其國史ヲ研究スルノ深キニ從ヒ其ノ尊敬心ハ益々確乎トハナリヌ彼等ノ思想ニヨレバ古宗教ノ風習ヨリ脱スレハ先聖ヲ離レ預言者ニ遠ザカル所以ニシテ是レ取リモ直サズ聖ナル特權ヲ放棄スルモノトシテ考ヘラレタリキ但シ此ノ特權タルユダヤ人ノ最大名譽トスル所ニシテ彼等ガ他ノ國民ヨリ區別シテ自ラ標致スル唯一ノモノナリキ故ニ彼等ハ「メシヤ」ノ來降ニ

ヨリテユダヤ種族ヨリ此ル榮譽ヲ取り去ラルベキモノナリトハ其尤モ信ジ難シトスル所ノモノナリキ楮加拉太人等ハ其以前殆ンド總テ偶像教信者ナリシヲモテユダヤ黨人等ノ説ク所ニ從ヒテ割禮ヲモ受ケモ一セノ律法ヲモ守ラザリシナランニハ彼等ハ到底今世ノ濁レヨリ救ハル、モノトナリ得ザルノミナラズ(一〇四)神ノ聖國ヘモ入ルヲ能ハザルナルベシト思惟シタリキ此ル事情ヲ見聞セル聖パウロハ其心遣ル瀬ナク感ジ或ハ憤リ或ハ思ヒ惑フコトモアリシナリ彼ガ所々ニ建設セル公會ハ今ヤ危殆ノ狀ヲ呈シ彼ガ權威ハユダヤ黨人ニ由テ否マレタリ加拉太人ガ此クモ輒スク欺カレタルヲ見テハ他各地ノ信者モ果シテ確キ信仰ヲ有チ得ベキヤ否ヤヲ惑ヘリ渠反對者等ハ甚シキ宗教的狂熱ヲ有スルモ然モ道德ノ點ニ至リテハ頗ル無頓着ナルモノニシテ飽迄モ彼ヲ忌ミ嫌ヒ又彼ハ主ノ福音ヲ宣傳スルニ於テ尤モ精勵ナルモノナリシガ渠反對者等モ亦自家ノ教説ヲ述ブルニ於テ彼ト全様ナル精勵ヲナシタリキ渠等ハ多數ナルガ上ニ各地ユダヤ公會

中ニハ熱心ニ渠等ニ向テ助勢ヲ與フル者モ多クアリキ渠等ハ執拗クモ聖パウロヲ追蹤シ彼ガ小亞細亞ニアレバ渠等モ小亞細亞ニ往キ、彼ガマセドニヤギリシヤニアレバ渠等モ亦其處ニアリ聖パウロハロマニ往ンヲ欲シタリシモ渠等ガ彼ニ先チテ往ンヲ恐レタリキ故ニ彼ハ主ガ彼ニ與ヘ給ヒタル教ニツキ詳悉ニ書キ認メ其行ニ先チテ豫メ之ヲロマニ贈ランヲ決心セリ當時「ロマ府ニハ彼ノ友タル者多クアリキノ多クハ數年前クローヂア、シーザーニ由テ發セラレタル命令ニ由リテロマ府ヨリ追放セラレタルユダヤ人ニシテ彼ガコリントエベン其他ノ市城ニ於テ福音宣傳ノ際相見タル者ナリキ彼等ハ其教ニヨリテ信徒トナリシガ其後ロマ政府ハクローヂア、シーザーノ放逐令ヲ忘ルトモナク廢スルトモナク自然消滅ノ姿ニ付セシヲ以テ彼等ハ再ビロマ府ニ復歸スルヲ得タルナラン而シテ聖パウロハ彼等ニ向ヒテ福音ノ要點即チ義トセラル、一ニ付キ詳細ナル説明ヲ施コシ且ユダヤ種族トキリスト教會トノ關係ヲ指示スルガ爲ニ一書ヲ贈リヌ是

レ則チ有名ナルロマ書ナリトス彼ハ此ル教理ヲ説明スルハ其任自家ノ上ニアルヲ確信シ且人生ノ不定無常ニシテキリスト教徒ノ知識ノ甚タ不完全ナルモノナルヲ明キラメヌルガ故ニ彼ハキリスト公會ヲシテ堅確ナルモノトナラシメ自由ナルモノトナラシメ且キリスト教會ガ正ニ世界ニ宣傳ス可キ一大真理ヲ述作セントハ決心ナシタリキ彼ハ其筆ヲ擲ルニ當リ敢テ論敵ニ對スル恣ノ語ヲ以テセズ可及丈秩序的ニ論述セリ其後本書ハ謄寫セラレテ廣ク各教會ニ贈ラレタリキト思ハル吾人ハ今本書一章以下八章ヲ研究シテ彼ガ主ノ死ニツキ如何ニ論述セルカヲ檢セントス

本書ノ主眼的問題ハ第一章十六節及十七節ニアル者ナランカ曰ク「我ハ福音を耻とせず此福音はユダヤ人を始めギリシヤ人すべて信する者を救はんと」の神の大能たればなり神の義は此に顯はれて信仰より信仰に至れり録して義人は信仰に由て生べしと有るが如し」ト意フニ是神ノ義ハ福音ノ内ニ顯ハル、トノヲナルヘシ而ノ又神ノ怒ハ世ノ

罪惡ノ故ニヨリテ天ヨリ顯ハル第十八節ニ曰ク「これ神の怒は不義をもて眞理を抑る人の凡の不虔不義に向て天より顯はる」ト實ニ人類ハ罪ノ爲ニ神トノ間仲惡シクナリテ一ノ平和モアルヲナキニ至リヌ何トナレバ神ハ聖ニ到底罪アル人類ト偕ニ平和ヲ保タルベカラザレバナリ若夫レ神人トノ間平和ノ保タル、者アリシナランニハ世ノ状態ハ大ニ異ナル者アルベキナリ特ニ偶像敎國ノ状態ハ如何ニ神ガ罪アル人類ニ對シテ怒リ玉フカノ最モ善キ證明ナリトス聖パウロガ國ヨリ國市ヨリ市ヘト遍歴ノ諸國ノ状態ヲ觀察スルヤ彼ハ神ハ全ク人類ヲ棄テ給ヒシカノ感ニ堪エザリキ或ハ朽チザル神ヲ朽壞ベキ人ノ肖像ニ似セテ之ヲ拜セントス或ハ鳥或ハ獸或ハ匍匐動物ナド下等ナル被造物ヲ拜ノ却テ神ヲ忘レタリキ此ハ是レ眞理ヲ棄テ、異端ヲ信ズルナリ由之神ハ怒リテ其恩惠ヲ人ヨリ取去リ給ヒキ而シテ人ハ罪ト辱ト哀ト暗ノ裡ニ居リテ倍惡シク成リ行キヌ(羅一〇二三ヨリ二八マデ)人ハ神ノ聖旨ヲ輕ンジ我儘ヲノミ振舞ヒケルガ神ハ少シモ之ニ干涉

スルコトナク其爲スガマ、ニ放任シ玉ヘリキ則チ第二十八節ニ曰ク「神は彼等を其心の慾を縱肆するに任かせ」下又第二十六節ニ曰ク「神は彼等が耻べき慾をなすに任せ玉ヘリ」下又第廿八節ニ曰ク「彼等ガ邪僻なる心を懷きて行くまじきを行すに任せ玉ヘリ」下神ヲ棄テ、偶像ヲ拜スル者ハ言語ニ上グルサヘ耻シキ程汚シキ事ヲ爲シタリキ到ル處人ハ亂雜ニ法律ハ破ラレ五倫ハステラレ人ハ互ニ相信スルコトナク不孝ニシテ妬心深ク無禮ニシテ慈悲心ナク人ヲ惡ミテ殘酷ナル所行ヲナシ或ハ虚言或ハ罵詈或ハ兇殺ナド所有惡事ハ一トシテ行ハレザルハナカリキ然ルニ彼等ハ第三十二節ニ記サレタルガ如ク「凡て此等を行ふ者は死罪に當る可き神の判定を知りてなほ自ら行ふのみならず亦之を行ふ者を喜べり」豈ニ淺マシノ極ニアラズヤ以上ハ是レ聖パウロガ福音ヲ宣傳セル當時代人類ノ状態ナリキ而シテ當時或ハ自家ノ罪惡ヲ等閑ニシテ却テ他ノ異邦人ノ罪ヲ數ヘ立テ自ラ高シトセル徒アリシヲモテ聖パウロハ彼ノ輩ノ行爲ヲ執ヘテ以テ凡テノ人類神

前ニ於テハ均シク罪人タルヲ免ルベカラザルノ證據トハナシキ即チ第二章一節ニ曰ク「是故に凡そ人を議す所の人よ爾推諉べきなし爾他人を議るは正しく己の罪を定る也そは議る所の爾も同じく之を行へばなり」下人ハ人ノ罪ヲ定ム而シテ彼ハ遂ニ神ノ審判ヲ免ル、能ハザルナリ記シテ曰ク「彼等は剛愎にも悔なきの心に循ひ己の爲に神の怒を積て其義罰の顯れん震怒の日に及ぶなり神は人の行に循ひて各人に其報を爲べしこれ神には偏視なければなり」羅二〇五、六、十一「凡ソ人ノ義トセラル、ハ神ノ律法ヲ聞クニヨルニアラズ只之ヲ守ルニヨリテノミ然ルヲユダヤ人等ハ誤リ以然ラク吾等ハ神ノ律法ヲ受クルニヨリテ神ノ震怒ヨリ遁ル、モノナリト此ハ是レ實ニ至愚ノ見ナリトス故ニ聖パウロ彼等ニ向ヒテ曰ク爾曹ハユダヤ人テフ肩書ヲモテ徒ニ尊大ヲ構ヘ律法ノ授ケラレタルハ神ノ恩惠ノ證徴ニシテ神ハ特ニユダヤ種族ノ神トノミ信シ又爾曹ハ人類ノ正ニ神ノ聖旨ニ遵フベキヲ了解シ且律法ノ教ニヨリ道德ノ如何ヲ知リキ而シテ自ラ高ク標シ

テ他國民ノ師且郷導者ナリトシ暗昧ニ居ル人ニ對シテハ光明タルベ
 キヲ思ヘリ然レモ是レ律法ト幾何ノ關係カアル爾曹ハ只人ヲノミ教
 ヘントスルカ將タ自ラ律法ニ從ハントハスルカ爾曹若シ他人ニ教ヘ
 テ盜ム勿レ姦淫スル勿レト言ヒテ如何デ爾曹自テ盜ヲナシ姦淫ヲ行
 フヲ得ベキヤ爾曹ハ律法ノ所有者トシテ誇レリ然レモ自ラ之ヲ犯シ
 テ神ヲ輕シムルヲナスハ是豈ニ大ナル罪人ニハアラズヤ(二〇二ヨ
 リ二四マテ)爾曹ハ神ノ命令ニヨリテ割禮ヲ受クベキモノタリ但シ此
 ハユダヤ種族ガ神ト緊密ナル關係ヲ有スルテフ名譽ノ印象ナリ又神
 ハ此ル緊密ナル關係アルヲモテ律法ヲ與ヘ給ヒキ然レモ若シ割禮ヲ
 受ケタルモノ即チユダヤ人ニシテ律法ノ本文ヲ犯スモノアラシニハ
 割禮又何ノ効用カアラン縱令割禮ヲ受クルヲナキモノ即チ異邦人ト
 雖モ律法ヲ守ルニ由リテハ義トセラレ縱令割禮ヲ受ケタルモノ即チ
 ユダヤ人ナリト雖モ律法ヲ犯スニ由リテ罪ニ定ラル(二〇二五ヨリ二
 九マデ)果シテ然ラバユダヤ人ノユダヤ人タルノ利益ハ那邊ニ存スル

カ他ナシ其ノ聖書即チ默示ニ由テ記サレタル神ノ約束ヲ授ケラレタ
 ルト是ナリ神ハ其性質ニ由リテ其約束ヲ變ズルコト能ハズ縱シ凡ノ者
 ハ不義ナリト雖モ神ノ語ハ眞且不變ナリ而シテ人類ノ不義ナルハ偶
 以テ神ノ不變ノ義ヲ顯彰スルニ足りキ既ニ然ラバ神ガ不義者ヲ罰ス
 ルハ是レ不正ノ事ニ屬スルカ極メテ然ラズ神ハ世界ノ終末ノ日ニ於
 テ凡テ人類ノ罪惡ヲ審明シ其ノ義ヲ現ハシ玉フベキナリ若シ夫レ吾
 ガ不義ハ是レ神ノ義ヲ顯ハス所以ノモノナレバ吾ハ善ヲ來ラセンガ
 爲ニ惡ヲ作スナドダイソレタル語ヲ出ス此ル澁トキ徒ノ罪ニ擬メラ
 ル可キハ理ノ正ニ然ルベキナリ(三〇一ヨリ八マデ)

夫レユダヤ人ナルト異邦人ナルトヲ問ハズ人ハ皆神ニ對シテ大ナル
 罪人ナリトスユダヤ人ノ罪ニ付キテハユダヤ人ノ經典即チ舊約全書
 中ニ許多ノ記事ハ存セラレキ記シテ義人なし一人もあるなし、みな曲
 りて全く邪じなれり、善を作ものなし一人も有なしの喉は破れし豎、
 その足は血を流さんが爲に疾しうの目前に神を畏るゝの懼あるとな

し〔羅三〇十ヨリ十八マデ〕ト若シ人アリ吾ハユダヤ人ナルガ故ニ罪ナシト云ハ、彼等ノ經典ヲ執テ以テ其誤見ノ甚タシキヲ正スベシ異邦人タルモノ、罪人タルハ其日常ノ造行云爲之ヲ證明シテ余アルベシ天下何人カ能ク律法ニ背戻セザルモノアラシヤ〔羅三〇二〇〕記シテ曰ク〔律法の行に由りて神の前に義とせらるゝもの一人だにあるとなし蓋神の律法によりて人の罪は知らるゝなり〕ト

以上ハ是レ神の怒は不義をもて眞理を抑ゆる人々の凡ての不虔不義に向て天より顯はる〔羅一〇十八〕ト記サレタル語ニ付キ聖パウロノ説明ナリトス而シテ彼ガ證明センコトヲ欲セシ主要ノ點ハ神ノ怒ノ正當ナルモノナルコト及ビ其怒タルヤ單ニ想像的ニ止マルニアラズシテ現實ニ來ル可キモノナリトノ點是ナリキ而シテ彼ガ努メテ之ヲ説明セント試ムル所以ノモノハ凡ソ人類ハ神ノ怒ヲ受ク可キモノナレバ正ニ之ヲ免ル、ノ方法ヲ講ゼザルベカラズ而シテ其方法コソハ神ガ主キリストニ由テ人ノ罪ヲ贖ハシメ玉ヒタル其恩惠ニ頼ルノ外他ナキ

ヲ教示セントノ意アルガ爲メノミ然レトモ此ニ一危險アリソハ人動モスレバ贖罪ノ意義ヲ解シテ此ハ單ニ人類ノ性質ヲ善化スルコトニシテ人ハ此ノ善化ニヨリテ神ノ震怒ヲ免ル、ヲ得ルト早斷スルコト是ナリ此ル思想ノ論者ハ曰ク聖パウロハ人間ノ性質ニツキ道德的心靈的ノ一大善化ヲ必要ナリト説キヌ而シテ彼ハ異邦人ノ罪アル行爲ヲ指示シ且ユダヤ律法ノ無効力ナル到底ユダヤ人ヲシテ其律法ニ服從セシムルコトハ能フ可カラザルコトナルヲ證明セリ彼ハ其ノ所謂善化トハ微弱ナル良心ト腐敗セル靈魂トヲ有セル人類ニシテ主キリストノ罪ナキ性質及ビ其潔クシテ完キ道德又其苦ト死ニ由テ顯ハシ玉ヒタル慈心ヲ悟ラシムルニヨリテ成就セラル、モノナリト思惟シタリキト然リト雖モ聖パウロハ明ラカニ人類ノ性質ヲシテ道德的心靈的ニ善化セシメンガ爲ニハ神ガ新方法ヲ案シテ其自ラヲ人類ニ顯現シ玉フベキヲ必要トシテ考ヘタリ獨リ其必要ナルハ聖パウロノ思索ニ止マラズ彼ガ其第一、二、三章ニ記シタル事實ニ由テ明白ナリ然レモ其必

要ヲ證明スルハ決シテ彼ノ目的トスル所ニアラズ若シ夫レ彼ノ目的トスル所此處ニアランカ彼ハ好ンデ異邦人ノ罪ヲ指摘スルヲセズ其ノ唯道德ニ行フニツキ不適當ナル點ヲノミ詳説セルナランカ或ハ又彼ハユヤダ人ノ律法ガ其罪ヲ指摘スルヲ述ブルノミナラズ彼等ガ律法ヲ守ランガ爲ニ熱心ナリシ結果ナキ行爲ヲ指示シタルナルヘシ或ハ又彼ハ人類ヲ其罪ヲ捨テ善行ヲナスニ適當ナル者タラシメンカ爲一大能力ヲ與フル新宗教ニツキ説キタルナルベシ然ト雖モ聖パウロノ目的トスル處ハ此處ニアラスシテ却テ全世界ハ罪ノ爲ニ神ノ震怒ヲ受ク可キモノナリ故ニ若シ此ノ震怒ヨリシテ免レント欲セバ須ラク其震怒ヲ取去ラザルベカラズトノヲ指示スルニアリキ而シテ吾人ハ此等ノ三ヶ章ヲ研究スルニ從ヒ倍明瞭ニ這般ノ意味ヲ了悟スルヲ得然レモ論者或ハ言ハン然リ固ヨリ人類ノ罪ハ正ニ神ノ震怒ヲ惹キ起ス可キモノタルヤ明カナリ然レモ其震怒ヨリシテ免ル可キ挽回ノ祭物ハ人ノ心裡ニアラザルベカラズ之ヲ別言センカ人若シ罪

ノ行爲ヲ悛メテ至善ニ止ルニ至ラバ罪ノ結果ナル不幸ト危險トハ自然ニシテ消滅スルニ至ルベシ而シテ聖パウロ所説ノ目的ハ則チ人類ガ將ニ來ラントスル滅亡ヨリ免ル、ハ外部的贖罪ノ効力ニアラズ主キリストノ恩惠ト能力トニヨリ人類ノ性質ヲシテ神ノ聖善ニ肖タルモノタラシムルニアリト

論者ノ言果シテ然ルカ若シ果シテ然リトセンニ聖パウロハ其第三章末節以下ニ於テ明白ニ此ル點ヲ指示シタルナルベキモ吾人ハ遂ニ之ヲ見出スヲ能ハズ彼ハ偶像ノ禮拜及ヒ罪ヲ行フ者ヲノ善化セシムルニ足ル新靈力ニ付キ何ノ言フ所アルヲナシ彼ハ又主キリストガ神ノ義ト愛トヲ顯彰シ給フヲノ人心善化ノ上ニ幾何ノ効能アルヤ否ニツキ會テ語ル所アルヲナシ又彼ハ主キリストガ人ノ性質ト心トヲ善了セシメ而シテ后之ヲ救ヒ玉フヲ及ヒ主ハ人ヲ己ニ引キ寄せテ之ヲ聖ナルベク教練シ玉ヒタレバ人ハ自然ニ罪ノ結果ヨリ免ル、ヲ得可シテフヲニ付キテハ一モ語ル所アルヲナシ聖パウロハ此等三ヶ章中

ニ於テ惟タ一點ノミ緊要ナルモノトシテ論ジタリキ則チ人類ガ罪ノ性質ヨリ免ル、ノ方法如何ニアラスシテ人類ガ罪ニ由リテ當ニ受クベキ神怒ト罪ニ定メラル、トヨリシテ免ル可キ方法如何トノ一點ニ存シタリキ

彼ハ其論中ニ於テ此ノ方法ヲ明示セリ即チ第三章二十四節ニ曰ク「只キリストイエスの贖によりて神の恩を受け功なくして義とせらるゝなり」ト蓋シ義トセラル、トハ罪ニ定メラル、事ノ正反對ナリ第八章一節ニ曰ク「イエスキリストに在るものは罪せらるゝとなし」ト而シテ罪ニ定メラル、ハ是レヤガテ律法ニ背ク事ノ結果ナリ斯ノ如ク人ノ義トセラル、ハ是レ律法ニ遵フノ結果ナリトス蓋罪ニ定ムルトハ人ヲ罪スルノ原因ニアラズ義トスルトハ人ヲ義トスルノ原因ニアラズ本書中ナル人ノ義トセラル、テフ語ハ人ノ性質ト行爲トヲ善化スルトニ非ズ人ノ罪ヨリ赦サレ罪ノ記録ヨリノ其ノ名ヲ削リ去リ主イエスキリストノ義ヲ之ニ書キ加フルト云フ本書第四章ハ蓋シ本意ヲ明

ニセル所ナリ夫レマブラハムノ義トセラル、ハ何ニ由リテナルカ則チ神ハアブラハムノ信仰ニヨリテ之ヲ罪ナキ人トハ見做シ玉ヒキ此ハ信仰ニヨリテアブラハムノ性質ノ善化ヲ指セルニ非ズ(一ヨリ五マデ)當ニ是罪人ノ位地ヨリノ一轉無罪人タルノ位地ニ至レルヲ指セルナリ又ダビデニ付キテモ之ト同様ナル場合ヲ指示セルノ語アリ則チ第四章六七節ニ曰ク「工なく神に義とせらるゝ者、者の福なるとは正にダビデが語る如し云く其不法を免され其罪を蔽はるゝ者は福なり」ト又アブラハムノ信仰ノ義トセラルタルガ如ク凡ノ信徒モ亦全シク義トセラル、ナリ即チ第二十二、四、節ニ曰ク「是故に其信仰義とせられたり我儕若し我主イエスを死より甦し、神を信せば同く義とせらるゝとを得べし」ト是ヲ以テ之ヲ見レバ其ノ外部的ニ義トセラル、トヲ指示セルヤ明白ナリ此ノ恩ヲ受クルニヨリテ信徒ハ皆其時ヨリノ最早神ノ聖前ニ罪人ニ非ズ又神ノ震怒ヲ受クルノ危険アルトナシ然リ而シテ人類ガ罪ヨリノ直ニ無罪ノ状態即チ義トセラル、トニ一轉シ行クノ

方法ハ抑モ如何第三章二十四節ニ記シテ曰ク「只キリストイエスの贖に賴て神の恩を受け功なくして義とせらるゝ也」ト蓋主キリストノ代贖ハ猶此他多クノ點ヲ含メリト雖モ本論中ニ論ズル所ノ神ノ震怒ヲ免レテ義トセラル、テフ一點ハ最モ肝要ナル者ナリ而シテ此ノ外部ノ代贖罪ハ何カ故ニ唯主キリストニ由リテノミ成サル、ヤハ第二十五節ニ「神は其血に由りてイエスを立て、信するもの、挽回の祭物となし玉へり」トアルニヨリテ明カナリ凡ソ人類誰トモカ神ノ震怒ト處刑ノ宣告トヨリ免ル、ヲ要セザル者アランヤ然レモユダヤ人ニモセヨ異邦人ニモセヨ其ノ宣告ヲ推シ止メ其ノ震怒ヨリノ免ル、ノ方法ヲ知ル者アルコトナク人類ハ擧ゲテ罪ノ宣告ヲ受ケヌ」トは各人の口塞り又世の人コナリテ神の前に罪ある者と定らん爲なり」(三〇一九)然レモ吾人ハ唯主ノ代贖ニヨリテ此ノ正當ナル宣告ト震怒ヨリ免レテ義トセラル、ニ至ル蓋神主キリストヲシテ其血ヲモテ挽回ノ祭物即チ犠牲トナシ之ヲ立テ、人類ノ前ニ在ラシメ給ヒタレバナリ此犠牲ノ直接

單純ナル目的ハ言フ迄モナク凡ソ人類ヲシテ此ノ一大危險ヨリ救濟センガ爲メナルナリ聖パウロノ所説ニヨレバ主キリストノ死ハ單ニ人類ノ性質ヲシテ善化セシムルノ方法ニ非ズシテ神ガ人類ノ罪ノ記録ヲ塗抹シ且ハ其ノ震怒ヨリ免レシムル恰當ノ理由ナリト聖パウロハ其論歩ヲ進メテ曰ク人或ハ第二十五節ニ記サレタル「挽回の祭物」テフ語ヲ見愕リ問フテ曰ハン神ハ何ガ故ニ其無限ノ憐憫ヲモテ人類ヲ憐ハシ其震怒ヲ止メザルカト主キリストノ犠牲ハ人類ノ代贖タルト、モニ又神ノ義ヲ顯彰ス可キ者タルナリ則チ第二十五、六節ニ曰ク「神は其血に由りてイエスを立てて信する者の挽回の祭物とし給へり蓋神忍て已往の罪を寛容にし給ひしとにつきて今其義を彰さん爲め即ちイエスを信する者を義とし尙自ら義たらんが爲なり」ト惟フニ主キリストノ降世以前ニ在テハ神ハ其耐忍ニ由リテ未ダ充分ニ人類ノ罪ヲ憐シ給ハザリキンハ其將ニ來ルベキ犠牲即キリストノ故ニ暫ク人類ヲ憐憫シテ其罪ヲ寛容ニナシ玉ヒキ而シテ主ガ人類ノ罪ノ

爲ニ死シ玉フハヤガテ是レ神ノ義ヲ彰ハス事ナリキ主ノ降世以前ニ在テ神ガ人類ノ罪ヲ寛容ニシ玉ヒシハ是レ神ノ義ノ蔽ハレタルモノナリキカルガ故ニ主ノ死ハ惟其降世以後ニ於ケル人類ガ罪ヲ犯スヲ遏メ玉フノミナラズ始祖アダム以降主ノ時ニ至ル凡ノ人類ガ罪ヲ赦サル可キニツキ緊要ナルモノナリトス而シテ其ノ神ノ義ヲ彰ハステフ事ハ獨リ始祖アダムヨリ主ノ時ニ至ル凡ノ人類ノ罪ノ赦ニ由テ彰ハサル、ノミナラズ又主キリストヨリ現今ニ至ル凡ノ人類ノ救濟ニヨリテ彰ハサル、ナリ第二十六節ニ曰ク神キリストト立テ、挽回ノ祭物となすは今その義を彰はさん爲即イエスを信するものを義とし尙自ら義たらんが爲なり」ト主キリストノ死ノ外部的贖罪タル事ヤ頗ル明白ナリト云フベキナリ實ニ主ノ死ハ挽回ノ祭物タルナリ人類ヲシテ神ノ震怒ヨリ免レシムベキモノタルナリ神ノ震怒ハ其正義ノ性ト人類ノ罪惡トノ相反撥スルニ由リテ然ルナリ主キリストノ降世前ニ在テハ神ハ其將ニ來ルベキ「メツシヤ」ニ由テ其罪ヲ赦シ玉ヒキ而シ

テ今ハ又凡テ主キリストヲ信ズルモノ、罪ヲ赦シ玉フ神靈ニハ赦罪ニ由テ其義ヲ蔽ヒ玉ヒシモ今ハ主キリストノ死ニヨリテ其義ヲ明白ニ彰ハシ給ヒキ

第四章ニ於テ聖パウロハ信仰ニヨリテ義トセラル、事ハ神ガ在昔ユダヤ人ニ玉ヒタル教理ト毫モ矛盾スル所ナキノ旨ヲ論ジヌ而シテ彼ハ此議論ヲ確メンガ爲ニ二個ノ例ヲ取りキ(一)ハユダヤ種族ノ先祖アブラハム(二)ハアブラハムノ一千年后ニ當レルダビデ王是ナリ蓋シアブラハムハ神ヲ信ジテ其信仰ヲ義トセラレダビデハ又其詩篇ニ於テ

工ナキ人ノ神ノ前ニ義トセラレタルヲ證明シタルモノナリキ
第五章ニ於テ彼ハ義トセラル、ノ結果ニ論及セリ然レモ彼ハ其結果トシテ人類性質ノ善化ヲバ説カザリキ主キリストノ死ニ由テ義トセラル、ノ結果ハ外部的幸福ニアルヲ云ヒヌ第一節ニ曰ク「我儕信仰によりて義とせられたれば神と和ぐことを得たり」ト此ハ神ノ律法ト權威トニ反抗スル人ノ心ノ變化セリトノ意ヲ示スニ非ズ唯人類ノ罪

惡ニ對スル神ノ震怒ハ主ノ死ニヨリテ取り去ラレタリトノ意ニ外ナ
ラズ第二節ニ曰ク我儕キリストにより信仰によりて今居どころの恩
に入こことを得ト此ハ明ニ人類ノ神ニ近ツカントスルニ當リテ其中間
ニアリテ障礙ヲナスモノト取り除カレタルヲ云フ但シ其障礙物トハ
人類ノ罪惡ニ對スル神ノ震怒是ナリ然リ而シテ主キリストハ此ノ震
怒ヲ銷却シ去ル恰當ナル挽回ノ祭物ナルナリ若シ夫レ挽回ノ祭物タ
ルベキモノナフシテ其ノ當サニ罪セラレベキモノヲ赦シテ相關スル
トナカラシカ神ノ義ハ茲ニ隱クレ蔽ハル、ニ至ル可シ故ニ主ハ其死
ヲ以テ神ノ義ヲ顯彰シ玉ヒタリキ吾人ハ又主キリストヲ信ズルニヨ
リテ赦罪ノ恩典ニ與リ慈祥豊ナル御籬ノ内ニ進ミ入ルヲ得但シ吾人
ガ神ニ近ク事ノ妨害物ノ取り除カレタリト云フモノ蓋シ吾人ノ内部
即チ心中ニアルモノ、取除カレタルニアラズノ外部ニ付着セル妨害
物ノ主ニ由リテ取り除カレタルナリ加之吾人ハ從來惶々トノ神ノ義
キ審判即チ神ノ刑罰ノ顯ハレ來ルヲ待チツ、アリシ者ナルガ今ヤ翻

テ神ノ授ケ玉ハンズル無限ノ榮光ヲ喜ビ望ムモノトハナレリ二節末
句ニ曰ク「かの神の榮を望て欣喜をなす」ト讀ンデ第三節ニ至レバ曰ク
「第これのみならず患難にも欣喜をなせり」ト是ハ此レ信仰ノ故ニヨリ
テ吾人ノ受クル迫害ノ爲メニ吾人ノ希望ハ一層確實ナルモノトナリ
殺熱トノ堅立スルニ至リシヲ云フ第五節ニ曰ク「希望は羞を來らせざ
るを知る」ト是レ何故ニノ然ルカ聖パウロハ決シテ主キリストノ死
ハ吾人ノ心中ヨリシテ罪累ヲ取り除ケ吾人ヲシテ善人タラシムルモ
ノナリトハ言ハザリキ然レモ彼ハ「此は我儕に賜ふ所の聖靈に由て神
の愛我儕の心に灌漑ばをり」(五)トハ言ヘリキ惟フニ此言タルヤ吾人ハ
主キリストヲ信ズルモノトナリタルヲモテ神ノ怒ノ來ランコトヲ秋ノ
日ノ木枯ノ如ク闇黒ヲ望ク電光ノ如クサテハタバシル霞ノ如クニ恐
ル、トナク恰モ秋ノ空ノ高ク清ク澄ミ渡リ小春日ノ暖サ言ハン方ナ
キガ如ク神ノ愛吾人ノ裡ニ灌漑シヌ是レ偏ニ聖靈ノ力ニノ主ノ死ニ
ヨリテ神ノ恩惠ノ吾人ニ現示セラレタル者ナリ而シテ神ハ又之ニ由

リテ吾人ヲシテ恐懼ナキ希望ヲ懷シメ玉ヒキ六節ニ曰ク「我儕なほ弱かりし時キリスト定りたる日に及て罪人の爲に死たまへり」ト蓋シ本文ハ本論中ニ於テ尤モ肝要ナル句ナリトス何トナレバ聖パウロハ茲ニ至リ始メテ人類ガ道德ヲ行フノ力ナキヲ指示シタレバナリ若夫レ聖パウロノ教ユル所ニシテ神ノ唯一ナル目的ハ主キリストニ由テ人類ニ與フルニ道德ヲ行フベキ新勢力ヲ以テシ且ツ人類ヲ聖化シテ罪ノ刑罰ヨリ贖ヒ出サシメントノヲナリシナランニハ彼ガ本論ノ當初ヨリシテ人類道德心ノ微ナルヲ説キタルナランモ然モ彼ノ所説ノ主要ノ點ハ此所ニアラズシテ却テ人類ハ其ノ罪ノ故ニ神ノ怒ヲ受ク可キヲ又人類ハ罪アルモノナレバ神ハ其義ヲ以テ人類ヲ仇敵トスルニ至リ給ヒシヲ或ハ主キリストノ死ハ人類ノ罪ノ挽回ノ祭物タル事或ハ其死ハ當ニ神ノ義ヲ顯彰スベキモノタル事等ナリキ彼ノ想既ニ斯ノ如ク彼ノ説キ去ル所又斯ノ如シ故ニ彼ハ人類ノ當ニ罪セラルベキヲ説クニ全力ヲ用キ人心ノ脆弱道德ノ微ナルニ付キテハ第五章六節

ニ至ルマデ彼ハ毫モ其筆ヲ着クルヲナサバリキ而シテ今ヤ主キリストノ死ハ神ノ仁愛ヲ顯彰スル所以ノモノナルヲ説クニ至リテ人類道德力ノ微ナルヲ論ジタリ惟フニ人心ノ脆弱ハ神ノ憐憫ヲ惹キ起シ而シテ其罪ハ又忿怒ヲ惹キ起シヌ然レモ彼ハ本節ニ於テ主キリストノ死ノ理由ヲ説明スルニ當リテ人心ノ脆弱ナルガ爲メナリトハ云ハズ唯タ單ニ「罪人の爲に死たまへり」トハ云ヒキ第七、八節ニ記サレタル語ハ主キリストノ死ハ神ガ人類ヲ愛シ玉フトノ確實ナル證據ニハアラズ夫レ人ハ正義ノ人ノ爲メナリト雖モ輒スク其身ヲ捐ツルヲナサズ況ンヤ又不義ノ人ニ於ケルヲヤ然ルニ主キリストハ「キリストハ我儕のなほ罪人たる時われらの爲に死給へり」(八)トアル如ク正ニ神ノ震怒ト刑罰トヲ受クベキ罪人ナル吾人人類ノ爲ニ其貴キ生命ヲ捐テ玉ヒキ實ニ主キリストノ死ハ人類ノ罪ノ爲ニ獻ゲラレタル挽回ノ祭物ニシテ並ニ神ノ義ナル性質ヲ表示スルモノナリ凡テ彼ヲ信ズル者ハ救ニ入ルヲ得第九節ニ曰ク「今其血に頼て我儕義とせられたれば

況て彼に由りて怒より救るゝ事なからんや」下讀者ヨ請フ少シク意ヲ茲ニ注メヨ聖パウロハ本節ニ於テ吾人ハ主キリストニ由リテ罪ヲ行フ事ヨリシテ救ハル、ヲ得可シトハ言ハズシテ只怒ヨリ救ハル、ト云ヘリシ事ヲ又第十節ニ曰ク若し我儕敵たりし時に其子の死によりて神に和ぐ事を得たらんには況て和を得たる今その生るに賴て救るゝ事を得ざらんや」下其ノ意蓋シ第九節ト相同ジキナリ吾人ハ罪ノ故ニヨリテ神ノ仇敵タリキ然ルニ主ハ罪ノ爲メニ挽回ノ祭物タランガ爲ニ死シ玉ヒタレバ人類ト神トノ間ニ置レタル仇讐ノ情ハ取り去ラレ其間能ク和諧スルニ至リキ其ノ死既ニ人類ヲシテカ、ラシム況ンヤ今生ケルモノ終末ノ日ニ於テ吾人ヲ神ノ怒ヨリ救ヒ(保護)玉ハザルコトアランヤ聖パウロハ本論ニ加フルニ猶ホ左ノ一文ヲ以テセリ即チ第十一節ニ曰ク「たゞ此耳ならず我儕に和を得させ玉ひし我主イエスキリストに賴て亦神を喜べり」下此節ノ意タルキリストノ贖罪ノ結果ハ罪人ニ罪ノ赦ルシテ與フルヲ以テ信徒ハ神ニ對シ喜ビツ、アル

ヲ得即チ人ハ既ニ神ノ律法ニ背キタルモノナレバ正サニ神ノ怒ヲ起コスモノナレモキリストノ行爲ニ由テ神ト和ク「ヲ得ルモノナリ以上ハ是レ主キリストノ死ハ人類ニ對スル外部的贖罪ナルヲ證明シテ餘アリ又凡テ贖罪スルキリストヲ信ズルモノハ恐ルベキ審判ト神ノ怒ヨリ免カル、モノナリ但キリスト我儕ノ爲ニ死セザリシナランニハ人間ハ此審判ト怒ニヨリ滅サル、ナルベシコレ即チ贖罪ヲ論ズルニ當リ聖パウロノ意見ナルガ以下ハ又大ニ其所說ヲ確カムルモノナリ

第五章ノ終ニ於テ聖パウロハ第一(アダムト主キリスト、ノ人類ニ對シテ相似ノ點ヲ論述シ第二)簡短ニモーセ律法ノ目的ヲ指示シヌ即チ第二十節ニ曰ク「律法を立つるは罪を増さん爲なり」下彼ハ如斯論述シ來リテ後更ニ左ノ最モ肝要ナル語句ヲ以テシ而シテ其論ヲ結ビキ曰ク「律法は人類の罪の如何に大なるかを示し之に由り神の恩寵の如何に深且大なるかを示せり」下

此ル結論ニ緣因シテ第六章一節ニ記サレタルガ如キ異色ニシテ然モ最緊要ナル思想ハ出デ來リヌ記シテ曰ク然らば我儕何を言はんや恩の増せん爲に罪に居可き乎下此ハ神ノ恩寵ハ人類ノ罪ニヨリテ彰ハレタリ吾人々類ハ信仰ニ賴テ義トセラレ聖子ノ死ニ賴テ神ト和ゲテヲ得ルモノナルヲモテ吾人ハ神ノ恩寵ノ益彰ハレンガ爲ニ猶絶エズ罪ノ中ニアル可キカトノ意アルナリ而シテ此答ハ言フ迄モナク決シテ然ラズテフ事ナルハ明白ナリ聖パウロガ特ニ本問題ヲ掲ゲテ論ズル所以ノモ蓋シ彼ガ主キリストノ贖罪ニヨリテ人類ノ義トセラル、
トニ關スル教理ノ人心善化説ニアラザリシ事ノ明證ナランカ若夫レ然ラザランニハ彼豈ニ好ンデ本問題ニ論及スルノ要アラシヤ悲シキ哉古來基督教會ノ教師ニ主キリストノ死ノ唯一ナル目的ハ人類ノ道德心靈的性質ヲ喚ビ起シ人心ヲシテ罪ノ爲ニ甚ダシク悲シマシメ人ヲシテ遂ニ神ヲ愛セシムル換言スレバ犯罪ノ危險ヨリシテ人心ヲ防ギ人ヲシテ善ヲ行ハシムルガ爲メナリト教ユルモノアリ此ル教ハ

是レ罪アル人類ヲシテ猶絶エズ罪ヲ行ハシムルモノナリト謂フモノハ蓋シ一人モアラザル可シ加之猶依然舊窠ノ裡ニ跋巡シ罪ニ纏ハレナガラモ主キリストノ死ニ賴テ神ノ怒ヨリ救ハル、モノナリト思惟スルモノ此ル亞流ノ人ト雖モ一人ダニアラザルベシ然リト雖モ聖パウロノ福音ヲ宣傳スルニ當リテヤ此等ノ點ニ就キ彼ヲ訴フルモノ多ク是レアリキ彼ノ反對者等ハ曰ヒケラク彼ハ福音ヲ宣ベ傳フルニ苟モ信徒トシテ主キリストニ連ルモノ必ズシモ正義ノ行爲ヲナスベキノ必要アルヲナク一度救ニ與リタルモノハ罪ヲ犯スモ妨グルヲナク罪ハ是レ偶神ノ恩惠ヲ表彰スルヲ得ルモノナリト云ヘリキト羅馬第三章八節ニ如此わらは我儕が誣らるゝ如く善を來らせんとて惡を作は宣らずや此を我儕が言と云る者あり下聖パウロノ記セルヲ以テ見レバ當時此ル誣言ノ彼ノ身ノ上ニ群リ居タリト知ラル然レドモ彼ニシテ若シ主キリストノ死ハ人類ガ善化シ了リテ而シテ無限ノ滅亡ヨリシテ救ハレンガ爲メナリト言ヒシナランニハ此ル誣言ハ到底起ル

能ハザリシナランカ如何ナル教理ニテモ之ニ誤解ノ生ズルハ其主意ニ關スルモノナルハ吾人ノ善ク知ル所ナリ例セバ茲ニ或神學者ニ反對スル論者アリテ曰ク「彼ハ其教ニ由テ神ノ恩惠ト支配ヲ隱蔽セリ且人ハ自己ノ功績ニ由テ救ハル、ヲ得ルト宣教セリト」吾人ハ之ニ由リ該神學者ガ神ノ豫メノ定メノ教理ニツキ説ク所ナカリシヲ知り得ベシ又若シ反對論者ガ「彼ノ教ハ非自由論ナリ」ト云ハ、吾人ハ該神學者ガ人間ノ自由心ニシキ宣ブルトコロナカリシヲ知得ベシ如此聖パウロ反對論者ガ彼ヲ誣ヒテ「彼ハ人ハ如何ニ罪ヲ犯シテモ其ノ救ヒニ差支ナシト教ヘリ」ト云ヒシ言ニ徴シテ之ヲ見ルモ聖パウロガ所謂贖罪トハ人性ノ善化ヲ意味スルモノナリト教ヘザリシ事ヲ知ルニ足ル聖パウロハ初メテ此誣言ニ接セシキ毫モ之ニ答辯ヲ與フルコトナク彼ハ單ニ斯る人の罪せらるべきは宣なり(八)ト言ヒキ然レモ彼ハ人類ノ義トセラル、テフ教義ヲ論ジ終リテ後更ニ此ノ誣言ノ爲ニ論ジキ若シ彼ノ思想スル所ニシテ主キリストノ贖罪ノ目的ハ人類ヲ善化セシム

ルニアルモノナリトセシナランニハ「恩ノ増サン爲ニ罪ニ居ル可キカ」トノ疑義ニ對シテハ恐ラク左ノ如ク答ヘシナラン乎曰ク主キリストニ由テ人類ノ義トセラル、コトハ人類ヲシテ正義ノ人トナス事ナリ主キリストノ死ニシテ若シ神ノ怒ト罪ノ報ヲ移スモノナランニハ此ハ人心ヨリシテ罪ノ取り去ラル、モノニアラズヤ又主キリストヲ信ズル事ニ由リテ神ト和ゴトヲ得トノ意味ハ人類ノ心ヨリ神ノ稜威ヲ嫌忌シ或ハ神ノ慈愛ヲ疑フナドノ曲ミタル心根ヲ取り除クル事はナリ又主キリストガ神ト人トノ間ニ管保シテ和睦セシメ給フモノ決シテ神ガ人類ニ對シテ懷キ玉ヘル震怒ヲ奪ヒ去リ玉フニハ非ズ唯人ノ思フ所ヲシテ神ノ思フ所ト契合セシメ玉フノミ又義トセラルテフ事ノ意味ハ人ヲシテ犯罪ヨリ防止スルモノナルガ故一度義トセラレタル人類ハ到底再ビ罪ヲ犯ス事ヲ得ベカラザルナリ」ト然レモ彼ハ之ト全ク異ナリタル言ヲモテ論述ナシタリキ彼ハ人類ノ當ニ義トセラル、事ニ付キテハ實ニ左ノ如ク言ヒキ曰ク「吾人ハ惟主キリストヲ信ズ

ルニ頼リテ義トセラレ信仰ニヨリ主キリストニ聯リテ一體ノモノトセラレタレバ(パウラスマ)ニヨリテキリストト俱ニ死シ俱ニ葬ラレ而ノ又彼ト偕ニ甦ラシメラレタル者ナリ故ニ吾人ハ信仰ニヨリテ新生命ヲ領シ新キ境界ニ安住ス信仰ニヨリテ吾人ノ惡シキ性質ハ殺サレヌ即チ是レ主キリストト俱ニ十字架ニ釘セラレタル者ナリ爰ヲモテ一度義トセラレタル者ナランニハ尙絶ヘズ罪ヲ犯スハ到底出來得可カラザル事ナリトスト「蓋シ以上ノ所論ハ第六、七、ノ二章ニ亘リテ詳悉セラレヌ今兩章研究ノ結果トノ吾人ノ知り得ベキ主要ノ點ハパウロハ或人義トセラレナバ絶ヘズ罪ヲ犯ス能ハズテフ「ハ茲ニ再論セズ彼ハ主キリストノ死ニ由テ生ジ來ル結果ニアリト言ヘリ(一)ハ罪アル人類ノ信仰ニ由テ直ニ義トセラル、(二)ハ罪アル信徒ヲシテ漸次善化スル事是レナリ此二結果ハ吾人之ヲ混同スベカラザルベキナリ本書第一章ヨリ第五章ニ至ルマデハ吾人が主キリストニ由テ彼ノ不義ヲ以テ眞理ヲ抑フル人々ノ凡テノ不虔不義ニ向テ天ヨリ顯ル可キ

神ノ震怒ヨリ救ハル、モノナル事又吾人ハ主キリストヲ信ズルニ由リテ怒リノ日ト正義シキ審判ノ顯ハルル、日ヲ持チ望ム「ヲ得ル事又主キリストノ死ハ神ノ正義ナル性質ヲ充分ニ彰ハス者ナル事又人類ノ罪ノ爲メニ供ヘラレタル犠牲ト挽回ノ祭物ニノ凡テ人類ノ受ク可キ不幸苦痛等ヲ取り除クモノナル事ヲ説キヌ如此彼縷々數萬言説キ去リ説キ來リシトハ雖モ彼ハ五ヶ章中ニ於テ曾テ人心變化若クハ聖トセラルベキ事ニ説キ及ビタル事ナシ主キリストノ死ノ結果ハ人類ノ罪ヲ贖フモノニシテ全ク一時ニ成就セラレタルモノナル事及ヒ此ハ人心善化ニ關ハルモノニアラザル事ハ彼ガ主トシテ論ズル所ナリキ聖パウロハ義トセラレタルモノ、罪ヲ犯サハル事ヲ論ゼシハ第六章ヨリノ事ナリトス故ニ若シ主キリストノ死ハ人類ノ外部的贖罪及ビ外部的ニ義トセラル、事ニ關ステフ思想ヲスルモノナランニハ本書第一章以下八章ニ至ル聖パウロノ所論ハ悉ク混亂シ錯雜シ了解シ難キモノトシテ了センノミ

人或ハ言フ本書並ニ加拉太書簡ハ共ニ是レ彼ノ所論ニ反對スルモノニ對シテ特ニ起草セルモノナリ彼ハ主キリストノ死ノ外部的贖罪タルベキニ就テハ當時ニ限リテスミ説キタリシガ如シト是レ出來可ラザルヲナレモ吾人ハ本書簡ノ著述後四五年ニ成レル著作ヲ執テ之ヲ驗セザルベカラズ

羅馬書著述ノ後凡ソ四年聖パウロハ羅馬府ニ牢囚ノ身トナリキ之ヨリ前ユダヤ人等ハ彼ヲ告訴シテ言ヒケラク彼パウロハ到ル處ユダヤ人ヲ煽動シテ謀叛ノ氣ヲ熾ナラシメ且ツエルサレムナル眞神ノ宮殿ヲ潰スヲヲナシタリト彼ハ之レガ爲ニカイザリヤニ在ルユダヤ地方廳ノ審判ヲ受ケヌ彼ハ其宣言ニ對シテ羅馬皇帝ニ上告シヌ彼ハ其ノ牢囚ノ身トナリヌル間其巡回傳道ヲ中止セザルベカラザルニ付キ甚タ心ヲ痛メタリキ然レモ彼ハ二年間牢囚ノ身トノ羅馬府ピリトリアム衛戍ニ居ルノ際筆ヲ擲テキリスト公會ノ爲ニ最モ重要ナル事業ヲナシタリキ彼ハソノ獄ニ繫ガレケル間一家ヲ借賃スル事ト友ノ來訪

ニ應答スル事トヲ許サレキ世人ハキリスト教ノ大教師ガ牢囚ノ身トナリテ衛戍内ニ在ルヲ聞キ彼ノ教理ヲ學バンガ爲ニ彼ヲ來リ訪フモノ甚ダ少ナカラザリキ此ノ時ニ當リテヤユダヤ黨人等ガ彼ニ反對スルノ氣焰稍薄ギシ如クニ見ヘキ然レモ羅馬府ニ在住セルユダヤ黨ノ傳道者等ハ聖パウロ牢囚ノ苦ヲソ一層酷ダシカラシメンガ爲メ朋黨比周シテ主キリストヲ宣傳ナシタリキ聖パウロ腓立比一〇十五ニ記シテ曰ク「また猜忌と分争に因てキリストを宣ふる者あり又善意しに因りて之をなす者あり彼は我が縲紲の苦を増加んとを欲ひ誠の心なく黨を結ぶ心よりキリストを宣べ」下是レ實ニ當時ノ光景ナリキ然レモ彼ハ固ヨリ之ニ頓着スルヲナク泰然トシ其態度ヲ持シヌ而シテ基督教會ニ取リテ最モ悲シムベク且ツ最モ危險ナル一事件ハコロサイ及其附近ニ於ケル彼ニヨリテ建設セラレタル諸公會中ニ起リタリキ則チ眞正ナル福音ニ雜ユルニユダヤ哲學者ノ唱道セル難行說ヲ以テシ又之ニ糅ユルニ東方哲學者ノ宇宙起原秩序論ヲ以テシ混淆茲ニ一

新宗教ノ形ヲトリテ未熟ナル信徒ノ思想ニ投合シ其主キリストニ於ケル眞實ナル信仰ヲ亡ボサントハナシタリキ此ノ新宗教ヲ指シテ(ノスチシズム)ト云フ(ノスチシズム)トハ宇宙ノ根元及秩序ヲ知識スルノ學ト云フノ義ナリ故ニ彼ハコロサイ人ニ贈ルニ一書ヲ以テシ宇宙ノ根元ニツキ眞正ナル知識ヲ授ケタリキ即チ宇宙ト主キリストノ關係頗ル密接ナルモノアル事ヲ論ジ主ノ死ハ人類ノ爲ニ挽回ノ祭物タル事ヲ明示セリ而シテ彼ハコロサイエベソ兩書ヲ著ハシテ既ニ其以前ニ成リタルコリントロマニ記サレタル所ト相異リタル點然モ最モ緊要ナル點ヲ教示セリ彼ハ當時ロマ帝都ニ在リタルヲモテ必ズヤ彼ハ物珍ラシキロマ府ノ光景ニ就キ感得スル所アリタルベシ抑モロマ帝國タルヤ叢爾タル一小天地ニ過ギザリシモ爾後八百年間時運此ノ國ヲ祝シテ漸次盛大ニ赴キ今ヤ全世界ノ極ニマテ及ブガ如クニ見ヘタリキ當時ロマ帝國ハ既ニ西ハ西方歐羅巴即チスペイン(現今ノフランス)ヲ通シテ大西洋ニ至ル迄擴張セラレ北方ハスコットランド

ノ山ヨリ獨逸ノラインダニユーブ河ニ至ルマデ東方ハユーフレーツ河ニ至ルアジアノ地ヲ占メ南方ハ地中海ヲ渡リテアフリカノ大砂漠サハラノ近傍ニ至ル迄咸ク其版圖ノ中ニアリキ此等ノ地方ハ固ヨリ多クノ異リタル國民ニヨリテ組織セラレ河海山嶽ニ由テ互ニ相境セラレタレバ歴史、言語、法律、習慣等ニ於テ大ニ異ナル所ノモノアリキ此等ノ國民ハ漸次ロマ帝國ノ爲ニ征服セラレキロマ政府ハ之ニ平和ヲ與ヘ且ツ新法律ヲ施行シ此等諸國ヲ統一シテ一大政治的組織ヲナシタリキ

聖パウロ在世當時五十年間ハ此等ノ諸國ハ極メテ平和ナル状態ニアリキ其間何時トハナク穩便ニ古來因襲ノ風習ヲ脱却シテロマノ風俗規則ヲ採用シ自然其俗ニ化セラレ、ニ至リキ彼等國民ハ自然獨立ノ遺傳モ乃至國民的魂サヘモ無頓着ニ附シ去リ唯ロマ政府ノ赫々タル榮華ニ心眩シ以爲ラク此ノ聲譽ト光榮トハ以テ己ヲ繁榮ニ赴カシムルノ源ナリト嗚呼此ノ政治的組織コソ世界ニ於ケル唯一ノ大勢力ナ

リキ若夫レ此ノ一大帝國ニシテ足ヲ舉ゲテ起シテ歐羅巴北部ノ森林中ニ住ヒタル野蠻人モサテハ遠ク東方ノ一大國タル支那天竺モ其劍戟ノ下ニ服セシメン事ハ固ヨリ易々タル事ナリシノミ而シテ羅馬帝國ガ此ル壯圖ヲ試ミザリシモノ其ノ力ノ弱クシテ足ラザルヲ憂フルガ爲ニ非ズノ却テ其政治上餘リ遠隔セル國々ヲ支配スルノ不便ヲ感シタルヲ以テナランカ聖パウロハ此ノ哀然タル大帝國ノ聲譽ト威勢トヲ考フルニ當リテハ端ナクモ此ノ一大帝國コソ主キリストノ建テ給フベキ一大王國即チ天地萬物ヲ打テ一團トナシ之ニ君臨シ玉フベキ永久ナル王國ノ預象ナラン事ヲ想像セシナル可シ而ノエペソ書一章九、十、廿一節ニ記シテ曰ク我儕に其旨の與義を意のまゝに示せりこれ自ら定め給ひし所あり即期の満るときに至りて或は天に在或は地にある萬物をキリストに歸せしめんが爲に定め給ひし所なり即ちキリストに行ひし所にして彼を死より甦らせ諸の政と權威と能力と宰治また此世のみならず來らんとする世にも凡て稱へる所の名の上

に置き天の處にて己の右に坐せしめん能なりまた一切の物を彼の足下に置また彼を一切の物の上に首となし此を教會に賜ひて其首と爲り下此等ノ諸節中ニ指示セラタル永久ナル神ノ政治ト其國トハ世界ノ諸ノ國ノ信徒等ガ其中ニ取り包マレタル政治及國ナリトスユダヤ人ハ曾テ數世紀間主キリストノ降生ヲ望ミ居タリキ而ノ今ヤ彼等ハ主キリストニ接スルヲ得彼ヲ信ジテ其民トナルヲ得ルニ至リテ獨リ彼等ノ然ルノミナラズ異邦人ニシテ福音ノ宣傳ニヨリノ初メテ主キリストノヲ聞キ彼ヲ信ズルニ至リシモノモ亦咸其民ナリトス聖パウロハ在エペソ信徒ノ爲メニ祈禱ヲ捧ゲタリ彼ハ聖靈ノ啓牒ニ由リテ彼等ガ主キリストノ國ト其榮光トヲ解シ得ンヲ願フ一切ナリキ前ノ節ニ記サレタル聖パウロノ所謂榮光トハ神ノ至大ノ權威即チキリストトイエスヲ其死ノ弱キヲ耻ツベキ事賤シメラルベキ事ヨリシテ甦ラセテ天位ニ上ラシメ玉ヒタル權威ニヨリテ然ルモノナリトス神ハ又其ノ權威ヲモテ信徒ノ内ニ働キ此ト全様ナル榮光ノ地位ニ上ゲ

サセ玉フ之ヲ例センニ當今文明國ニ行ハル、政治ハ凡テ其ノ配下ニ
 屬スル國々ノ形勢ヲ一變セシメ或ハ沼澤ヲ通シテ之ヲ河海ニ注ギテ
 肥沃ノ土地トナラシメ斧ヲ深森繁叢ノ中ニ入レテ之ヲ田畑トナシ鑛
 山ヲ穿ツテ石炭及鑛類ヲ採掘シ新ニ國道ヲ起シテ還往運輸ノ便ヲ謀
 リ工業ヲ興シテ繁榮ナル新城府ヲ建テ占領ノ當時ニアリテハ荒敗用
 ユルニ堪ヘザリシ州郡モ漸次化シテ豊饒ナル州郡トナリシガ如ク神
 ハ人類ヲシテ己ノ財產トナシ己ノ嗣業者トナシ吾人ノ如キ無用ノ長
 物ヲ化シテ有用ナルモノトナシ玉フ主キリストヲシテ其ノ右ノ手ノ
 方ニ上ラシメ給フ權能ハ均シク吾人ノ内ニ働キ給フベキ權能ノ預象
 ナリトス

然レ凡神ハ唯聖靈ニヨリテノミ當ニ吾人ニ賜フ可キ業ノ榮ノ富ヲ吾
 人ニ知ラシメ玉フ(弗一〇十八)故ニ信徒ハ其ユダヤ人タルト異邦人タ
 ルト其何レニモセヨ今ヤ未來ノ榮光ヲ望ミ主キリストノ生命ヲ受ケ
 テ神民タルヲ得然レ其昔時ニアリテヤ神トノ間柄ハ宛ラ他人ノ如ク

咸怒ノ子ニテアリキ(二〇三)若更ニ昔時ニ於ケル異邦人トユダヤ人ト
 ノ有様ヲ比較シ來レバ異邦人ハユダヤ人ヨリモ一層憫ムベキモノナ
 リキ何トナレバユダヤ人ハ神ノ命令ニヨリ其割禮ヲ受クルニヨリテ
 他ノ國民ヨリ取り離サレテ所謂神ノ選民トハナリキ其政治ハ神ノ之
 ヲ建テ玉ヒシ所ニシテ國民ノ據リテ確立スル所以ノ基礎ハ神ノ約束
 ナリキ如斯彼等ハ神ノ寵兒ニテアリナガラ神ノ誠命ニ背キテ忿怒ノ
 子トナリキ然モ彼等ハ此ル不幸ノ中ニモ尙神ノ約束ニヨリテ神ニ近
 キ居ルモノナリキ其ユダヤ國史ノ最惡最醜ノ時代ニ於テ預言者ト聖
 詩作家トハ奮然トシテ起テ神ノ默示ヲ提ゲテ國民ノ不法ヲ嚴譴セリ
 然モ又一方ニハ其苦痛ノ中ニアリテ安慰ヲ受ケシメンガ爲ニダビデ
 王ノ裔ニヨリテ來ルベキ主キリストト其國ノ榮光ヲ敎示スルヲヲナ
 セリ然レ凡異邦人ニ至リテハユダヤ人ト大ニ異リ主キリストヲ望ム
 一毫モ之レナカリシナリ蓋シ彼等ハ神ノ王タルヲ及教主ノ臨ミ玉フ
 ベキトヲ知ラザレバ又之ヲ望ムトモナカリシノミ弗二〇十二ニ曰ク

「其時は爾曹キリストなくイスラエルの籍にあらざる異邦人にして夫の約束について結び玉ひし契約に與りなく望なく又世に在て神なきのなり」ト

以上ハ是レ異邦人ノ状態ノ不幸ヲ云ヘルモノナルガ此等異邦人ハ如何ニシテ此ル不幸ノ状態ヨリ挽キ回サレテ神ニ復ルヲ得シカ聖パウロハ之ニ應テ曰ク其ハ神ノ聖子ガ天ヨリ降リテユダヤ人ト異邦人トニ區別ナキ性質即チ人性ヲ取リテユダヤ人ト異邦人トノ間ニ存スル區別ヲ取除キ此ノ二者ヲシテ再ビ打テ一人種トナシ而シテ自ら十字架に死し彼等を神と和がしめ玉ひしによる(三〇十六)ト然ルニ論者ハ曰ク這般ノ贖罪の事業ハ是道德的ノモノナルカ別言スレバ主キリストガ異邦人ノ靈性ト氣質トヲ善化シテ偶像禮拜ノ過誤ト無益ナルトトヲ悟ラシメ彼等ヲシテ眞神ヲ拜スルニ導キ又ユダヤ人ニ對シテハ神ノ浩大ナル慈愛ヲ顯ハシ其ノ心ヲ碎キテ悔ヒ改メサセ主ニヨレル恩惠ト眞理トハモーセニヨレル律法ヨリモ勝リテ妙ナルモノナル

トヲ辨ヘサセ給ヒシモノナルカト這般ノ論者ニ對シテハ聖パウロガエペソ人ニ贈レル書ノ第二章ハ充分ナル答辨書トシテ見ルヲ得ンカ蓋シ主キリストガ遂ゲ玉ヒタル調和事業ハ是レ外部的事業ナリ其第十四節ニ曰ク彼は我儕の命なり二者を一とふし冤仇となる隔の籬を毀ちト二者トハユダヤ人ト異邦人ヲ指シ隔の籬トハ第十五節ニ於テ謂フ所ノ律法ノ中ニ命スル法是ナリモーセノ建テタル禮典中ニハ主キリストガ死ニ至リ玉フマデ異邦人トユダヤ人トノ間ニ區別ノ存ス可キヲ記サレタリソハ言フ迄モナク外部的區別ナリ實ニ主キリストハ人類ノ相互間ヲ調和シ玉ヒキ又主キリストガ神ト人類トノ調和ヲ遂ゲ玉ヒシハ其十字架ノ死ニ由テ人類ノ神ヲ嫌忌スルノ情ヲ取り去リ給ヒシニ非ズ神ガ人類ニ對シテ懷キ玉フタル震怒ヲ消シ給フニ是ナリキ第十六、七節ニ曰ク「また十字架を以て冤仇を滅し又これを以て二者を一體となして神と和がしめん爲なり又彼來りて福音を傳へ爾曹遠かりし者及近き者にも和平を宣たり」ト是レ主ガ神ノ震怒ノ下ニ

アリタルモノニ和平ヲ宣べ傳へ玉ヒシナリ抑モ福音ノ主旨トスル所ハ何ゾ曰ク神ハ如今人類ヲ罪人トシテ之ニ相對敵シ玉フ者ニアラズ何トナレバ既ニ神ト人類トノ間ニハ主キリストガ十字架上ニアリテ流シ玉ヒタル血汐ニヨリテ和平ノ成シ途セラレタレバナリ此ノ和平ニヨリ凡ノ人類即チ其ユダヤ人タルト異邦人タルトニ拘ラズ齊ク咸信仰ヲ以テ聖靈ノ祐ニヨリ父ナル神ニ復歸スルヲ得而ノ宇宙ハ主ニ由リテ統一セラレ且ツ無窮ニ亘ル可ク著歩シヌ又往古以來アブラハムノ子孫ト異邦人トノ間ニ置レタル區別ハ全然消滅シ又凡ソ世界ノ信徒ハ其位地ノ高卑ヲ問ハズ主ニヨリテ一體トナリ又神ノ住ミ給フ無窮ナル靈ノ聖殿ニ於テキリストハ活氣アル隅ノ首石ニシテ凡テノ信徒ハ其石ナリテフ是ナリ(十九節主廿二節參照)

エペソ書ノ主要ノ點ハ主キリストノ死ハ至上唯一ノ者ナリテフ事是ナリ聖パウロハ其第一章ニ於テ神ガ宇宙ニ對シテ有シ給フ永久ナル目的ヲ指示スル前ニ當リ先ハ主キリストノ死ニツキ第七節ニ記シテ

曰ク「その恩の豊なるに由て彼にある我儕その血により贖即ち罪の赦を得るなり」下彼ハ神ノ目的ヲ指示スベキ最中ニ於テ復主キリストノ死ノ目的ヲ指示セリ二章十三節ニ曰ク「然れども今はキリストイエスに在ば巖に遠かりし爾曹イエスの血に由て近けり」下又彼ハ神ノ宇宙ニ對シテ懷キ給フ目的ヲ書キ終リテ後更ニ信徒ニ向テ道德ヲ實行スベキヲ奨ムル論中ニ於テモ又其死ヲ指示シタリキ即チ五章二節ニ曰ク「また愛をもて行ひキリストの我儕を愛し我儕に代て己を禮物となし犠牲となして神の前に馨香あらしめんとし獻給ひしが如くすべし」ト是レ明ニ主キリストノ十字架ハ神カ宇宙ノ極ニマデ行ラキ給フ事ノ中心點ナリトシテ記サレタルモノニアラズヤ而ノ神ノ行ラキハ單リ人類ニ對スルノミニ非ズ凡ソ天ニ在リテ活ケル者ニツキテモ亦然リトス神ハ即チ期ノ滿ルトキニ至リテ或ハ天ニ在或ハ地ニアル萬物ヲキリストニ歸セシメンガ爲ニ定メ給ヒシ所ナリ」下(弗一〇十)此ハ是レ神ノ眞目的ナリ神ハ此目的ヲ成就センガ爲メニ主キリストニヨリ

テ忿怒ノ子タル人類ト相和ラギ給ヒキ而シテ此ル和平ノ唯一ノ手段ハ主キリストガ十字架ニ死シ玉フ事ニヨルノミ

聖パウロハ又他ノ書簡ニ於テ主キリストノ死ニツキテ之ヲ論シ而シテ更ニ自家ノ使徒タルノ職ヲ盡クスハ是レ神ノ救助ト恩惠トヲ受クルヲ得ル所以ノ道ナリト彼ハ如斯屢々自家ノ意中ヲ吐露スルヲナセリ此ハ特ニコリント人ニ贈レル後書ニ於テ著シトス彼ハ其生涯ヲ以テ主キリストニ仕ヘ種々ナル艱難ニ遭遇シ或ハ窘逐迫害ヲ蒙リ或ハ事ニ當リテ途方ニ暮ル、ナド一様ナラス難事ニ會セシトハ雖モ彼ハ泰然トシテ此ハ片刻ノ輕キ苦ニシテ極メテ大ナル窮ナキ重キ榮ヲ我儕ニ得セシムルモノナリト思惟シ(後四〇十七)又來ラントスル無窮ノ生命ト圓滿ナル幸福トヲ熱切ニ希望セリ彼ハ死ヲ懼レザリキ何トナレバ其ノ主キリスト、偕ニアランヲ喜ビタルヲ以テナリ(五〇一ヨリ八マデ參照)然レモ時トシテ主ガ基督教會ノ光榮ヲ完成センガ爲ニ再ヒ世ニ降り玉フ可キヲ思惟スルニ及ヒテハ又悚然トシテ畏懼スル

所アリキ何トナレバ彼ハ其使徒タルノ職務ニ就テ審判ヲ受ケザルベカラザレバナリ即五章十節ニ曰ク(蓋われら必ズ皆信徒悉皆)キリストノ臺前に出で善にもあれ惡にもあれ各々身に居て爲し所のことには循ひ其報を受べき者なればなり)下彼ハ其ノ職務ニツキ詳シキ報告ヲ審判者ノ臺前ニ提出セザルベカラザルヲ善知セリ而シテ彼ハ其熱心勉強大膽ナルニヨリテ或ハ褒賞ヲ賜ハリ或ハ多少譴責ヲ蒙ルヲ免カルベカラザルヲ思惟セリ蓋是レ彼自ラ主ニ忠實ナルベキヲ深ク感得スル所アリシニ因ル然レモ彼ハ主キリストガ人類ヲ審判キ玉フノミナラズ又人類ヲ愛シ玉フヲモ思惟セリキ第十四節ニ曰クキリストノ愛我を勵せり)下此ハ頗ル意味深長ナル一句ニシテ聖パウロハ主キリストノ深ク己ヲ愛シ玉フヲ了悟セリ爾來主キリストノ愛ハ彼ノ生涯ヲ運轉スル唯一ノ標的トハナレリ譬へハ遊星ノ太陽ヲ中心トシテ其系路ヲ誤ルコトナキガ如クナリ彼ハ此ノ愛ノ力ニ由リ唯タ一直線ニ主キリストノ定メ玉ヒタル義務ヲ遂行シ斃レテ止ムノ精神ヲ有

シタリキ彼ノ著作ハ主キリストノ愛其思想ニ流通シ其靈心ヲ支配シ其性質ヲ鼓舞作興セルヲ證明シテ餘アリトス是ヲ以テ其書中ニハ幾度トナク主キリストノ名ヲ記シ或ハ其論ノ最中ニサヘ主キリストノ名ヲカ、ゲ姑ク其論歩ヲ停メテ主キリストノ榮光ヲ頌揚セリ或ハ時トシテ論辯ノ代トシテ主キリストノ愛ヲ説明シヌ彼ノ思想セル所ニヨレバ主キリストノ愛ヲ顯彰スルノ手段ハ唯一アルノミ乃チ主ガ自ラ謙シテ人性ヲ取り玉ヒシヲナルカ曰ク否然ラバ主ハ罪人ヲ救ノ望ヲ起サシメンガ爲メ説キ玉ヒタル譬喩ナルカ曰ク否然ラバ又恩惠ノ約束ニヨリテナルカ曰ク否然ラバ主ノ親切ナル奇蹟ニ由リテナルカ曰ク否然ラバ稅吏遊友ノ爲ニ宣ベ給ヒシ赦罪ノ福音ナルカ曰ク否然ラハ將ニ來ラントスルエルサレムノ災禍ヲ思フテ泣然泣下シ玉ヒシヲナルカ曰ク否彼ハ此等ノ點ニ於テ一モ取ルトコロアルヲナシ彼ハ主キリストガ罪アル人類ニ代リテ死シ玉ヒシ事ニヨリ其愛ノ深厚ナルヲ確メ且ツ絶對的ニ顯彰セラレタルモノトナシキ五章十四節

ニ曰ク「キリストの愛われを勉せり我儕思ふに一人衆の人に代て死たれば衆の人すでに死たる也」下獨リ主キリストノ死ヲ其效ノ真正ナルヲ證スルノミナラズ抑モ亦タ人類ノ代トシテ死シ玉ヒシ事ナリキ而ノ主キリストノ死シ玉ヒシハ是レ總テノ人類ノ死セル者ト全様ナリ故ニ主ノ死ハ吾人ノ生涯ニ取リテ最肝要ナルモノナリトス主キリストノ死リ給ヒシモ是レ人類ノ爲ニ死リ給ヒシナリ(一五)吾人ハ主ノ目的ナリキ是ヲ以テ主キリストヲ信スル者ニアリテハ單ニ善ヲ行フノ力ヲ得ンガ爲ニ其心ニ一變化ヲ受クルノミナラス又新世界ニ進ムヲ得彼ニヨリ宇宙ノ萬法舊キハ去リテ咸新裝ヲナスニ至レリ(十六、十七)是ニ於テ吾人ハ主キリストニ對シテ新關係ヲ有スルニ至リキ蓋其關係タルヤ吾人ガ知己親戚等ニ於ケル關係トハ大ニ其趣ヲ異ニシ肉體ニ就ケル關係ニアラスシテ靈ニツケル無窮ノ關係タリ此ル信徒ノ新狀態ハ神ノ定メ玉ヒタル所ニシテ第十八節ニ記シテ「一切のもの神

より出彼れキリストにより我儕をして己と和がしめ且この和がしむる職を我儕に授く下ハ云ヘリキ所謂此如キトハ如何他ナシ神ハ人類ヲシテ自ラ其ノ罪ヲ負ハシメ玉ハズ人類ヲシテ己ト和カシメ玉ヘリキ(十九節)若シ夫レ神ニシテ罪ニ對スル怒ヲ思フ儘ニ施シ玉ハシニハ吾人人類ハ到底世ニ立ツベキノ餘地アルナシ神ガ將ニ其怒ヲ受クヘキ人類ニ對シテ其罪ヲ負ハセ玉ハサリシト主キリストノ間ニハ何等ノ關係存スルカヲ問ハンニ第廿一節ニハ記シテ神罪を知らざるもの(キリスト)ヲ我儕の代はりに罪人とせり是れ我儕をして彼に在りて神の義となるを得しめん爲なり下ハ云ヘリキ蓋本文中ニ含まレタル教理ハ聖パウロガ使徒トシテ其義務ヲ執ルノ基礎ナリトス何トナレバ此事實已ニ確立ス故ニ彼ハ今地ニ在リテ主キリストニ代リ其ノ使者トシテ凡ノ人類ヲシテ神ト和ガシメンコトヲ努メタリキ但シ其和ギタルヤ罪人ヲシテ全ク善化セシムルニ由テ來ルニ非ズ只其罪ヲ負ハセケルニ由テ然ルノミ人類ガ神ヲ嫌忌スル心ヲ變化セシムルニ

ヨルニ非ズ只神ガ人類ニ對スル震怒ヲ移シ玉フニ由テ然ルノミ其震怒ヲ移シ玉フノコトハ只主キリストガ吾人ニ代リテ罪ノ刑罰ヲ受ケ玉フニ由リテノミ而シテ其和ラキノ結果ハ人類ヲシテキリストニ在リテ神ノ前ニ義タルコトヲ得セシムルニアリ

贖罪ノ教理ニツキ聖パウロノ證明スル所ヲ見レバ主キリストノ十字架ハ彼ガ説キタル凡ノ教ノ中心ナリ而シテ其ノ十字架コソ主ガ人類ノ罪ノ爲ニ死シ玉ヒシ者ナリトハ教ヘヌ彼ハ基督教會内ニアリテ凡ノ信徒ヲシテモ一セノ律法ニ從ハシメンコトヲ熱望セルユダヤ黨人ニ對シテ曰ヒケラク「人類ハ律法ニヨリテハ到底無窮ノ生命ヲ享クルコト能ハズ律法ハ人類ヲシテ唯咒詛ハルベキモノトナス耳而シテ主キリストトハ人類ニ代リテ自ラ咒詛ノ子トナリ而シテ人類ヲシテ律法ノ咒詛ヨリ贖ヒ玉ヒキ」ト

主キリストガ異邦傳道ノ大任ヲ彼ニ與ヘ玉ヒシハ彼ニ取リテハ最重要ノ義務トシテ考ヘラレキ彼ハ常ニ異邦人ニ對ヒテ主キリストノ十

十字架ノ死ハ神ト人類トノ間ヲ調和セルモノニシテ人類ノ罪ニヨリ將ニ來ル可キ神ノ震怒ヨリ救ハル可キ唯一ノ道ハ我儕ノ爲ニ死シ玉ヒタル主キリストヲ信ズルニアルノミトハ宜傳シヌ蓋シ人類ノ頭上ニ落下シ來ル可キ一大危険ハ唯人類ノ罪ニヨリテ然ルノミ而シテ此ル危険ヲ免レテ靜平ナル境地ニ進ムノ法獨リ主キリストノ十字架ニアルノミ而シテ主ノ死ハ神ノ義ヲ顯彰シ又人類ノ罪ノ爲ニ唯一ノ挽回ノ祭物ナルヲ又神ハ主ノ死ニヨリテ己ト人類トノ間ヲ調和シ宇宙ヲ通ジテ心靈的一政治ヲ建設シ玉フノ目的アルヲ又凡ソ主ヲ信ズルモノハ既ニ新王國即チ新世界ニ入りタルモノナルヲ而シテ此ハ主ノ死ト甦トニ由テ成就セラレタルヲ而シテ彼ノ教理ノ最モ重ンズベキ點ハ神ガ人類ノ罪ヲ赦ルシ玉フベキ人類以外の要素ハ主ノ十字架上ノ死ニアルヲ是ナリトス以上ハ贖罪ノ教理ニ關スル聖パウロノ證明ナリトス

贖罪論

第八章

主耶蘇基督贖罪論

第八章 贖罪ノ事實ニ關スル聖公會歷史的證明

吾人ハ前章ニ於テ使徒等ガ人類赦罪ノ外部的理由ヲモテキリストノ死ニアリトシタリシ事而シテ又此ル教理ハ主ガ親ラ教ヘ玉ヒタル教理ナル事及ビ主キリスト臨終ノ際ニハ秘義的痛楚ノ伴ヒシ事而シテ主ガ此ノ痛楚ヲ慄然トシテ悚懼シ給フタル所以ヲ説明スルハ其法唯一ツアルノミ曰ク十字架ニ釘リテ其身ニ人類ノ罪愆ヲ負ヒ自ラ罪塊トシテ死シ玉ヒシ事又主ハ此ノ世ノ罪惡ヲ消滅セシメンガ爲メ身ヲ犠牲トシ挽回ノ祭物トシテ死シ玉ヒシ事等ニ就キ少シク論究スル所アリキ

左レバ苟モ主キリストヲモテ肉體ヲ取リテ顯レ玉ヒタル神ナリト信シ使徒等ノ教示ト主キリストノ垂示トハ同一ニシテ差謬ナキヲ信ゼンモノハ吾人ガ前章論ズル所ニヨリ縱令贖罪ニ就キ充分ナル説明ヲ

加フル事能ハザリシトハスルモ贖罪ノ事實ニ至リテハ歡喜踴躍之ヲ
信受セザル可ラザルナリ

吾人ハ今這般ノ信ヲ愈堅確ナラシメンガ爲ノ少シク説ク所アル可
シ讀者ノ知レルガ如ク古來キリスト教徒中ニ在リテ或ハ謬リ想ヘル
者アリ曰ク外部的贖罪ノ教理ハ神ノ公義ニ基キ堅ク定メラレタル教
理ニ非ズシテ單ニ人類ノ思索的結果ナル而已トキリスト教會ノ初代
大神學者等ハ今ヤ多少輕視セラル、觀アルヲ免レズ現世紀ニ於テ彼
等ノ思想ノ誤解セラル、モノ蓋シ甚ダ鮮カラズ曰ク彼等ハ神ノ聖性
ヲ論ジ又神人兩間ノ關係ヲ論ズルニ方リテ神ハ人類ノ慈父トノ其自
身ヲ顯現シ玉フ事又神ノ道德的榮光トモ謂フ可キハ其圓滿ナル仁愛
ニアル事ヲ忘却シタリキト或ハ曰ク彼等ハ人性ヲ論ズルニ方リ些ト
ノ同情ナク人ノ罪ヲ指示スル事余リニ深酷ニ其將ニ正當ニ分疏ス
可キ辯論ヲサヘ忘却セリキト或ハ曰ク彼等ハ神ヲ憂鬱ニシテ憐憫
ノ情ナク凡ノ人類ニツキ忿怒ヲ懷キ玉フト思惟シ隨テ其ノ忿怒ヲ消

滅ス可キガ爲メ神ハ挽回ノ祭物ヲ要ノ主キリストノ死ヲモテ之ニア
テ茲ニ人類ノ罪ヲ赦シ玉フト云ヘリキト或ハ曰ク彼等ハ神ガ世界ヲ
統治シ玉フト恰モ今ノ世ノ審判及ビ其手續ト其嚴酷トニ相類ス故ニ
神ハ人類ノ罪ヲ赦サンガ爲ニ世ノ法律ガ人ニ刑罰ヲ科スル態ニ倣ヒ
人ノ罪ヲ移シテ之ヲ主キリストノ身ニ累テ給フトノ教理ヲ發明シタ
リキト初代大神學者等ガ現今ノキリスト教徒ニヨリテ誤解セラル、
事夫レ如此此ル誤解ノ結果トシテ外部的贖罪論ヲナスニ當リ之ヲ立
證スルニ使徒等ノ教示ヲ以テスル事アレバ其ハ眞實ラシキ辨明ナリ
トサモ不承知ラシク言フモノ往々之レアリ其口氣何ゾ甚ダ輕浮ナル
ヤ蓋シ初代大學者等ハ自家神學ノ組織ヲ完フセンガ爲メニ外部的贖
罪論ヲ發明スルヲセザリキ此ル思想ハ聖書ノ中ニアリテモ初代キ
リスト教徒ノ胸懷ニアリテモ最初ヨリ確言セル所ノモノナリキ赦罪
ノ理由トシテ主キリストノ死ヲ論ズルハ神學者ノ所說中尤モ了解シ
難キ點ナリキ彼等ハ此ノ事實ヲ説明センガ爲ニ往々荒誕不經ノ想ニ

陷ル事アリキ若シ夫レ彼等ニシテ贖罪ノ事實ヲ否定スルモノナランニハ其作ス所甚ダ容易ナラザルモノアリシナル可シ
吾人ハ今外部的贖罪ノ教理ニ關スル歴史ヲ叙センレトスルニ方リ姑ク筆ヲ使徒時代ニ染メテ徐々其歩ヲ進ム可シ
使徒等ノ直ク後ノ時代ニ於テハキリスト教徒ハ使徒等ノ教示ヲ深ク心裡ニ銘シ主キリストノ死ニ由テ贖罪ノ得ラル可キヲ確信シ之ニツキ一ノ説明ヲモ要スルナカリキ當時ユダヤ教及其他當有自國ノ宗教ヲ捨テ、キリスト教會ニ入ルモノハ悉ク咸犧牲ヲ獻ゲル禮典ノ如何ヲ知リキ故ニ彼等ガキリスト教會ニ入ルニ當リ主キリストノ死ハ人ノ罪ノ爲メニ完全キ犧牲テフ教理ヲ聞キ敢テ之ヲ恠マザルノミナラズ彼等ハ却テ之ニ満足シヌ又當時代ニアリテハ奴隸ノ賣買日トシテ見ザルナク而メ其奴隸ハ償金ニヨリテ自由ノモノトセラレキ世ニ於ケル此ル事實ヲ目撃セルキリスト教徒ハ主キリストガ人ノ罪ヲ贖ハンガ爲メニ其生命ヲ舍テ人ノ靈ヲシテ自由ナルモノトナラシメ玉

ヒケル其大功ヲモテ之ヲ主ニ歸セザルベカラザルヲ了解セリ實ニ彼等ハ主ガ吾人ノ爲メニ即チ其罪ヲ贖ハンガ爲メニ架上ノ死ヲ遂ゲ玉ヒキヲ確信セリ是ヲモテ彼等ハ必ズシモ其説明ヲ要スルナカリキ
羅馬ノ監督クレメント(紀元百年)其コリント人ニ贈レル前書ニ記シテ曰ク主キリスト我儕ノ爲ニ其血ヲ流シ給ヒタレバ我儕ハ當ニ至誠ヲ抽キテ彼ヲ崇敬ス可キナリ又主ハ我儕ヲ憐恤スルノ深ニヨリ神ノ聖旨ノ隨ニ我儕ノ爲ニ其寶血ヲ注ギ給ヒキ即チ我儕ノ肉体ノ爲メニハ其肉ヲ供シ我儕ノ靈ノ爲メニハ其靈ヲ與ヘ玉ヒキト而シテ彼ハ又彼ノ雅各及ヒ希伯來書ニ於テ信仰ノ好模型トシテ記サレタルラハブガ會テイスラエルノ偵者ヲ接テ彼等ヲ危機一髮ノ際ニ救護セル石垣ノ上ナル窓ニ一條ノ赤紐ヲ結び付ケ其家族ト親戚トノ生命ヲ守リタル其赤紐ヲモテ此ハ主キリストノ血ニヨリテキリスト教徒カ其ノ滅ビヨリシテ救拯セラル、ノ前徵ニシテ且ツ預言ナリキトハセリキ乃チ曰ク凡ソ神ヲ信ジ且ツ之ヲ望ム人々ニアリテハ主キリストノ血ニ由リ

テ當ニ其贖ヲ受ク可キハ這ノラハブノ赤紐ニ由テ明ラカナリト由此
觀之主キリストノ死ニ由テ贖罪ノ得ラルヽテフ思想ハクレメント及
其時代ノ信徒等ノ確信セシ所ナルハ尤モ明白ナル事ナリトス
スモルナノ監督ボリカルプ(紀元百三十年)ガ其ビリビ人ニ贈レル書ニ
曰ク余ハ卿等ガ信仰確固ニシ且ツ我儕ノ罪ノ爲メニ辛酸痛楚ヲ受ケ
給ヒタル主キリストノ榮光ノ爲メニ善果ヲ結ブヲ見テ歡喜措ク能ハ
ザル者アリ夫レ卿等ノ希望ハ義トセラルヽノ世話人ハ主キリスト
ナリ主ハ其身ヲ架上ニ懸ケ我儕ノ罪ヲ負ヒ給ヒキ彼ハ身ニ罪ヲ犯サ
ズ其口ニ虛偽ナシト雖モ彼ハ我儕人類ガ彼ニ賴テ生命ヲ得ンガ爲メ
ニ凡ノ苦痛ニ堪ヘ玉ヒタリキト彼復ビリビ人ニ謂テ曰ク卿等ハ須ラ
ク彼ノイグナシアス、ゾシアス、ルフス及ビ其他ノ教父等ガ教ノ爲メニ
殉シタル芳烈ナル行事ヲ記憶シ聖パウロ及ビ他ノ使徒等ト彼ノ殉教
者ノ誠忠堅忍ナル心事トヲ倣フ可シ彼等ハ決シテ無益ニ其馳場ヲ趨
ル者ニ非ラズ彼等ハ主ト俱ニ苦ヲ受ケ今ヤ其當ニ居ル可キ場所即チ

主ノ寶前ニ安棲ス彼等ハ會テ此世ヲ愛スル事ナカリキ而シテ彼等ハ我
儕ノ爲ニ死シ神ニ由リ死ヨリ甦ラサルヽモノヲ愛シタリキト『第二世
紀ノ著書タルバナバ書ニ於テモ之ト同様ナル言句ノ記サレタルヲ見
ル其第七章ニ曰ク故ニ若シ萬物ノ主、神ノ聖子、生ケル者ト死ケル者ノ
審判者トシテ定メラレタル者ニシテ其打チナヤマサルヽ事我儕ノ生
命ノ爲メナラザランニハ神ノ聖子ニシテ奚ゾ好ンデ其痛楚ヲ受クル
理アラシヤト』

サテ使徒等ノ逝キシ後キリスト教會ガ這般ノ問題ニ付キ紛々タル異
說ヲナスノ前ニ方リテハ主キリストノ死ニ就キ使徒等ノ教示ヲ確示
セルコハダイオグチタスニ贈レル書ニヨリテ(紀元百二十年)明知スル
ヲ得但シ本書ノ著者ノ何人ナルカハ明ニスルヲ得ズ其書ニ曰ク人類
ノ惡ハ正ニ其極度ニ達シタリ而シテ其惡業ニ應スル刑罰ト死トハ將ニ
降ントシツヽアリキ然ルニ神ガ其至愛ヲ人類ニ顯ハサントノ聖旨ヲ
定メ玉フヤ(神ハ即チ至仁至愛ニシテ常ニ人類ヲ眷顧シ罪人ナルガ故

ニ之ヲ嫌疑セズ之ヲ遺棄セズ其罪ヲ盤詰事ナク寛容ニシテ之ヲ忍ド玉フ贖罪者トシテ我儕ノ罪ヲ負ヒ玉フ可キ聖子ヲ與ヘ玉ヒヌ即チ罪人ノ代トシテ箇ノ潔白ナルモノ惡人ノ代リニ箇ノ無罪ナルモノ不義ナルモノ、代リニ箇ノ義ナルモノ打ツ可キモノ、代リニ箇ノ朽チザルモノ死スベキモノ、代リニ箇ノ死セザルモノヲ與ヘ玉ヒキ聖子ヲ除キテハ何人カ能ク人類ノ罪ヲ消滅セシムルヲ得ン罪海ニ陷溺セル人類ヲ濟ヒテ之ヲ義トスルモノ神ノ聖子ヲ除キ果シテ那邊ニカアラシ蓋シ箇ノ義ナルモノ衆庶ノ不義ヲ負荷シ又箇ノ義ナルモノ、功績ヲモテ凡テノ罪人ヲ義トスルハ是レ豈ニ多幸多福ナル變化ニハアラズヤ是レ豈ニ了解シ難キ行爲ニハアラズヤ是レ豈希望ニ超エタル利益ヲ與フルモノニアラスヤト

蓋シ學藝ノ進歩ト俱ニ種々ナル思想ハキリスト教會ニ興リ來リヌ故ニ單純ナル使徒等ノ遺傳ハ永ク其單純ヲ保ツ能ハザリキ第三世紀ノ初葉ニ方リラテン教會ノアイリニアス、グリーク教會ノオリゲン等ハ

主キリストノ死ニ就キキリスト教會當時ノ信仰及ヒ其ノ教理ニ由リテ起リタル諸種ノ問題ニ向テ之カ答案ヲ與ヘントハナシタリキ爾後千六百有餘年這般ノ問題ニ就キ諸說紛々トノ歸スル所ナカリキ然レモ吾人ノ今爲サントスル所ハ此等ノ諸說ヲ掲ゲテ之レガ評論ヲ試ミントスルニハアラズシテキリスト教會ガ主キリストノ死ヲモテ外部的贖罪ナリト信ズルハ必ズシモ神學者等ノ所論ニ據リテ然ルニハ非ラズ却テキリスト教會ガ此ル教理ヲ信ズルニ由リテ神學者等ハ熱切ニ之ヲ論究ナシタリキトノ點即チ是ナリ這般ノ問題ヲ論究スルニ方リ神學者等直チニ——其ノ甚ダ困難ナルヲ發明セリ而シテ其最初ニ起リタル説明ノ内其結果ノ不良ナルニヨリ納レ難キモノアリキナシアンザスノ監督グレゴリ(紀元三百七十年)ガ其著書中ニ引用セル言句ハ這ノ點ニ付キ奈何ニ當時ノ信徒等ガ迷謬ナル思想ヲ懷ケルカヲ明示シテ余アリトス其語ニ曰ク主キリストハ神ニ對シテハ祭司ト犠牲ナリ其ノ人類ノ爲メニ流シ玉ヒタル尊貴ノ榮光アル血潮ハソ

モ誰ニ向ヒテ何ガ爲メニ獻ケラレシモノナルヤ人ハ罪ニ由リ奴隷トシテ賣ラレタリ而シテ其快樂ヲ買フニ類素放縱ヲ以テス故ニ身ハトリシバラレテ惡魔ノ權内ニアルナリ夫レ然リ若シ贖ノ代ニシテ奴隷ノ所有モノニ歸スル者ナリトセバ主キリストノ贖ハ抑モ誰ニ向ヒ且ツ何等ノ理由ヲモテ獻ケラレシモノナルヤ或ハ之ヲモテ神ニ獻ケラレシモノトセンカ將タ惡魔ニ獻ケラレシモノトセンカ若シ夫レ之ヲモテ惡魔ニ獻ケラレタルモノト謂ハバ此ハ是レ恐ル可キ冒瀆ノ言ナリトス何トナレバ世ニ恐ル可キ兇賊ガ人ノ贖トシテ神ヨリ其代ヲ受クルノミナラス神自身ヲサヘ受クル事ナレバナリ即チ惡魔ハ其暴戾横虐ナルガ爲ニ却テ豊富ナル謝禮ヲ受クルトスルモノナレバナリ但シ惡魔ハ其代ヲ納ルニ由リ天地ノ公道ニ則ル人類ヲ放免ス事ヲ得ルナリト之ニ反シテ若シ其贖ニシテ神ニ獻ケラレタリトセバ此ハ如何ナル理由ニヨリテナルカ神ハ罪アル人類ヲ所有シ玉ハズ又神ハ奈何ニシテ其聖子ノ血汐ニヨリテ其意ヲ満足セシメ得玉フ可キカ蓋神ハ

會テアブラハムガ其子イサクヲ壇上ニ獻ントセシ時之ヲ却ケソガ代リトシテ牡羊ヲ備ヘサセ玉ヒケレバナリサレバ神ガ聖子ノ犠牲ヲ納メ玉ヒシハサルヲナガラ與モ此ハ其自ラ要求シ玉ヒシモノユハアラズ此ハ唯宇内神政ヲ保護シハタ神ノ聖子ノ人ノ性ヲ叙リ玉フニヨリテノミ人類ノ潔メラル可キ必要アレバナル可シ

第八世紀ニ於ケル有名ナルギリシヤ神學者ジョンダマシナスハ其著書ニ於テ人類ヲ贖フ可キ贖ノ代ハ惡魔ニ捧ゲラレタリトノ點ニ付キ前同様ナル反對說ヲ熱切ニ論ジタリキ其論ニ曰ク我儕ニ代リテ死シ玉ヒシ主キリストハ死シテ其身ヲ神ニ捧ゲタマヒキ我儕ハ神ニ對シテ罪ヲ犯シタルモノナルヲモテ神ハ我儕ヨリシテ其贖ヲ受ケタマハザルベカラズサレバ我儕ハ當然罪セラル可キモノナルモ主ノ贖ニヨリ罪ヨリ解放セラル、ヲ得ラル可キナリ故ニ我儕ノ犠牲ナル主ノ寶血ハ決シテ暴虐ナル惡魔ニ對シテハ爲サル可キモノニアラザルナリ

此ノ如ク種々ナル辨護論ノアリシニモ拘ラズ贖罪ノ犠牲ガ惡魔ニ獻
ゲラレタリテフ異說ハ凡ソ第十二世紀ニ至ルマデ尙依然トシテキリ
スト教會中ニ其勢力ヲ有シタリキ

ニコサー監督グレゴリ(紀元三百八十年)モ亦這般問題ヲ論ジテ神ハ人
類ヲ救ハンガ爲惡魔ヲ欺キ玉ヒキト云ヒキ其說ニ曰ク凡ソ人類ハ其
罪ニ因テ惡魔ノ權下ニ屬シヌ而シタイエスハ我儕ヲ贖ハンガ爲ニ其
身ヲ惡魔ニ獻ゲ玉ヒキ惡魔ハキリストノ眞性質ヲ辯ヘズ罪人ノ代リ
トシテ善人ヲ擒囚スルノ勝レルヲ見其贖ヲ領ケ又之ニ因リテ人ハ惡
魔ノ權下ヲ脱シテ自由ナル者トナルヲ得キ然レモ惡魔ハキリストノ
眞性質ヲ知ラザルガ爲メ欺カレ不幸ニシテ自家ノ權下ニキリストヲ
羈束スル事能ハザリキト彼又曰ク惡魔ハ既ニ人ヲシテ異端ニ墮落セ
シメンガ爲メ之ヲ欺キタレバ神モ亦人類ヲ贖フ爲メニ惡魔ヲ欺キ玉
フハ是レ正當ナル行爲ナルナリト

アフリカヒツポノ監督オガステン(凡紀元三百九十年)這般ノ問題ニ
就キ論ジテ曰ク惡魔ヲシテ當ニ敗亡セシムル正義トハ何ゾヤ此ハ言
フ迄モナク主キリストノ義タルヲ外他ニアルヲナシ而ノ如何カ惡
魔ヲシテ敗亡セシムルヲ得ンカ蓋シ惡魔ハキリストヲ殺害セリ惡
魔ハ此ク何ノ負フ可キ所モナキ無垢ナルキリストヲ殺シタレバ惡魔
ニ對シテハ一大負債ノ脱ル可カラザル我儕ハキリストヲ信ズルヲニ
ヨリテ其責ヲ解シタルモノタラザルベカラズ之レヲモテ我儕ハキリ
ストノ死ニヨリテ此ノ世ニ於テ既ニ義トセラレタルモノト稱スルヲ
得可シト

惡魔カ主キリストヲ殺害スルノ大罪ハ即チ是人類ノ贖ハル、事ノ理
由ナリトノ以上ノ所論ハ是レ最モ甚ダシキ誤謬ナリトス贖罪ニ關シ
テ此ル謬想ノ流布セルハ偶キリスト教會ガ人ハ主キリストノ死ニヨ
リテ罪ノ刑罰ヨリ解放セラレタルモノナル事ヲ信ジテ其ノ神ノ正義
ニヨリ主キリストハ當然死セザルベカラズトノ理由ニヨリシニアラ
ザル事ハ明白ナリトス當時キリスト教會ハ人類ガ地獄ノ刑罰ヲ脱ス

ルヲ得ル所以ノモノハ主キリストノ死ヲ信ズルニアリト信ジタリシ事知ル可キナリ然レモ之レヲ顯正ス可キ好説明ヲ得ザリシヲモテ遂ニ誤テ主キリストハ其生命ヲモテ挽回ノ祭物トシテ之レヲ惡魔ニ與エ玉ヒキト説明ヲ下スニ至リヌ此ル所論ハ紀元千二百年代ニ至ルマデ依然勢力ヲ有スルモノナリキ有名ナル二箇ノ神學者ハ這般ノ問題ニ付キ論辨シヌアペラルド曰ク(凡紀元千百五十年頃)使徒時代ヨリ以降キリスト教會ノ學者等ハキリストノ死ヲモテ惡魔ノ權内ヨリ人類ヲ贖ヒ出スモノナリト信ゼシトハ雖モ余ハ之ニ贊同スル能ハズト聖バーナード之ニ答ヘテ曰ク郷ノ所論ハ是レ冒瀆ノ甚シキモノ傲慢ノ至レルモノ當ニ刑罰ヲ受ク可キナリ主言ヒ玉ハズヤ恐ル、勿レ余汝ヲ救ヒ汝ヲ解ント此ハ是レ何等ノ權下ヨリ解ル、事ナル可キカ惡魔ハ人類ヲ超ヘテ其主權ヲ有ス卿ハ之ヲ好マザル可シ余モ亦之ヲ厭フ事甚ダシ然リト雖モ卿モ余モ亦之ヲ如何トモスル事能ハザルナリ卿若シ惡魔ノ勢力ノ如何ヲ知ラザランカ凡ソ主ニ由テ其ノ仇敵ノ手中

ヨリ贖ヒ出サレタラン程ノ者ハ之ヲ知リ且ツ又能ク之ヲ指示スル事ヲセン卿若シ仇敵ノ手中ニアル者ナラザリセバ愈惡魔ノ勢力ヲ否マザル可シ然レモ卿ハ贖罪ニ與ランガ爲メ感思ノ念淺キガ爲メ恐クハ未ダ救ニ至ラザル可シト彼復他所ニ於テ曰ク惡魔ハ人類ヲ超ヘテ其權威ヲ有セリ此權威タルヤ蓋シ彼ガ正當ニ獲タルモノニ非ラズシテ不合理ニモ掠奪セシモノニ係ル神ハ姑ク許スニ惡魔ガ人類ヲ超ヘテ其權威ヲ有スルヲ以テシ玉ヒキ然レバ神ハ惟リ義ニシテ惡魔ト人類トハ不義ナルモノニ屬クスゲニ人類ハ惡魔ノ奴隸トシテアリキ其奴隸タル事ヤ固ヨリ當然ニシテ人類ノ悲シム運命ナリケルモ渠惡魔ガ一度誤テ何等ノ理由モナク主キリストノ拘禁セル失錯ニヨリテ人類ハ幸ニモ奴隸ノ羈絆ヲ脱スルヲ得ルニ至リキト

凡一ケ年間キリスト教會ニハ此ル粗笨ナル思想アリキ第三世紀ノ初葉ニ當リ著名ナルオリゲンハ蓋シ此ル思想ノ鼓吹者ナリキ而シテ第十世紀ニ至リテモ此ル思想ハ依然トシテ一般民人間ニ流布セル所ノ

者ナリキ此ル思想程恐ル可ク且ツ瀆聖的ノモノハアラザリキ然リト雖モキリスト教會ガ此ル思想ヲ懷抱セルハ偶其外部的贖罪ヲ確信セルヲ證セルナリ別言スレバキリスト教徒ハ一千年間主キリストハ人類ヲシテ外部的危險ヨリ救解センガ爲メニ死シ玉ヒタルヲ信ジタリキ此ル重大ナル事實ニ付キ他ニ恰當ナル説明アラザリシヲモテ彼等ハ此ル不満足ナル説明ヲ以テ安ゼザルヲ得ザリキ之ヲ要スルニ外部的贖罪ノ教理ハ其第一ニシテ不合理ナル説明ハ之ニ次ゲルモノタリキ然レモ其間時トノ惡魔ト取引スル底ノ思想ヲ厭棄セル學者モナキニアラザリシト雖モ主キリストノ死ノ外部的贖罪ナル事ハ其確信スル所ナリキ之ヲ例セバアタナシアス曾テ曰ク(凡三百八十年)人ハ皆罪ヲ犯シタレバ神ニ對シテ負債者ナリ故ニ主キリストハ我儕ニ代リテ死シ其負債ヲ償却シ玉ヘリト十二世紀間多クノ人ハキリストノ死ガ人類ヲ惡魔ノ支配ヨリ救解スルテハ尤モ大切ナルコナリト思惟シキ而シテキリストノ苦楚ノ結果ニツキ之ヨリ一層高尚ナル説明ハ折節

學者連ノ著書ニ記サレタリキ

第十二世紀ノ初葉ニ於テ神學志趣ニ一大變化ヲ生ジタリキ則チカクタペリ監督アンセルム(凡一千百年)ノ著書「カトリアス、ホモ」我ガ人性ヲ取ルノ理由如何ニ由テ此變化ヲ惹キ起シタリ本書ハアンセルムガ其弟子ボーゾトノ問答ヲ録シタル者タルナリボーゾ曰ク人類ガキリストニ由リテ贖ハルハ吾之ヲ確信ス而シテ議論ニ由リテ其教理ヲ知ル能ハズトスルモ尙自家ノ信仰ヲ確執スル事ヲセン然リト雖モ吾問ハントス神ハ全能ナル者ナルニ人ノ性ヲ直サンガ爲何カ爲ニ特ニ人類ノ卑賤ト微弱トヲ取ルヤ其必要ト理由トハ如何ト蓋シアンセルムハ本書ヲ記スルニ問答ノ体ヲ以テシ而シテ其博大ナル智識ヲ顯ハシタリキ彼ハボーゾノ名ヲ以テ其懷抱セル意見ヲ吐露セリ即チキリスト教會ガ贖罪ノ事實ニ付キ遺傳セル思想換言スレバ主キリストハ人類ヲシテ惡魔ノ權威ヨリ贖ヒ出サンガ爲ニ死シ玉ヒシテテ教理ニ反對スル意見ヲ吐露セリキボーゾ曰クキリストガ人性ヲ取リテ死シ給ヒ

シ事ニ付キ基督教會ノ有スル説明ハ不幸ニノ余ノ思想ト吻合スル能ハザルナリ蓋シ人類ト惡魔トハ俱ニ是レ神ニ屬スル者ナリ而シテ惡魔ハ人類ニ勸ムルニ其當ニ俱ニ戴ク可キ主ノ御許ヲ離レテ已ノ許ニ來ル可キヲ以テセリ惡魔ハ神ニ對シテ恐ル可キ裏切ヲ試ミタリ而シテ彼ハ又神ノ御許ヲ脫走セル人類ヲ納ケ入レヌ夫レ惡魔ハ彼自カラ盜ム者ニノ然モ又彼ノ盜ミセル人類ト其盜品トヲ納レヌ是ヲ神ガ惡魔ノ手ヨリノ人類ヲ救解センガ爲メニハ惡魔ニ對シテ償金ヲ拂ヒ玉フハ必要アルヲナシ却テ惡魔ト人類トハ盜ム者ナルヲモテ刑罰セラレ可キ筈タルナリ故ニ縱令万有ノ審判者タル神カ人類ヲ罰スル爲ニ或ハ之ヲ免サンガ爲ニ自家ノ所有物タル人類ヲ惡魔ノ權内ヨリ取レリトスルモ如何ゾ之ヲ以テ不義ナル行爲トス可ケンヤ人類ガ惡魔ノ爲ニ苦シメラルハ正當ナル事ナリト雖モ惡魔ガ人類ヲ苦シムル事ハ是レ決シテ正當ナル事ニ非ラズ人類ハ苦シメラル可キ者タリ而シテ人類ヲ誘惑スル者モ亦タ將ニ罰セラレ可キモノタルナリ然レモ惡魔

ハ決シテ人類ヲ罰ス可キモノニ非ラザルナリト以上ハ是レ其第二章ニ於テ論ゼラレタル所ナリアンセルムハ之ニ答フル能ハズ彼ガ此ル所說ニ對シテ答フルハ到底爲シ難キ事ナリトセシハ明ナル事ナリトス彼ハ罪ノ性質ヲモテ贖罪ノ教理ヲ説明セリト蓋シ罪トハ其當ニ神ニ歸スベキ者ヲモテ之ヲ神ニ歸セザルニアリ意識的動物則チ人類ハ渾身之ヲ上帝ノ聖旨ニ委託ス可キ者タルナリ當ニ神ガ受ケ玉フ可キ光榮ヲシテ之ヲ神ニ歸セザルハ是レ神ヨリ盜ム者ニシテ神ヲ瀆辱スル事ニ屬クス之ヲ是レ罪ナリトハス誰ニテモアレ神ノ犯罪者ハ神ヨリ竊取セル光榮ヲモテ再ヒ神ニ歸ス可キナリ此ハ凡テ罪人ガ由テ以テ神ヲ満足セシムル道ナリト彼又曰ク苟モ被造物ニシテ造物者ト受ク可キ光榮ヲ盜竊シ且ツ之レヲ歸セザルガ如キハ凡ソ世ニ忍ブベカラザルモノ、最タルナリ世ニ神ヨリモ宏大ニシテ至善ナルモノ一モアル事ナシ而シテ神ニアリテハ宇内統治ノ榮譽ヲ保シ玉フハ其正義ニ在シ玉フノ所以ナリ別言スレバ完全ナル正義トハ則チ神其物ナリト

ス神ガ自家ノ光榮ヲ失墜シ玉フ事ハ是レ到底出來ベカラザル事ナリ而シテ神ガ光榮ヲ需メ給フニ方リテヤ或ハ人類ガ自カラ進ンデ光榮ヲ神ニ歸スル事ヲスルカ將々神ガ人類ヲ強テ之ヲ需メ玉フ孰カ其一ナラザル可カラズ故ニ人類ハ右二者中ノ孰レニカ在ラザルベカラズ則チ(一)ハ其當ニ爲ス可シ道ニ從ヒ喜ンデ自カラ上帝ニ委キテ其罪ヲ防キ其罪ヲ償フ可キカ(二)ハ人類ガ神ヲ主トシ肯セザル時神ハ人類ヲ制シ強テ自家ノ配下ニ來ラントノ當ニ其ノ人類ノ主タルヘキ威嚴ヲ顯彰シ玉フコトニ默從ス可キカ其内孰レカヲ擇バザル可カラザルナリトアンセルン又曰ク自然ニシテ罪ヲ償却スルハ人類ノ力ノ及ハサル所ナリ夫レ宇宙ノ衰亡ノ歸スルヲ防ガンガ爲ニハ神ノ聖旨ニ背キタル最ト些細ナル罪ヲ起スト却テ必要ナリトスルモ吾人ハ斷シテ宇宙ノ衰亡ヲ守護スルガ爲ニ此ノ最ト些細ナル罪ヲモ犯スベカラズ然ルガ故ニ一ニ最少ナル罪ニテモ之ヲ満足ニ贖ヒ得ルモノハ必ス宇宙ノ悉皆ヨリ價值アルモノタラザル可ラズ

借テ人類ノ罪ヲ償フ者ハ復人類タラザルベカラズ然レモ正當ニ此ノ償フコトヲ爲シ得ルモノハ神ヲ除キテハ他ニ一モアル事ナシザレバ眞正ナル挽回者即チ贖罪者ハ神人兩性ノモノタラザルベカラズト彼レアンセルムハ此ヲ切論セルノ後主キリストハ神人兩性ヲ併有スルモノニシテソノ人類ヲ贖ヒ玉フ條件ヲバ左ノ如クニハ論ゼリキ吾人ハ以上ノ理由ヲモテ苟モ贖主タランモノハ贖罪ヲ爲ンガ爲ニハ万物ヲ超ヘテ更ニ大ナルモノヲ用ヒ義務的負荷トスルコトナク自ラ甘シ神ニ捧ゲルモノヲ必要ナリトスル事ヲ知ルヲ得而シテ挽回ノ祭物ハ頗ル貴重ナルモノナルヲモテキリストノ外之ヲ他ニ見出ス事能ハズ惟リ彼ニ於テ是レアルノミ故ニキリストハ自カラモテ神ニ捧グルカ將々其自カラヨリシテ出ツル或者ヲシテ之ヲ神ニ與ヘザルベカラズ然レモ實際彼ト彼ガ有スル凡百ノモノトハ既ニ神ノ有タナラリサレバ此ニ所謂與フルトハキリストガ神ノ榮光ヲ増進センカ爲ニ任意ニ其身ヲ捧グルノ謂ニシテ決シテ正當ニ償却スベキ負債ノ爲メニ強

ラレテ與ルニアラザルヲ謂フ若シ吾人ニシテキリストハ神ノ命令ニ從ハンガ爲ニ自ラ捧ゲ玉フ別言スレバ絶ヘズ義ヲ守リテ自カラ神ノ聖旨ニ任スルト云ハ、此ハ全ク負債ナキ有様ニ於テ神ニ捧グルモノニ非ラズ蓋シ意識的動物ハ(人類)自然ニシテ神ニ從フ可キ義務アルナリサレバ吾人ガ從順ニシテ神ニ從フ事ノ外別ニキリストハ自己若シクハ其自家ヨリ出ツル或者ヲモテ神ニ捧ゲザル可カラズ故ニ若シキリストニシテ神ノ榮光ヲ増進センガ爲ニ其生命ヲ與ヘ或ハ之ヲ棄テ或ハ之ヲ死ニ解スルヲナシ玉ハンニハ此ハ神ニ負債ヲ償フニアラズ蓋シ彼ノ内ニハ一點ノ罪ナキヲモテ彼ハ之ニ就キ死スルノ要アラザレバナリ

彼ハ這般ノ論據ニヨリテ贖ヒ主ガ其死ニヨリテ如何ニ光榮ヲ神ニ歸スルカラ説明シ其歩ヲ進メキ彼ハ其説明中ニ於テ罪ハ刑罰ヲ受ク可キモノナルヲモテ贖罪ハ必要アリトハ云ハズシテ却テ曰ク若シ凡人ハ快樂ニヨリテ罪ヲ犯セシモノナランニハ苦痛ニヨリテ其罪ヲ贖

フハ當然ノ事ナラザランヤ若シ人惡魔ニ誘ハレ容易ク罪ヲ犯スニヨリテ神ヲ瀆サンニハ復神ニ對ヒテ其罪ヲ贖ヒ手嚴シク惡魔ヲ制スルハ是レ豈ニ正當ナラザランヤ若シ人罪ヲ犯シテ自ラ全然神ヨリ盜ミシモノナランニハ其罪ヲ贖ハンカ爲メニ全身ヲ捧ゲテ之ヲ神ニ歸スルハ是レ豈當然ナラザランヤトポーブハ之ヲ承認セリ曰ク之レヨリモ道理アル說他ニアル事ナシトアンセルム曰ク人惟タ神ノ榮光ノ故ニ義務的の負荷モナク自ラ甘シテ死地ニ就クハ之ヨリ酷タシキ苦痛アル事ナシ又人神ノ榮光ノ爲ニ自ラ死ニ解スガ如キ完全ナル献身ハ他ニ一モアル事ナシ而シテキリストハ神ニ從順ニシテ義ヲ全フシ堅忍ニシテ慘害ニ堪ヘ屈辱ヲ蒙リ盜人ト俱ニ十字架上ニ釘セラレ好摸範ヲバ人類ニ與ヘ玉ヒキ則チ彼ハ如何ナル不便利ナル事ニ遭遇スルト雖モ神ニ對シテ爲ス可キ義ヲ離ル、事能ハズ蓋シキリストヲ除キテハ其死ニヨリテ神ニ負債ノ償却ナラザル一物ヲ與ヘ又如何ナル場合ニ於テモ決シテ失フ可カラザルモノ(生命)ヲ神ニ歸シ得ルモノ一人モ

アル事ナシ然リ而シテ獨リキリストハ自ラ甘シテ其決シテ失フ可カラザルモノ則チ生命ヲモテ之ヲ父ナル神ニ捧ゲ又罪人ニ代リテ己ニハ寸毫ノ負債ナキニモ係ラズ其死ヲモテ神ニ歸シ玉ヒキト
アンセルム曰クキリストハ父ナル神ニ對ヒテ尤モ神妙ナル奉仕ヲ爲シ玉ヒケレバ自然ニシテ其報酬ナカル可カラズト又曰ク報酬トハ其ノ有セザルモノヲ與ヘ又彼ヨリノ請願ヲモ許ス可キナリ然レモ神ノ聖子ガ贖罪ノ行爲ヲ爲シ玉ハザルニ當リテハ父ノ有テ玉フ凡者ハ即チ彼ノ有ナリ蔣々又彼ハ一ノ負フ所サヘナケレバ又彼ニ赦ルシヲ與フルヲ能ハズ故ニ唯ダ之ノミニテハキリストニ報酬ヲ與ヘンハ爲シ難キ事ナリトス若シ神ノ聖子カ已ガ神ヨリ受クベキモノヲモテ之ヲ他人ニ與ヘント欲セバ神ハ正當ニ之ヲ禁ジ玉フ事能ハズ蓋シ聖子ガ已ノモノヲモテ之ヲ他ニ與フルハ正當ナル事ナルナリ夫レ神ガ聖子ニ對スル負ハ聖子ヲ除キ之ヲ他人ニノミ與フルヲ得故ニキリストノ死ノ結實ト報酬トヲ與フルハ人類ヲ除キテハ何人ニモ尤モ適當ナル

可キヤキリストハ人類ヲ救ハンガ爲ニ人性ヲ取り又其死ニヨリテ人ノ當ニ正義ノ爲メニ死ス可キノ好模範ヲ與ヘ玉ヒキ若シ夫レ人類ニシテキリストノ功績ノ配當ヲ領スル事ヲ得ルニアラズンバ其キリストニ從フハ蓋シ無益ノ事タルナリキリストハ其同胞等ガ堪ヘ難キ重荷ヲ負擔シ多クノ負債ヲ負ヒ其境遇ノ可憐ナル日々悄衰ニ赴クヲ見其情禁ズル事能ハズ彼ハ彼等ヲシテ其富ノ繼業者トハナセリ惟フニ世ニ之レヨリモ勝リテ正シキ事豈ニ夫レ多カラシヤ而シテ人類ハ之ニヨリテ其當ニ神ニ拂ヒ戻ス可キ債務ヲ免セラレキ又罪ノ結果トシテ吾人ガ失フタル凡テノ必要ナルモノハ皆之ニ由テ與ヘラルベシ
以上ノ所說ニヨリテ吾人ハ贖罪ニ關スルアンセルムノ思想ヲ知ルヲ得彼ノ心ニハ神ノ宏大テフ思想充盈シ又彼ハ罪トハ當然ニ神ニ歸ス可キモノヲモテ神ニ歸セザルニ外ナラズトセリ然シテ彼ハ罪ヲ説明スルニ方リ神ノ道德的律法ヲ犯スヲモテ罪ナリトハセズ罪トハ神ノ無限ノ宏大ヲ贖スコト即チ神自身ヲ賤蔑スル事是レナリトセリキ是

レヲモテ彼贖罪トハ神ノ稜威ヲ認メテ虔誠之レニ奉任スルノ行爲ナリトハセリキ而シテ此ル虔誠ナル奉仕ハ人類ノ罪ヲ超ヘテ尤モ尊重ス可キモノナルヲモテ神ガ人類ノ罪ヲ除クニハ充分ナル理由ナリトスアンセルムニ尋キテ起レル大學者等ハ彼ノ思想ヲ受ケ種々ナル方面ニ於テ少シク之ヲ訂正修補シ大ニ之ヲ發達セシメタリキ彼ノ時代ヨリ以後宗教改革ニ至ル(凡四百年間)長年月間ハ幾ント同様ナル志想ヲモテ充タサレタル者ナルヲモテ茲ニ之ヲ詳述スルノ必要ナカル可シ惟リアペラドノミ其論文ニ於テキリストノ外部的功績ニ就キ少シク論及セリキ曰ク吾人ハキリストノ血ニ由リテ義トセラレ又神ト和ガシメラル、ヲ得神ハ洪大ナル憐恤ヲモテ其聖子ヲ人類ニ與ヘ玉ヒヌ彼ハ人性ヲ取リテ人トナリ死ニ至ルマテ人類ヲ救養シ模範ヲ遺シ玉ヘリ而シテ神ハ愛ノ連鎖ヲモテ吾人ヲ緊密ニ自己ニ繋キ玉ヒキ而シテ人ハ神ノ恩惠ニ沐浴シ胸中眞個ノ愛ヲ懷キキリストノ爲ニハ如何ナル痛楚ヲモ避ケザル可シト然レモ彼レハ又キリストガ人類ノ爲メ

ニ神ノ御前ニ仲保者トナリ其外部的功績ヲ顯ハシ玉ヒキヲ論セリキ蓋シ彼ノ所論ハ只姑ク贖罪思想ノ發達ニ障礙ヲ與ヘタルモアンセルムノ所説ハ漸次勢力ヲ得之ヲ壓倒スルニ至レリキ
アンセルム及ヒ後代ノ學者等ノ説ク所ニヨレバ永久ナル義ノ法ハ即チ是レ神ノ聖旨ナリトアンセルム曰ク神ハ自由ナルモノニ在スヲモテ其事ヲ爲サントシ玉フヤ唯義ニ適スル事ヲノミ爲シ給フ故ニ神ノ思惟シ玉フ所ハ義ニシテ其思惟シ玉ハザルモノハ不義ナリ如何トナレバ縱令神ナリトハ雖モ其義ニ適合セザルモノヲ思惟シ玉フニ方リ神ナルノ故ヲモテ焉ゾ其不義ナルモノヲ義ナルモノトナスヲ得ンヤ加之縱令何者ナリト雖モ不義ヲ思想スルモノハ到底神タルト能ハズ故ニ神ハ不義ナルトヲ思惟シ玉ハズト然レモ後世ニ至リ多クノ學者等ハ神ヲモテ一個專擅者ノ如クニ見做シ万有ハ神ノ絕對的聖旨ニヨルトナシ甚ダ有害ナル敎理ヲ唱道セリキ有名ナル學者ダンスマタス(凡千三百年)敎テ曰ク神ニテモアレ人ニテモアレ其意旨ハ推理力以上

ノ力ヲ有ス故ニ道德律ハ是レ神ノ絶對的聖旨ノ言ヒ顯ハサレタル所
ノモノナリ而シテ今ノ所謂道德ヲ判別スル所以ノモノハ只神ノ聖旨ニ
ヨリテノミ故ニ若シ神命シ玉ハンカ道德ノ法全然一轉ス可シ(即チ惡
モ善トナリ惡モ惡トナル可シ)神ト道德トノ關係ニ於ケル此ル思想ハ
贖罪思想ヲ卑汚ナラシム可シ

舊第十六世紀ニ於ケル宗教改革ニ由テキリスト教徒ハ宗教心ヲ回復
シ罪ノ甚ダ恐ル可キモノタルヲ知リシヲモテ主キリストノ死ノ目的
ト性質トニツキ神學史上第三階ノ發達ヲ遂ゲタリキ第十三世紀ニ於
ケルキリスト教會ノ學士等ト第十六世紀ニ於ケル宗教改革者等モ贖
罪思想トハ其間大ニ相徑庭セリ現今學者ハ曰ク第十三世紀ニ於ケル
博識ナル學者ノ考究ニヨレバキリストノ贖罪ノ理由ハ左ノ如シ即チ
全能ナル神ハ宇宙ノ所有者ニシテ其絶對的意旨ニヨリキリストノ贖
罪ヲ要メ玉ヒヌ蓋シ人類ノ犯罪ニヨリテ損害ヲ蒙リタレバ之ニ對シ
絶對的贖罪ヲ要メ玉フナリト

改革派學者ノ說ニヨレバ則チ曰ク凡ソ神ト人トハトモニ宇宙ノ一部
分ニシテ此ノ世界ハ一大法則ニヨツテ支配セラレタルモノナリ故ニ
キリストノ贖罪ハ宇宙ノ大法則ヲ侵犯セルモノ、當ニ受ク可キ刑罰
ノ爲ニ必要缺ク可カラザルモノナリト此ノ說ヤ概シテ可ナルモノナ
リトス改革派ノ學者等ハ最初其思想ノ公會大學者等ノ思想ト相違ス
ル所アルヲ知ラザリキ改革派學者等ガ宗教上尤モ緊要ナリトセシ點
ハ如何ニセバ人ハキリストノ死ニヨレル利益ニ與ルヲ得ルカトノ點
是レナリキ而シテ此ル問題ヨリシテ尋イテ又第二ノ問題ヲ生ジヌ則
チキリストノ死ト贖罪ノ性質及其理由ハ如何トノ問題是レナリキ此
ノ二點ヲ論ズルニ方リ改革派ノ學者等ハ公會派ノ學者等ト其意見ヲ
異ニセリ而シテ此ル意見ヲ樹ツルニ至リシハ蓋シ第十五世紀中歐洲諸
國ニ於ケル憂國ノ人士ガ道德上ノ改革ヲ要シ其要求ノ結果神學的新
思想ヲ勃興セシメタルニヨル

例セバ有名ナル宗教改革者ジョンウイックツフ(千三百七十年)曰ク神

ガ其力ヲ用ヒテ一ノ贖ヒ物ナクアダムノ罪ヲ赦サン事ハ是レ決シテ難事ニハ非ラズ神ニシテ若シ此ル旨アランニハ是レ尋常ノ事ナランノミ然リト雖モ神ノ義ハ此ル力ノ暴用ヲ禁シテ凡ソ罪ノ爲メニ此ノ世ニ於テ或ハ地獄ニ於テ其刑罰ヲ求ムベシ而モ神ハ又贖ナクシテハ到底人ノ罪ヲ赦シ玉フ能ハザル可シト又ウエツセル曰ク(千四百七十年)主キリストハ神ト人類トノ間ニ立チ玉フ仲保ナルノミナラズ寧ロ人類ノ爲メニ神ノ公義ト其憐恤トノ間ニアリテ仲保タリ玉フ蓋シ神ハ公義ノ律法ハ縱令一點一畫ナリト雖モ之ヲ轉ズル事ナク悉ク服從セザルベカラザレバナリ而モキリストハ實ニ之ヲナシ玉ヒキト降テ宗教改革者マルチン、ルーサー(千五百二十五年)ノ時代ニ至レバ彼ノ思想ノ已ニアンセルムノ「著書」カール、リアス、ホモ一「ト異ナル所アルヲ見ルルーサー」ノ著書加拉太書註解第三章第十三節ノ條ニ於テ「キリスト既ニ我儕ノ爲ニ詛ハル者トナリテ我儕ヲ贖ヒ律法ノ詛ヨリ脱レシメ給ヘリ」トノ語ニ就キ謂テ曰ク福音ノ教理ハ凡ノ他ノ教理ヨリモ特殊

ナル愉快ト安慰トヲ與フルモノニシテ我儕ノ働キ若シクハ法律ニ服從セル所爲ニ就キテハ一ノ説ク所ナシ而シテ只神ガ不幸ニシテ且ツ憐ム可キ罪人ニ對ヒテ不可量ノ憐恤ト仁愛トヲ顯ハシ玉ヒキヲ教示セラレヌ即チ天ニ在マシテ憐恤ニ富ミ玉フ父ナル神ハ法律ノ詛ニ由テ壓セラレ墮落沈淪セル人類ヲ願ミ且ツ人類ガ到底自家ノ能力ニヨリテ此ノ咒詛ヨリ脱却スルヲ得ザルヲ知り玉フノ故ヲモテ特ニ其聖子ヲ世ニ遣リテ彼ノ上ニ世ノ凡ノ罪ヲ負ハセ玉ヒキ而モ神ハ聖子ニ向ヒ嚴カニモ爾ハ曾テ主ヲ知ラズトテ拒ミタルベテロ或ハ信徒ヲ窘迫シ神ヲ瀆冒シ殘忍酷薄ナリシボウロ或ハ姦淫ノ罪ヲ犯シタルダビデ或ハ樂園ノ菓實ヲ食ヒケル罪人或ハ十字架ニ釘セラレタル盜人ナリ換言スレバ爾ハ凡ノ人類ノ犯シタル凡ノ罪ヲ犯シタル者ナリ故ニ此ノ罪ノ爲ニ爾ハ償ヲ全フセザルベカラズ「トハ云ヒ玉ヘリキ之ニ由リ律法ハ彼ハ罪ナリ即チ彼ハ凡テ他人ノ罪ヲ其身ニ負ヘリ而シテ余ハ彼ノ外別ニ罪アル者ヲ見ズ彼ハ當ニ十字架ニ釘リテ死セザルベカ

ラズト云ヒ遂ニキリストヲ拿ヘテ之ヲ十字架上ニ殺シヌ此ニ因リテ凡ノ世界ハ罪ヨリ潔メラレ人類ハ凡ノ艱難ト死ヨリ解キ放タレタルモノナリト是レ豈ニ信心熱裂ニシテ意味判然タル好辭句ニ非ラズヤ吾人ハ此ニ於テ教理ノ細條ヲ知ルヲ能ハズト雖モ尙且ツ吾人ヲ獎勵スルノ言ナリトシテ受クルニ足ル今其ノ意ヲ取リテ之ヲ換言センカ「キリストハ人ノ當ニ受ク可キ刑罰ヲ其身ニ負ヒ玉フタルヲモテ凡ソキリストヲ信ズル者ハ罪ノ刑罰ヨリ解除セラレタル者ナリ而シテ律法ハ人類ノ代リトシテキリストノ上ニ苦難ヲ負フセタリキ是レ只タキリストノ憐ミニ因リテノミナリトノ意タルナリ

贖罪ニ關スルルーサートアンセルムノ思想トハ大ニ異ナル所アリキアンセルムハ以爲クキリストガ自カラ甘シテ身ヲ死ニ托シ玉フハ神ノ稜威ニ對シテ最敬ヲ行ヒ玉フ事ナリ而シテ神ガ人類ノ罪ヲ赦シ玉フハ是レキリストニ對スル報酬タルナリ別言スレバキリストハ其死ニ臨ミ公義的榮光ヲ其身ニ纏ヒ神ヨリノ其報酬ヲ受ケ玉ヒヌコノ報

酬コソ即チ人類ノ救拯ナリト然レモルーサートノ思想ニヨレバキリストノ死ハ人類ガ其罪ニ由テ當ニ受ク可キ苦ヲ自カラ代リテ負ヒ玉フ事ニシテ神ハ人類ノ當ニ受ク可キ苦難ヲキリストノ上ニ加ヘ玉ヒヌコレゾ則チキリストガ人類ヲ救拯シ玉フ所以ノ道ナリトセリ以上ハ兩者ノ見大ニ異リト雖モ其當ニ相契合スル一點ヲ舉グレバ人類ノ罪ヲ赦サル、所以ハキリストノ死ニアリトノ事はナリ

有名ナル學者ジョン、カルビン(千五百五十年)ハ贖罪ヲ論ジテルーサーノ說ニ與シタリフランシス、タンテンハ(千百六十年)カルビン徒中ノ尤モ有名ナルモノナルガ吾人ハ其著書ニ於テ改革後ノ神學上ニ完全ニ且ツ秩序アル發達アリシヲ見ルヲ得彼レハ其著書神學ノ「神學ノ演繹」ニ於テ論ジテ曰クキリストハ我儕ノ代表者トシテ神ノ義ヲ満足セシメ玉フハ是レ必要ノ事ナリシヤ否ヤト彼ハソシニアン宗ニ反對スルカ爲メニ這般ノ問題ニ付テハ之ヲ然リト云ヘリ今其理由ヲ考フルニアンセルム時代ヨリシテキリスト教會ニ於ケル學者等ハ贖罪論ニ關

スル思想ハ漸々變更シタリシヲ以テナリトスタンデンハ更ニ上述ノ旨ヲ論シテ曰ク第一賞罰ヲ明ニシテ正義ヲ確執スルハ神ノ性質ノ一部分ナリ神ハ此正義ヲ捨テ玉フコト能ハザルノミナラズ又絶エテ之ヲ働カシメザル可ラズ第二罪トハ道德上ノ害惡ニシテ聖トハ絶對的反對スルモノナリ又道德上ノ害惡ト肉體上ノ害惡トノ間ニハ必要ナル關係アリ是ノ故ニ罪ガ刑罰ニ處セラル、事ハ神ノ知慧仁愛及ビ正義上必要不可欠ノ事ナリトス第三神ノ律法ハ云フ罪ノ刑罰ハ則チ死ナリト而シテ神ハ其ノ誠實ヲ守ルガ爲ニ律法ニ於テ指示セラレタル刑罰ハ之ヲ罪人ニ加ヘザルベカラズ第四キリストガ人類ニ代リテ其鮮血ヲ進ラシ恐ル可キ其死ヲ遂ゲ玉ヒシハ福音書ニ記サレタル事實ナリトス第五神ガ其聖子ヲ吝マズシテ人類ニ代ヘテ彼ヲ其死ニ解スハ人類ニ對スル神ノ慈愛ヲ彰ハス所以ニシテ吾人若シキリストガ人類ニ代リテ神ノ正義ヲ満足セシメンガ爲メニ死シ玉フヲ必要ナラズトセバ是レ神ノ愛ヲシテ縮少ナラシムルモノナリ若シ夫レ正義ニシテ

人類ノ罪ヲ赦ルスニ何等ノ障害ヲモナサザルモノナランニハ人類ノ罪ヲ赦シ玉フ神ノ愛ハ一層洪大ナルモノトシテ見ラルベキナリ然ルト雖正義ノ罪ニ對シテ要求スル所ノ刑罰及ヒ人類ノ救拯ニ關スル神ノ冀望ハキリストノ死ニヨリ當ニ満足セラレタルヲモテ茲ニ正義ト慈愛ト相調和セラレタリ之ニ由リテ神ノ慈愛ハ益其大ヲ彰ハスニ至ルトタンデンハ罪ノ救ノ爲ニ挽回ノ物ハ必要アリトスルハ是レ神ノ絶對的權威ヲ否モノ神ノ自由ニ界限ヲ付スルモノ神ノ無限ナル慈愛ヲ潰スモノナリ下ノ反論ヲ駁スルノ後左ノ語ヲモテ其論ヲ結ビキ曰ク神ハ自然ニシテ罪ヲ赦スノ權威ヲ有シ給フ然レモ此ハ權威ヲ用ユルハ只其正義ニ就キテノミ然リトス若シ挽回ノ物ナクシテ罪ノ赦サレンニハ法律ノ威嚴ハ當ニ破却セラルト謂フ可キナリ神ト罪人トノ關係ハ私ノ關係即チ債主ト負債主ノ如キ若クハ主人ト奴隸トノ關係ノ如キニ非ラズ絶對的規則ニ由レル關係ニ非ラズ私人的利益ノ關係ニアラズ其關係タルヤ宇宙道德ニヨリテ成立セル所ノモノニシテ

神ハ罪人ヲ司宰シ且ツ裁判スル者タルナリ蓋シ其關係ノ起原ハ創造ノ事實ニ基クモノトス夫レ私人的關係ニ於テハ其正當ニ要求ス可キモノモ其一方ノ意思ニヨリテ之ヲ用キザルヲ得ルモ其宇宙ト相關スルモノニ至リテハ其要求ハ嚴然トシテ永久ニ存シ宇宙的正當ノ理由アルニアラザレバ之ヲ用ヒザル事能ハズト

有名ナル改革派神學者ナッストリククト(千六百六十年)ハ罪ノ赦ルシノ爲ニ挽回ノ物ヲ要スルノ理由トシテ左ノ如ク云ヒヌ曰ク第一其ハ永久不變ナル目的ト確然タル神ノ詔勅ハ罪ニ向ヒ正當ナル刑罰ヲ加フルニアラザルヨリハ其罪ヲ赦シ玉ハザル可シ第二神ハ眞實ニ在ス其聖示ニ因リ罪ニ對シテハ死ノ刑罰ヲ加ヘザル可カラズ第三神ハ聖ナルモノ義ナルモノニ在スヲモテ自カラ罪ヲ嫌忌シ給フ聖書ニ記サレタル神ガ罪ヲ嫌忌シ玉フトハ之レヲ嫌忌スルノ極其罪ヲ罰スルノ決心ヲ指示スルヤ明ナリ第四罪ハ自然ニシテ死ノ罰ヲ受ク可キモノタリ而シテ宇宙ノ審判者ハ完全無欠ナル公義ノモノタラザル可カラズ

第五謂フ所ノ法律ニシテ若シ刑罰テフ結果アラザランニハ是レ單ニ勸善的ノモノタルナリ蓋シ刑罰タルヤ雷ニ威嚇的ナルノミナラズ實際ニ之ヲ加フル底ノモノタラザル可カラズ第六神ハ賢且ツ善ナル主宰者ナルヲモテ刑罰ナクシテ徒ニ法律ヲ侵犯セル罪人ヲ赦スコト能ハズ蓋シ如此ハ是レ宇宙ノ安寧幸福ヲ害スルモノナレバナリ彼ハ最後ノ第七項ニ於テ曰クキリストノ死ハ罪ノ爲ニ挽回ノ物ニシテ之ヲ除キテ他ニ人類救拯ノ途アリガタキコトハ神カ其聖子ノ人類ノ爲ニ刑罰ヲ受ケ玉フヲ可シトシ玉ヘルヲモテ知ルベキナリト

ダンスコタスハ其時代ニ於ケル贖罪ノ説明ヲ極論シテ却テ之ヲシテ大ニ卑下ナラシメタリ斯ノ如クグロシアスモ亦(千六百三十年)改革派ノ贖罪ニ於ケル説明ヲ極論シ却テ之レヲ卑下ナラシメタリキ「プロテスタント」ハ皆云フ贖罪トハ神ニ對シテ犯シタル害ヲ償フコトノミナラズ尙且ツ宇宙ノ律法ヲ侵犯セル罪ヲ償フコトナリト蓋シ宇宙ノ律法ハ神ノ權威ニヨリテ守ラルベキモノナルモテ正義ハ罪ノ爲ニ贖罪

ヲ要求シヌトグロシヤスハ以上改革派説明ヲ確執シタリキ(但第十三世紀ノ學者ノ説トハ大ニ異ナリタルモノ)彼ハ學博ク法律博士ノ稱號ヲ有シ全權公使ニ任セラレ政治家トシテ著名ナルモノナリキ故ニ彼ガ神政主義ヲ論ズルヤ恰モ當今ノ政治的主義ヲ以テセリ彼ハ其著書「キヤソリック贖罪教理防禦論」ニ於テ其持説ヲ明了ニ發表セリ但シ本書ハソサイナスノ贖罪論ニ反對センカ爲ニ著述セラレタルモノニシテ見事ソサイナスノ説ヲ打破セルガ吾人ハ不幸ニモ彼ノ所説ニ向テ賛同ノ意ヲ表スル能ハザルナリ彼曰ク神ハ道德上宇宙ノ裁判者ナルノミニアラザルナリ若シ夫レ神ニシテ當ニ裁判者ノミニナリセバ神ノ爲シ玉フ可キ務ハ唯タ法律ニ從テ行ヒ玉フニアルノミ故ニ縱令無罪者ガ罪人ニ代リテ其刑罰ヲ受クルトモ神ハ罪人ノ刑罰ヲ赦シ玉フト能ハザル可シ又縱令神ガ罪人ニ刑罰ヲ加ヘ玉フトテ事ヲ思想スルニ當リテモ吾人ハ神ガ罪ニ由リテ害ヲ受ケ玉ヒシガ故ナリト思惟スルコト能ハズ又吾人ハ神ヲモテ罪ノ爲メニ害ヲ被ラサレタル宇宙ノ

代表者トシテ思想スル能ハズ蓋シ其理由トスル所(一)罪ニ由リテ害ヲ受ケタルモノハ其罪ヲ罰スル權威ヲ有セズ即チ何人モ自己ノ訴訟ニ付キ自己又其審判者タルコト能ハザルガ如シ(二)被害者ハ加害者ノ刑罰ヲ要求スルコト能ハス只ソノ損害ノ要償ノ權アルノミ倍テ吾人ハ神ガ人類ノ罪ヲ罰シ玉フトテ事ヲ思想スルニ方リ吾人ハ神ハ絶對的權威ヲモテ宇宙ヲ所有スルモノニシテ人類ノ愛ト奉仕ニ因リテ満足シ給フモノニアラズトハ思惟スベカラズ若シ夫レ神ニシテ絶對的權威ヲモテ人類ヲ所有シ玉フモノナリトセバ神ハ其刑罰ヲ加フル事ナクノ却テ足ラハヌ愛ヲ寬フシ不束ナル奉仕ヲ赦シ玉フト得凡ソ刑罰ノ目的トスル所ハ宇宙ノ安寧幸福ヲ維持スルニアリクシヤス又曰ク刑法上刑罰ハ時ニ或ハ之ヲ寬フスルヲ得然レモ又永久不變ナル法律アリ例令ハ神ハ虚言ヲ吐キ或ハ自己ヲ否ミ或ハ惡ヲ爲スヲ能ハザルガ如シ而ノ又別ニ必ズシモ永久ナラズシテ變ズルノ律法モアルナリ而ノ或論者ハ曰ク凡ソ罪人ガ其犯罪ニ恰當セル刑罰ヲ受ク可キハ

自ラ是レ正義ナリ而シテ罪人ハ神ニ對シテ關係ヲ有スルモノナレバ罪ノ爲ニ當ニ其ノ刑罰ヲ受ク可キナリ然レモ神ハ常ニ人類ニ向ヒテ加罰スルノ必要アラザレバ人ハ當然刑罰ヲ受ク可キモノナリト雖モ凡テノ人類擧ゲテ罰セラル、ノ必要アラザルナリ夫レ神ノ性質ニアリテハ贖罪ナシニ罪ヲ赦スニ付キ故障アルヲナシ然レモ神ハ一ノ贖ヒナクシテ人類ノ罪ヲ赦スハ宇宙道德上如何ナル結果ヲ生ズルカヲ考慮セザルヘカラズ神ノ命令ヲ侵犯セル者ニ對シテ畏ル可キ苦痛ノ與ヘラルベキテフ聖書ノ告示ハ罪惡ヲ防ガシム若シ此ノ苦痛ニ加ヘラレザルモノナランニハ宇宙道德ヲ守護スル爲ニ他ノ手段ニヨラザルベカラズ而ノ人類ガキリストノ苦痛ヲ受ケ玉ヒシニヨリテ赦罪ヲ得ルハ是レ神ノ律法ノ權威ノ守護セラル、手段ナリトス下換言スレバ過去ニ於ケレ罪過ノ刑罰ノ爲メニ償贖タルニアラズ其將來ニ於ケル犯罪ヲ警戒スル刑罰ノ例ナリトセリキ以上是等ノ所論ハ現今英國ニ於ケル監督ヲ有セザル教會中ニ大勢力ヲ有セリ

試ニ今以上ノ所説ヲ摘要セバ殆ド一千年間基督教會ニ於ケル著名ナル多數ノ神學者ハ(一)キリストノ死ハ人類ガ惡魔ノ奴隸タル苦キ羈ヨリ當ニ解散セラルベキ贖ナルヲ教示セリ又五百年間(二)基督教會ノ神學者等ハキリストノ死ヲ以テ神ガ其自ラノ悠久宏大ヲ且ツ敬シ且ツ守リ玉フノ行爲ナリトセリ又三百年間(三)プロテスタント教會ノ學者等ハキリストノ死ハ敢テ惡魔ガ人類ヲ捕フルヲ若クハ神ガ其權利ヲ保護センガ爲ニ要求シ玉フ事ニ關係ナシト雖モ宇宙道德ヲ守護センガ爲ニ贖罪ヲ要スルトハ教ヘヌ夫レ如斯ク千八百年間贖罪ノ説明ニ付キ以上三個ノ異説アリキ而シテ又之ト同時ニ贖罪ノ事實ニ關シ諸多ノ議論アリキ則チキリストノ死ハ宇宙全體ニ關係アルカ或ハ唯ダ凡ノ人類ノ爲メノミナルヤ或ハ神ガ特ニ選ミ玉ヒタル人類ニノミ關スルヤ等是レナリキ而シテ尚ホ他ニキリストノ死ハ人類ノ罪ノ爲ニ自然ニ然ル可ク且ツ完全キ贖ヒナルカ或ハ又是レ自然ニアラズノ唯タ神ノ之レヲ納受シ玉フニヨリテ完全ナル贖ヒトハナルヤトノ論ア

リキ而ノ是等ノ説明ニ對シ論者或ハ問フテ曰ク若シ神ノ目的ニシテ人類ヲ救フニアリトセバキリストノ贖罪ハ必ズシモ必要ナリヤ否ヤ又贖罪ノ結果ハ自ラ凡ノ人類ニ及ブ可キヤ將タ單ニ選バレタルモノニノミ關スルヤ又贖罪ノ性質ハキリストノ痛苦ニヨリテ證明セラレタル義ナルヤ將タ苦痛ハ直ニ是レ贖罪ナルヤ及ビ贖罪ノ目的ハ人類ヲ惡魔ノ權威ヨリ贖フノタメナルヤ又ハ神ノ宏大ヲ損傷シタルタメ之ヲ挽回スルモノナルヤ將タ又神ノ支配ノ限ナキ主意ヲ顯ハスタメナルヤト此等緊要ナル諸點ヲ論ズルニ當リ異說區々トシテ基督公會中自ラ區別ヲ生スルニ至リキ而シテ贖罪ニ關スル此等區々ノ説明及議論ハ實ニ一千八百年ニ亘リテ絶ユルコトナカリキ然レモ多數ノ信徒ニアリテハ一意次ノ一點ヲ確信セリキ曰ク(一)人類ノ罪惡ノ爲ニキリストハ其死ノ苦楚ヲ受ケ玉ヒシ事(二)人類カ罪ノ刑罰ヨリ解放セラレテ自由ナルモノトナルヲ得ルハ是レキリストノ苦楚ニヨリテナル事是レナリ是ヲモテ贖罪思想ハ學者ノ神人間ノ關係ニツケル議論ニ

ヨリ細メテ其端ヲ啓カレタリトスルハ最モ大ナル誤謬ニシテ恰モ是レ天文學者ガ天體ニ關スル其思想ヲ顯ハスニ當リ太陽ハ運行スル如ク見エルモ其實ハ然ラズ依然トシテ動カザルモノナリトノ所説ヲ以テコレ天文學者ノ創始シタルモノトナスト一般愚蒙ノ極ト云フ可キナリ

此ル外部的贖罪思想ニヨリテ有名ナル神學者等ガ神學全體ニ向テ試ミタル種々異様ナル説明モ其跡ヲ消シヌ若シ夫レキリスト教會ノ確信セル信仰ケ條ヨリ此ル思想ヲ除去スルヲ得バ他ノ神學問題ヲ論ズルハ蓋シ明々タル事ナランノミ是ニ於テカ吾人ハ左ノ結論ヲ得即チ外部的贖罪思想ハ學者ノ議論ニヨリテ其端ヲ啓カレタルモノニアラザルハ外部的贖罪教理ノ歴史ヲ見テ之ヲ證スルヲ得ルト要之外部的贖罪ハ明カニ不變ナル事實ナルガ其説明ニ至リテハ種々異様ニノ聖公會最早ノ學者ノ説明ハ十二世時間ノ學者ノ説明ニ由テ衰エ又彼等ノ説明ハ宗教改革者ノ説明ニ由テ其跡ヲ絶チ而シテ是ハ又グロシア

ス及其承繼者ニ由テ變更セラレキ然レモ是等種々ノ説明ニ頓着スル
ヲナク多クノ信徒ハ聖書ノ語ニ由テ信仰ヲ以テ此外部の贖罪ノ事實
ヲ確守シタルナリ

外部的贖罪教理ニ反スルモノ或ハ曰ク世界ノ凡ノ時代ヲ通シテ多數
ノ人民ハ不可見的世界ニ於テ權威アル存在者ヲ認メ甚ダシク之ヲ恐
レタリキ故ニユダヤ人及異邦人ハ此ノ權利アル存在者ニ對シテ常ニ
挽回ノ祭物ヲ捧ゲタリキ惟フニ彼ノ神學者等ハ此ル民人ノ恐怖心ヨ
リノ外部的贖罪思想ヲ有スルニハ至リシナラカ別言スレバキリス
ト教會ハ神ノ無窮ナル仁愛ヲ把握スル事ニ頗ル遅々タリキ故ニ神ノ
忿怒ヲ挽回スルノ道ハ惟ターニ苦痛アルノミ而シテキリストノ死ノ
苦痛ハ即チ是レ挽回ノ祭物タルナリト教ヘキト然レモ世界ニ於ケル
凡ノ民人ハ其宗教ノ必要ナル所以ハ罪ヲ挽回ス可キ犠牲ハ之ニ由テ
得ラルベシト思惟セルヲ以テナリ又贖罪ヲ要スルニ當リキリスト教
ノ贖罪ハ其必要ヲ滿タシムルモノナリト思惟セリキ然レモ若シ主キ

リスト自ラ之ヲ宣言シ或ハ其使徒等ガキリストノ死ハ神ガ人類ノ罪
ヲ赦シ玉フノ理由ナリトノ事ヲ宣言スルニアラザレバキリスト教會
ハ只々其ノ自家ノ考案ニヨリテ此ル贖罪論ヲ立テン事ハ到底出來ベ
カラザル事ニ屬ス吾人ハ今如何ニシテ此ノ異常ナル事ガキリスト教
會内ニ立テラレシヤヲ論ゼントス

キリスト教會創設セラレタル以來凡ノ信徒ハ主キリストノ生涯ニ付
キ深キ注意ヲモテ之ヲ考究ナシタリキ蓋シ主ノ生涯及其死ハ實ニ是
レ福音ナリキ而シテ此ハ使徒等ノ教ヘシ所ノ基礎ナリシナリ凡ノキリ
スト教徒ハ以爲ラクユダヤノ司等ハキリストヲ十字架ニ釘ノ大罪ヲ
犯シヌト例之茲ニ未開ノ國アリ其國人等ハ暗昧不經ナル風俗傳説ヲ
有セル者ナルガ今其只中ニ立チテ其風俗傳説ヲ攻撃シ正教ヲ宣傳ス
ル者アリ彼等ハ大ニ之ヲ嫌惡シ無法ニモ此ル正教傳者ヲ捕ヘテ之ヲ
慘害シタリトセンニ彼等元來野蠻暗昧ノ民タレバ其所爲ノ理非ヲ明
白ニ辨フル事能ハズ爲ニ自家ノ犯罪ニ對ノ多少分疏的言辭ヲ有セザ

ルニアラズトスルモ彼ノ天倫人彛ノ如何ヲ辨へ道德的訓練アルユダヤ人民ニ其共同國人ニシテ而モ宣教ノ大任ヲ帶ビタルキリストヲ十字架上ニ釘シナガライカデ能ク通辭ヲナシ得ンヤ蓋シ主ハユダヤ人等ガ永ク翹望セルメシヤ即チ救世主トハ稍其態度ノ異ナルモノアリキ彼等ハメシヤニヨリテ此ノ世ノ榮華ヲ希望セリキ而シテ主ハ之ニ效ユルニ深キ謙遜ヲ以テセリキ彼等ハ異邦ナル壓抑者等ニ對ヒテ復讐セント望ミタリキ而シテ主ハ之ニ教ユルニ凡ヲ赦シ凡ヲ愛スルヲ以テシ玉ヒキ主キリストハ其生涯ヲ通シテ純全タルユダヤ人ナリキ而ノモ一セノ律法ト預言者等ノ諸書ト權威ヲ承認シタマヒキ彼ハ其徒ヲ率ヒテエルサレムノ宮殿ニ禮拜シ又彼等ト共ニ集會ヲ催フシ其國祭ニ與リ玉ヒキ然レモ彼ハ時トユダヤノ學者ナルラビ等ガ立テタル規則ニ反シ玉ヒキ然レモ彼ハ漫然ト之ニ背キ玉ヒシニアラズ此ル場合ニ臨ミテハ彼ハ何時モ注意細カニ其理由ヲ説明シ神ノ法律即舊約全書ノ根本的精神ニ背反スル事ナル旨ヲ懇示シ玉ヒキ其說教

ハ常ニ自國ノ宗教ニ付キテ語り其例證ハ之ヲ自國ノ文學ヨリ引用シ玉ヒキ彼ハ其說教中ニ於テ其能クユダヤ人ヲ礙カシメ且惑ハサシムルノ點ハ却テ是レユダヤ國ノ神聖ナル禮式及ヒ歷史上ナル聖キ事實ニ適合セルモノナルヲ指示セリキ彼ハユダヤ人等ガ信ジ難シトシ且又彼等ヲシテ怒ラシメ易キ點ヲ宣傳スルニ當リテハ其自國ノ歷史ニ付キ充全ナル同情ヲ表スルモノヲ宣言シ玉ヒキ例令バ彼ガユダヤノ宰ニゴデモニ對ヒ其死ノ人類ヲ贖フ可キ惟一ナル權或アルモノナルヲ告グ玉フヤ彼ハ之ヲ説明スルニ往昔ユダヤ人等ガ四十年間アラビヤノ荒野ニ彷徨セル時神ノ爲シ玉ヒタル不思議ノ奇跡ヲ以テシ玉ヒキ則チ約三〇十四五節ニ曰ク「モーセ野に蛇を舉し如く人の子も舉らる可し凡て之を信する者に亡ることなくして永生を受けしめんが爲めなり」又曾テ奇跡ヲモテ五千人ノガリラヤ人ヲ飽カセシメ玉ヒシ後彼ハ教ユルニ已ノ永生ノ本源即チ天より下りし活けるパンなり」トノ事ヲ以テシ玉ヒキ而シテ彼ハ之ヲ説明スルニ往昔イスラエル人等ガ

荒野ニ彷徨セル際ニ養ハレタル「マナ」ノ例ヲ以テセリキ又曾テ幕屋節ヲ守ランガ爲ニ集マリタル人々ニ向ヒテ己レハ渴ケル者ニ對ヒテ活ケル水ヲ與フル者ナリトノ事ヲ教ヘ之ヲ説明スルニ往昔イスラエル人ガ荒野彷徨ノ際岩ばしり得タルノ事實ヲ以テセリ又全ジ節ノ終リニ我ハ世の光なり凡そ我ニ從ふ者は暗を行かず生命の光を得ト教ヘ玉ヒシガ之ヲ説明スルニ昔シイスラエル人ガ埃及ヲ出デ去リシ後常ニ彼等ノ前ニアリテ彼等ヲ導キタル火ノ柱ノ例ヲ以テシ玉ヒキ斯ノ如ク主ノ教訓ハ徹上徹下ユダヤノ光榮ヲ保存シ由來久シキ信仰ト希望トヲ一層確フシ而シテ律法ト預言者トヲ成就セシメンガ爲ニ來リ給シヲ了解セシメン事ニアリキ

キリストハ其教ヲ宣傳スルニ際シ凡ノ人ヲシテ平和ニ其教ヲ受ケ納レシムルヲ以テ其生涯ニ於ケル方針トハシ玉ヒキ彼ハユダヤノ宰等ガ彼ヲ「メシヤ」トシテ納ルニ容易ナラン様ニ取リナシ玉ヒキ彼ハユダヤ人民ヲ警醒スルニ當リ彼等ガ其宰ニツキ未ダ疑念ヲ抱キ其信用ヲ

失セザルニ先チ彼ハ其宰等ニ示スニ自家ノ救世主ナルヲ以テシ玉ヒキ則チ彼ハエルザレムノ聖殿ニ入り兩替屋ト牛羊ヲ賣リ買ヒスルモノ等ヲ驅逐シ玉ヒキ此ハユダヤ國改革豫言者ノ當ニ爲ス可キ務ナリトス蓋シ此ル行爲ハユダヤ人ガ有スル普通ノ信仰ト思想トニ適合スルモノナルヲモテ彼宰等ハ此ル行爲ノ何等ノ意味ヲ有スルヤハ夙ニ了解セザルベカラザル事ナリトス此ル行爲ハ決シテ信仰ケ條ト禮式トノ變更ニアラズシテ神ノ宮殿ノ神聖ナル所以ヲ垂示シ自家ノ利益ノ爲ニ宮殿ヲ冒瀆スル白徒ニ左祖スル宰等ヲ譴責スルノ行爲ナリキ而シテ誠實ニシテ神ノ宮殿ヲ崇敬スル忠實ナルユダヤノ宰等ハ當ニ此ノ少壯ナル一個ガリラヤ人ノ行爲ヲ見テ其熱誠ニシテ神ヲ敬畏スルノ心ニ同情ヲ表シタル事ナラン且ツ謙遜ナル心ヲモテ此ノ譴責ヲ受ケ納レタルナル可シ

此事ノ後主ハ幾ンド一年間平和ニシテユダヤノ近傍ニ住ヒ玉ヒキ但シ此ハユダヤノ宰等ヲシテキリストノ宮殿掃蕩ノ行爲ハ何等ノ目的

ヲ有セシカヲ思考セシメンガ爲メナリキ此ノ間ニアリテ彼ハ人ヲシテ聳動セシムベキ一事ヲモ爲シ玉ハザリキ而ノ彼ハユダヤノ宰等、方キリストニ反シテ其前程ヲ遮ラント決神セシ其當時ヨリシテ初メテ公然其道ヲ宣傳シ玉ヘリキ而シテ彼ハユダヤノ宰等ガ反對ノ旗幟ヲ翻セルヲ見敢テエルサレム城中ニ自家ノ宗派ヲ樹立セシムル事ヲセズ却テ遠ク北方ニ赴キ其福音ヲ宣傳シ玉ヒキ此クシテ彼ノ宰等ヲシテ靜カニ彼ニ反對スル事ノ如何ヲ考慮シ此ル無益ノ反抗ヲ放擲スルノ機會ヲ與ヘ玉ヒキ而シテ彼ハ年毎ニ三度執リ行ハレタル祝節ニハ必ズエルサレムニ詣テ其自家ノ國境ヲ離レテ別一新宗教ヲ樹立スルモノニ非ラズ却テ誠心ニシテ之ニ服従スルモノナル旨ヲ證明シ玉ヒキ

主ガ北方カラテヤニ居玉フヤ嘗テ毫モユダヤ宰等ノ嫉惡及ヒ其不義ナル行爲ヲ摘抉シ世人ヲシテ之ニ反對セシメンガ爲ニ之ヲ煽動スル様ノ事ヲナシ玉ハザリキ彼ハ久シクガラテヤニアリタル各邑古村到

ル所道ヲ説キシト雖モ未ダ曾テ異邦ノ大邑タイペイアスニハ往キ玉ハザリキサイロビニシヤニ生レシギリシヤノ婦(異邦人)キリストニ乞フテ我娘ヲ憫ミ之ヲ療シ玉ヘト曰ケレバ主ハイスラエルノ家ノ迷ヘル羊の外に我は遣はされずトハ答ヘ玉ヘキ(太十五〇二十四)而ノ其十二弟子ヲシテユダヤ國民中ニノミ宣傳セシメ玉ヒキ曰ク「異邦の途に往なかれ又サマリア人の邑にも入なかれ」惟イスラエルの家の迷ヘル羊に住け(太十〇五六)ト斯ノ如ク主キリストハ其生涯ノ行爲ニ於テ好ンデユダヤ宰等ノ偏見ト國民的尊大トニ反對シ其罪ヲ擧グルヲ爲シ玉ハザリキ

惟タ之ノミナラズ主ハ毫モユダヤ及ヒロマ政府ニ反對スル事ヲ爲シ玉ハザリキ彼ハ多ノ罪人ニ對シテ教ヲ説キ玉フニ當リ或ハ古キユダヤ政府ノ權威ヲ語り其榮華ヲ追懷シ古勇士ノ愛國譚ヲ語り以テ國家的感情ヲ激成シ時ノ政府ニ反ム可ク煽動スルヲナサバリキ而ノ當時ユダヤハロマノ版圖ニ屬スルヲモテ彼ハ決シテロマ政府ヲ攻撃ス

ル底ノ事ヲナシ玉ハザリキ彼ハ曾テユダヤ人等ガ彼ヲ擁シテ王トナサントテ韓メキアヘル時人ヲ避ケ單身山ニ隠レ玉ヒキ(約六〇一五)夫レ此ノ如ク務メテ穩便ナル手段ニヨリテ福音ヲ宣傳シ或ハ人民或ハ教職或ハ有司或ハ政府ヲシテ礙シム可ク直情徑行急劇ナル宣教ヲバナシ玉ハザリキ其生涯ノ行爲ハ人類ノ最高貴ナル道德ヲシテ完全セシム可キ唯一標本ナリシナリサレバ彼ノ教ニ反對ヲ試ミ敢テ螻臂ヲ違スルガ如キハ只其陋劣ナル戒儘心ニマカセ或ハ宗教的自負心ニ驅ラレ或ハ嚴肅ナル道德ヲ嫌惡スルニ由テノミ

吾人ハ以下少シクエルサレムニ於テ非キリスト派ヲ生シ其勢焰追々ト熾ニ成リ行キタル事情ニツキ述ブル所アラントスユダヤ人等ガ公然其反對ノ意志ヲ打ち出シタルハ主ガ安息日ニモ拘ラズテスダ池ニ三十八年病ミサラバヒタル病人ヲ醫シ玉ヒシヲ以テ最初トスユダヤ人等ハ云ヘリ是レ安息日ヲ犯シタル所爲ナリ其後又安息日ニ名高キ乞食ノ聲者ヲ醫シ玉ヒシ事有ケルガ彼等ハ又曰ク是レ安息日ヲ犯シ

タル所爲ナリト主ハ前後二回安息日ヲ犯シ玉ヒシテフ理由ヲモテ宰ノ前ニ尋問セラレ玉ヒシトキ彼ハ自ラノ神性ヲ告ゲ玉ヒキ之ニ由テ彼等ハ一層主ヲ嫌忌シ遂ニ之ヲ殺サント欲スルニ至リヌ其後一ケ年ヲ經テノ事ナリシ主ガラザロヲ死ヨリ輕ラセ玉フ傳説各地ニ傳ハルヤユダヤノ宰等ハ民等驚駭ノ極主ニ服從シテ謀反セラレン事ヲ恐レ其極愈々彼ヲ殺サント恐ル可キヲ工ムニ至リキ夫レ主ガ人ノ爲ニ爲シ玉ヒタルハ一モ非難ス可キ事ナキノミナルニ其報酬ハ却テ苦痛ノミナリキ彼レハ苦惱ノ人ヲ助ケンガ爲ニ奇跡ヲ行ヒ玉ヒタルニ此ハ却テ宰等ヲシテ一層彼ヲ嫌忌セシムルノ媒トハナリキ而シテユダヤノ宰等ハ其ノ手ヲモテ主キリストヲ死罪ニ解シタルハ言ヒ遁ルベカラザル大罪ナル事ハ彼等自ニ於テ善ク認知スル所ナリキ

有名ナルスユルアルトミルハ(英國人)其著自由論ニ於テ主キリストガガルバリ山上ニ釘死シ玉ヒタル事及ピアデンスノ有名ナル哲學者ンクラテスノ死罪ニ定メラレシ事ニ付キ論シテ曰此二事實ハ諸國ノ歴

史中不法ナル審判ノ實例タルナリ現今世人ハ不幸ナル此二事實ニ付
キ特ニ主キリストノ磔殺セラレ玉ヒタル事實ヲ思考スルニ際シ彼ノ
憐憫ム可キ審判者ニ對シ甚ダ不正當ナル觀念ヲ有ス惟フニ彼ノ判官
トテ必スシモ惡人ニアラズ或ハ普通ノ人ヨリモ寧ロ善良ナル性質ヲ
有スルニハアラザリシカ吾人ハ彼ハ當時代ニ於ケル宗教上道德上ノ
思想ニ富ミ愛國的情操ノ豊ナリシヲ知ル蓋シ此種ノ人士ハ多クノ時
代ニ於テ非難ナク攻撃ナク尊敬ノ中ニ其生涯ヲ全フス可ク思惟セラ
ル、ノ人ナリト然レモ吾人ハミル氏ノ辨護的言說ヲ直ニ是ナリト
ノ之ニ服スルヲ得ザルナリソモ當時ニアリテ主キリストヲ殺害セル
人々ハ其罪ノ深ク且ツ大ナル事別言スレバ尊ム可キ神ノ聖子ヲ殺害
スル者ナルヲ知ラザリキ故ニ主ハ架上ニアリ慰勸下手者ノ爲ニ神ノ
憐憫ヲ求メ玉ヒキ曰ク「父よ彼等を赦し玉へ其爲す所を知らざるが故
なり」(路二三〇三四)如斯判官等ハ其罪ノ如何ニ大ナルモノナルカヲ
知ラズ世人ハ其罪ノ如何ニ大ナルカヲ考フルコトスラナサハリキ然

レモ彼等トテ其不正ナル裁判ノ大罪ナル事ハ之ヲ認メ知リヌキリス
トノ使徒等ハ其主ヲ殺害セルモノニ付キ決シテ手嚴語ヲ吐カザリキ
此ク福音ニ書キ載セタル主ノ所謂憐憫ムベキ審判者ノ行爲ハ彼等ヲ
シテ永久陋劣至極ノモノトシテ數ヘシメラル、ニ至ラシメキ
却說ユダヤ教ノ宰等ハ百方熟慮ノ後主キリストヲ殺サンガ爲ニ私ニ
一味ヲ語ヒ徒黨ヲ結ビキ彼等ハ主ノ親シキ友ニ食マシムルニ利ヲ以
テシ彼ヲシテ主ヲ賣ラシメントハ企テキ彼等ハ主ヲ裁クニ當リ詐僞
ノ證據ヲ立テタリキ主ガ其死ヨリ甦リ玉フトノ注進ヲ聞クヤ彼等ハ
蒼黃トシテ世人ノ口ヲ箝センガ爲メ墳墓ヲ守衛リシ兵卒等ニ賄賂ヒ
彼等ヲシテ揚言セシメラクキリストノ甦リシト云フハ跡方モナキ虛
事ナリ是ハ番卒等ノ假眠ノ隙ヲ窺ヒテ弟子等ハ其死屍ヲ奪ヒ去リタ
ルモノナリト 彼等審判者ハローマ人ヲユダヤ國ヨリ驅リ遂ハントノ
心嚮勃禁ズベカラザルモノアリト雖モ其キリストヲ羅馬ノ有ユルビ
ラトノ前ニ訴フルニ當リテハキリストヲモテ「カイザル」ニ謀反ヲ企テ

タルモノトハナシキ但シ此ル告訴ノ虛偽ナルハ彼等自身ハ善ク知レル所ナリキ彼ノロマ帝國ノ使命ヲ帯ビ生殺ノ大權ヲモ委テラレタル有司ヒラトハ二度ハキリストノ無罪ナルヲ宣言シナガラモ宰等ハ嫉ト民等ノ怒トヲ恐レテキリストヲ死罪ニハ解シキ是等ノ人士ハミル氏ノ説ニヨレバ必ズシモ惡人ニアラザルノミナラズ普通人ヨリハ寧ロ善良ナル人ナリトスルヲナルガ吾人ハ之ヲ世人ノ常識ニ訴ヘミル氏ノ説ノ必ズシモ當ラザルヲ信ズ吾人ハ斷言セントス彼等審判者等ハ殘酷非道ナル白徒ニシテキリストヲ嫌疑シ途ニハ此ク陋劣極マリタル所以ヲナシタルモノナリト茲ニキリストノ友ニヨリテ記サレ而ノ諸邦ノキリスト公會ニ受ケ納ラレタル歴史ニ記サレタル言ニ曰クキリストヲ殺セシ人々ハキリストヲ殺サンガ爲ニ數多相連續セル一帯ノ罪ヲ犯シキト夫レ然リ然レモキリスト教會ハ千八百年間連續セルユル事ナク主キリストノ死ハ神ガ人類ノ罪ヲ赦シ玉フノ理由ナル事ヲ教ツ、アリキ若シ夫レキリスト教會ニシテ此ル教理ヲ只自家ノ腦

底ヨリ案出セルヲハコレ出來可ラザルヲナリトス此ハ實ニ主ガ之ヲ其弟子等ニ傳ヘ弟子等ハ又之ヲ教會ニ傳ヘタルモノトセザルヲ得ズ蓋シ贖罪ノ教理ハ主キリストヨリ直傳セル教理中ニアリテ最モ緊要ナルモノナリトス而シテ此ハ廣ク世界ニ宣傳シ諸國民ヲシテ其恩澤ニ浴セシムベキナリトス

僭キリストノ死ヲ以テ人類ガ犯シタル數多ノ罪惡ノ結果ナリトセバ贖罪ノ教理ハ立テ難シコレニツキ一ノ譬喩アリ往昔イスラエル人等ガアラビヤノ荒野ニ彷徨セルキモ一セハ神ノ仰ニヨリ彼ハイスラエルノ長トナリ且ツ律法ヲ立ツルヲモテ其任トナスニ當リ彼ニ反對セル黨派ハ無端起リ來リ彼ハ敵ノ手ニ解サレ拷問ノ苦痛ヲ忍ビ遂ニハ慘害セラレタリト假定センニ彼ノ死後二三年ヲ經過スルヤ神ハ彼ガ死ノ功ヲモテ凡テイスラエル人ノ罪ヲ赦シ玉フベシトハ豈ニ思料シ難キ事ナラズヤ又イスラエル人等ガカナンニ入りシ後エルサレムノ滅亡ニ至ルマデユダヤノ教法師等ハ或ハ偶像ヲ禮拜シ或ハ神ノ律法

ヲ犯シタルヲナルガ彼等ニシテ若シ其罪ヲ悔改メンニハ神ハモーセ
ノ死ノ功ニヨリテ其罪ヲ赦シ玉フベシトハ豈ニ信受シ難キ事ナラズ
ヤモーセノ死ヲモテ罪ヲ赦サル可キ理由ナリトスルヲノ代ハリニイ
スラエル人等ハ年毎ニ食ヲ斷チ麻ヲ衣モーセ殺害ノ罪ヲ懺悔シ且ツ
神ノ憐矜ヲ願ハザルベカラザルベキナリ而シテ預言者等ハ當時代ノ
罪ノ爲ニ神ノ忿怒ノ如何ヲ示シ將ニ言フ可シ曰ク汝ノ先祖ハ野ニテ
神ノ命ニ背キ其ノ頑固ナル心ニ任セ種々ナル罪ヲ犯セルノミナラズ
剩サヘモーセヲ殺スノ大罪ヲ犯シタリ汝ハ其子孫ナレバ神ハ忿怒リ
テ汝等ハ其安息ニ入ルベカラズト宣ヘリト然レモ彼レ預言者ハ「神ハ
モーセヲ殺シタル罪ニヨリ汝ノ罪ヲ赦シ玉フ可シト」ハ決シテ言ハザ
リシナル可シ

今若シモーセニシテ其恩義ヲ辨ヘズ無法ニモ謀逆ヲ違フセル全國民
ノ手ニ殺サレタリシナランニハ預言者等ハ人ヲシテモーセノ如キ心
操ヲ有シ死ニ至ルマデ神ニ忠ナランヲ獎勵スルニ方リテハ勢ヒモ
「モーセノ死ト其苦楚トヲ指示スル事ナルベシ」今ノキリスト教會ガキリ
ストノ死ト其苦楚ヲ説キテ世ヲ警醒スル所以ノモノ之ト同一一般ナル
ノミ然レモ此ハ贖罪ノ教理ヲ立ツルヲニ關シ一ノ説明ヲ與フルモノ
ニアラザルナリ
以上縷述ノ旨ニヨレバ贖罪ノ教理ハ人ニヨツテ立テラレタルモノニ
非ズキリスト自身之ヲ使徒ニ傳ヘ使徒之ヲ聖公會ニ傳ヘ聖公會傳ヘ
傳ヘテ以テ成立セルモノナル事ヲ知ラルベキナリ

贖罪論

第九章

主耶蘇基督ノ贖罪論

第九章 赦罪ノ存否ヲ論ス

前八章中ニ論究セル主意ヲ要言セバ則チ人類ノ罪惡ハ主キリストノ磔死ヲ來ラシメタル原因ナル事換言セバ主キリストノ死ニヨリテ神ガ人類ノ罪ヲ赦シ玉フ事而シテ主ノ死タルヤ蓋シ唯尋常一樣ナル篤ク眞教ヲ奉シ良心ヲ欺ク事ナシ人類ノ最上幸福ノ爲メニ身ヲ致ス事切ニシテ且ツ神ノ權威ニ忠誠ヲモテ服従スル衣ノ一介善人ノ殺サレタルガ如キ死ニ非ラズ實ニ是レ罪ノ挽回ノ祭物タルト云フニアリキ而シテ此ハ主キリストノ生涯ト其教言トニヨリ且ツハ主ノ聖旨ヲ徹底セル其使徒等ノ證詞ニヨリテ之ヲ證スル事ヲ得テ余リマリ吾人ハ之ニ由リテ主キリストノ死ト人類赦罪ノ關係ノ既ニ成立セルヲ見キ吾人ハ今此ノ關係ニ付キ即チ主ガ既ニ人類ノ罪ヲ贖ハンガ爲ニ死シ玉ヒシテフ事實ノ確立シタレバトテ之ヲモテ直ニ贖罪ノ教理ヲ成立

セシムルヤ否ヤヲ論ゼントス

以下細論ヲ試ントスル所ハ比較的前八章ノヨリハ緊要ナルモノニ非ラズ其ノ故何トナレバ神ガ人類ノ罪ヲ赦シ玉フノ理由ハ主キリストノ死ニ關スル教理ニ由ルニ非ズ唯其死ノ事實ニ由ル者ナレバ也蓋シ人ハキリストハ神ノ聖子ニシテ救主ナルヲ信ズルニヨリ其血ニヨリテ贖ヲ受クルヲ得故ニ吾人ハ如何ナル説明ヲ以テスルモ罪ノ赦ノ得ラルベキカノ如ク恩惟スルハ是レ決シテ贖ヲ受ケン事ノ良手段ニ非ラズ吾人ハ此信仰ヲ抱ク爲ニ主ノ死ガ世ノ罪ノ挽回ノ祭物ナリトノ事實ヲ認ルハ必要ナラズ又惟タ單ニ他人ノ思索ノ結果ヲ甘受シ或ハ自家ノ臆說ヲ立ツナド是レ一毫ノ要アルナシ吾人ハ惟ダ神ノ默示ニヨリテ主キリストノ慈愛ト其權成ヲ了悟シ專念主ニ依頼シテ其生ヲ終ラン事是救拯ヲ受クルノ充分ナル方法ナリトス然リト雖モ主キリストノ死ノ事實ト赦罪ノ關係ヲ研究シ其質ヲ明ニスルハ又頗ル肝要ナル事ナリトス何トナレバ是レ特ニ神ノ性質ト其

御業ノ深旨ヲ發見スル方法ナルベケレバ也

吾人ハ本問題ヲ論ズルニ當リ劈頭先ツ一難題ニ會セザルヲ得ズ則チ人類ガ當ニ有スル罪惡ハ果シテ之ヲ取除ク事ヲ得可キカ否ヤノ點是レ也吾人若シ正直ニ神ガ告示シ玉ヒタル語ヲ信受センニハ固ヨリ一ノ欺團ノ挿ム可キモノナカル可シ之ヲ例スルニ主ガ太九〇六ニ於テ「人ノ子地にて罪を赦スノ權あり」ト宣ヒシガ如キ或ハ癡瘋ノ者ヲ不思議ノ能力ヲモテ癒シ玉フ前子よ心安かれ爾の罪赦されたり」ト太九〇六宣ヒシガ如キ或ハ彼ノ惡シキヲ爲セル一人ノ婦某ハ罪ノ故ニ痛恨慚愧ノ情ニ堪ヘズ涙ヲ流シテ主キリストノ足ヲ洗ヒタル時主ハ彼ニ對ヒテ爾の罪赦さる爾の信爾を赦へり安然にして往け」ト宣ヒシガ如キ(路七〇四八以下)或ハ主ガ其ノ死ノ前夜ハ弟子ニ對ヒテ「我血は人間の罪を赦さんとして流す所の者なり」ト太二六〇二八宣ヒシガ如キ或ハ墓ノ裡ヨリ甦リ玉ヒシ後ハ弟子等ニ對シ彼等ヲノ聖書ノ眞意ヲ了悟セシメントテ多クノ語ヲモテ啓發ヲ努メ玉ヒキ而シテ主ハ最後ニ彼等

第九章 赦罪ノ存否ヲ論ス

三百五十八

ノ聽ヲ啓キ曰ヒ玉ヒケルハ已に斯く録されたり如此キリストは苦難を受け第三日に甦る可し又其名によりて悔改と赦罪はエルサレムより始まり萬國の民に宣傳られん下其詳シキハ讀者宜シク路二四〇四五ヨリ四七ニ就テ見ル可シ吾人ハ新約全書ヲ考究スルニ方リ使徒等ガ常ニ或ハユダヤ人ニ對シ或ハ異邦人ニ對シ主キリストヲ信ズルニ由テノミ赦ヲ受ケ得可キ事而ノ救ノ中心點トモ謂フ可キハ罪ノ赦ヲ受クルニアルヲ言ヒシヲ見ル彼等ハ單直接傳道ノ際ニ宣傳セルノミナラズ其諸公會ニ贈リタル書簡中ニモ主キリストヲ信ズル者ハ既ニ赦罪ヲ受ケタルモノ而ノ又救ニ與ルモノナリト記シタリキ之ニ就キテハ新約全書中數多ノ例アリト雖モ今一々之ヲ録スルノ要ナキヲモテ茲ニハ之ヲ略ス然レモ自ラキリスト教信徒ト號スルモノハ中ニアリテ或ハ主キリストノ死ハ世ノ罪ノ挽回ノモノニアラズト唱フルモノアリ彼等ノ思想スル所ニヨレバ人ノ罪ヲ赦スト云フガ如キハ到底出來難キ事タルナリ縱シ萬一ニシテ之ヲシテ爲スヲ得可キ事タラシ

ムルモ是レ決シテ重要ノ事ニ非ラズト彼等ハ遂ニ贖罪ノ事實ト其教理ヲ否定ス蓋シ此ル誤謬ノ由テ來リタル根本ハ造化主ナル神ト世界ニ於ケル善惡ヲ區別スル事トノ關係ヲ誤解スルニ歸セザルベカラズ罪ヲ赦ス事換言スレバ罪ノ取り除キ得ラル可キ人ヲ哲學上ヨリ論證センハ吾人ノ敢テ爲サザル所ナリ凡ソ人類ノ罪惡ヲ自然ニ取り除キ得ン事ハ到底出來得可カラザル事ナリトハ多ノ論者ノ唱フル所ナルガ就中ドクトルジョンヤングノ如キハ最モ有名ナル一人ナリトス彼曾テ曰ケルハ夫レ法律ハ或者ノ心意ノ發表ナリ故ニ若シ其法律ノ基礎ニシテ充分ナル權威ト其ノ基礎トハ之ヲ義ト智トノ兩者ナリトセザルヲ得ザル也物質界心靈界ノ法律ハ神ノ聖旨ヲ顯示ス蓋シ物質界ニ在リテハ其法律頗ル嚴ニ寸毫ト雖モ之ヲ侵ス事能ハズ自然ノ制裁ハ萬物ノ上ニ加ハリ肅然トノ其最上權ヲ施行ス翻テ心靈界ニ至リテハ之ト稍趣ヲ異ニスル所ナクンバアラズ被造物等ハ往々造物主ニ對シテ抵抗ヲ試ミタルヲモテ光ト生命トハ謝シ去リテ暗ト死トハ代

第九章 赦罪ノ存否ヲ論ス

三百五十九

リ來リヌ人ノ罪ノ目的トモ謂ツ可キハ其ノ及バン限リ渾身ノ力ヲ揮ヒテ嚴乎タル權威ニ抗抵スルニアリ尙別言スレバ神ノ權威ト法律ニ抵抗シ當ニ身ヲ挺シテ神ニ信賴スルノ情ヲ拋棄スルニアリ然レモ此ク被造物等カ靈界ノ嚴律ヲ蹂躪スルガ如クニ見ユルハ全ク是レ假現ニシテ決シテ真相ニハ非ラザル也靈界ノ法律ヤ其力全能也何等ノ應報モナク漫ニ或ハ侵サレ或ハ抗抵サルベキ者ニ非ラズ其應報クルヤ最モ手嚴シク即時ニ必ズヤ侵犯ニ應シ抗抵ニ報ヒ來ル夫レ物質界ニ於テハ何レノ方面ニ向フトスルモ自然律ガ其主權ヲ逞フスルハ學術上證シ得テ確實ナリトスル事ナルガ靈界ノ法律ト雖モ亦此ノ如ク其宇宙的ニシテ且ツ最上權ヲ有スル一ノ疑アル事ナシ吾人ノ觀察ト經驗トニヨリ物質界ニ於ケル事物ノ秩序的接續ヲ無限ナリトスルハ正當ナル思想ナリトス然レモ又往古來屢經驗スル所ニヨリ吾人ハ今日迄此ク繼續セラレタル秩序ヲ變更シ得ズトハ斷言スルヲ得ズ但シ惟リ靈界ノ重要ナル法律ニ就テハ此ヲ變更センハ固ヨリ言フ迄モナ

ク之ヲ思想スルダニ難キノ事ナリトス心靈界ニハ自然ニシテ變化ナシ心靈的善惡ハ其性質上自然ニ變化ヲ有セザルモノナリトス心靈界ノ法律ハ神ノ聖旨ニサヘ屬セズ其法律ノ旨トスル所ハ神ガ特ニ改造シ玉ヒタルモノニ非ラズ其性質ハ神ノ聖性ノ如ク永久ナルモノ也神ハ自家ノ性質ヲ變更スル事能ハザルガ如ク又此ノ法律モ變更スル事能ハズ靈界ノ法律ハ神ノ聖旨ト完全ナル調和ヲナス而シテ神ノ力ニ由レバトテ之ヲ變更シ或ハ之ヲ取り去ル事能ハズ

抑モ靈界ノ法律ハ物界ノ法律ト大ニ異ナル所アルモノナルガ故ニ之ヲ現行法令ニ比較對照スルニ更ニ一層ノ差異ヲ見ル今ノ世ノ法律ナルモノハ人類ノ不完全ナル性質ニ由リテ多少不智ニ屬クシ不正ト見做ス可キ廉アルヲ免レズサレバ現行ノ法律ニシテ不確實、疑似、不完全ナル點アルハ勢ノ然ラシムル所ニシテ到底免レ得ザル所ナリトス此等ノ理由ニ基キ一考シ來レバ人類主權ノ基本ハ甚ダ薄弱ナリトセザルヲ得ズ其信任モ決シテ完キヲ得ザル也時ニ或ハ無罪ノ者宛刑ニ處

セラレ有罪者却テ其刑辟ヲ免ル、等不完全ナル事アルヲ免レズ此ル不完全アルニヨリテ現行法律ノ權威ヲ保護スル爲ニ凡ノ罪人即チ法律違反者ハ悉ク酷シキ刑罰ヲ受ケザル可ラズ然ラズンバ社會ノ組織ハ壞裂ニ歸シ了ル可シ是レ實ニ現行法律ノ不完全ヲ顯彰セルモノト謂ハザルベカラズ然レモ心靈界ニ至リテハ其本既ニ堅ク秋毫ノ不都合アラザレバ物界ニ於ケルト大ニ其事情ヲ異ニス靈界ノ法律ニ至リテハ決シテ人類若クハ神ノ保護ヲ要スル事ナシサレバ靈界ノ法律ニ對シテハ一ノ保護者ナク又會テ之ヲ要スル理由アルナシ靈界ノ法律ハ自然ニ凡ノ背ケルモノアル間ハ之ニ適當ナル見ユル又ハ見エザル應報ヲ下ス而シテ會テ一度モ其處置ヲ錯ラザルナリ靈界ハ自然ニシテ完全ナル智ト義ト具ハリアリテ之ニ服従スルモ將又之ニ背クモノモ其法律ノ働キヲ妨グル能ハザルモノナリ違背者アレバトテ必ズシモ審判ヲ要セズ有罪無罪ヲ判センガ爲メ必ズシモ六箇赦試驗ヲ要スル事ナシ凡ノ事實ハ事ノ是非ヲ自然ニ白地ニ顯ハシテ宣告ノ要ナ

ク検査官モアル事ナシ其應報或ハ陽ニ或ハ陰ニ自ラ各自ノ頭上ニ下ル而シテ其應報ノ多少ハ其行爲ノ如何ニ因ル之ヲ要スルニ靈界ノ法律ハ自動的ノモノタリ其賞罰ハ忽チニ來ル自動的ノモノニシテ寸毫ノ誤リアラズト

ドクトルジョンハ以上ノ議論ヲモテ當時代多數人ノ意見ヲ發表セリ吾人ハ多クノ宗教書中ニ於テ這般ノ宗教思想ニ遭會スル事屢ナルガ若シ夫レ宇宙間ニ於ケル心靈界ハ以上所論ノ如ク支配セラレ、モノナリトセバ贖罪ノ教理ノ如キ素ヨリ之ヲ棄テザルヲ得ズ又惟リ贖罪教理ニ限ラズ斯教ニ於ケル他ノ諸點モ隨テ無益ノ物ト化シ了ス可シ之ヲ要スルニ上ノ議論ニヨレバ人類ノ赦罪ハ到底出來難キ事ナリ蓋シ贖罪ノ目的トスル所ハ罪ヲ悔ヒ之ヲ改ムルモノ、爲メニ挽回ノ供物トナリ罪ノ赦ヲ備フルニアレバ也今翻テヤングノ所論ヲ檢スルニ其中自ラ過謬ノ存スルヲ見ルヤング曰ク靈界ノ法律ハ自動的ニシテ自然ニ應報ヲ與フト然レモ彼ハ神ガ罪人ヲ罰シ玉フ事及ヒ義人ガ其

報ヲ受クル事ニハ曾テ説キ及ボサバリキ神ハ見物者ノミ神ガ親シク宇宙ヲ支配シ玉フ勞ヲ省ンガ爲メニ自動ノ機械ノ存スルアリ故ニ神ハ人類ノ道德的支配者又審判者ナリト云フヲ得ズ昔ハ曾テ學者等主キリストノ許ニ就キ問ヒケラク「神にあらざして誰か罪を赦すことを得ん可二〇七」ト此ハ是レ昔日ニ於ケル困難ナリシガ現今ノ學者ハ則チ曰ク神ハ人類ノ罪ヲ赦ス事能ハズ何トナレバ全世界ヲ通シテ正義ハ保存セラル可キ事々實ニノ神ハ自ラ此ノ正義ヲ世界ヨリ取り去ル事能ハズ神ノ權威モ善惡ヲ顛倒變更スル事能ハズ神ハ自家ノ能力ヲ弄ノ宇宙ノ理法ヲ變ズル能ハズ故ニ人ノ罪ヲ赦ス事ハ到底難キノ事ナリト彼ノ所論ニヨレバ世界ノ支配者タル神ハ永久ナル義ノ法律ノ爲ニ其權威ヲ制限セラレタリ又義ノ法律ニヨリテ刑罰ハ凡ノ罪人ノ頭上ニ落ザルベカラズ神ハ罪ヲ赦ス事即チ人類ノ當然受ク可キ刑罰ヲ取り除ク事能ハズ神ノ力ノ能フ所ハ人類ニ向テ道德上ノ勸告ヲナノ罪人ノ良心ヲ醒攪シ又人ヲシテ其汚レタル心ノ罪ヲ嫌疑シ隨テ道

徳ヲ好ムニ至ラシムル事是也此ル行爲ニツキテハ神ノ力ハ人ノ力ヨリモ偉大ナリト云ハザルベカラズ然レ行爲ノ性質ヲ細察スルニ恰モ人ヲ改良セント欲スルモノ、心ト一般ニシテ裁判者ニアラズ改良者ナリ「神モ人モ罪人ニ對シテ汝ノ罪赦サレタリ」ト云フヲ得ズ凡テ適當ナル刑罰ハ必ず罪人ニ降ルベキモノニシテ何人モ之ヲ避遁スベキ様ナシ「ト吾人ハ此ノ點ニ就テ生ズル誤解ヲ防ンガ爲ニ一言セン夫レ罪ヲ除去スル事ト罪ニ對スル諸般ノ刑罰ヲ免ル、事トハ自ラ其途ヲ異ニス時トシテ罪ハ赦サルベキモ其刑罰ノ總分ハ尙ホ之ヲ受ケザルベカラズ然レ贖罪ノ教理ニ至リテハ全ク罪ニ對スル刑罰ヲ除去スル事ヲ意味スル也然ルニヤングハ曰ク凡ソ罪ノ刑罰ハ永久不變ニシテ各罪人ノ頭上ニ落ザルベカラズ故ニ罪ヲ除去スル事即チ贖罪ハ到底出來難キ事ナリト此ル思想ハ人ノ生涯ニ於ケル經驗ニ適セズ古來人類ハ世界ノ事情ノ混亂不規則ナルヲ見テ甚ダ思ヒ惑ヒヌ道德律ノ權威ハ事實上明白ナラズ罪ノ刑罰ハ屢々人類ニ被ラサルベキモノニ非

ラズ見ヨ世ノ多クノ罪人ハ刑罰ヲ免レテ安然タルニ非ズヤ此ニ二人ノ漢子アリ彼等等シク醉酒猥褻ノ所行ヲナシタリトセンニ其中ノ一人ハ強壯ナル体格ヲ有シ富有ニシ且ツ多クノ閑日ヲ有ス故ニ彼ハ公然トノ罪ノ内ニ生活シ四季析々彼ガ耳目ノ快ヲ縱ニシ以テ健康ヲ守ルノ生涯ヲ送クリ古來稀ナリトスル七十ノ歲月ヲ此ル逸蕩ノ中ニ閱シテ安然トシテ遂ニ終命リヌ他ノ一人ハ之ト大ニ異ニシテ蒲柳ノ質ナルガ上ニ剩サヘ一定ノ業務ニ從事セザルベカラザルノ境遇ニアリシヲモテ書記ヲモテ其業務トハナシヌ彼ハ常ニ不幸ニシテ病勝チニアリ未ダ人生五十ニ至ラザルニ疲羸ノ極遂ニ終命リヌ之ニ由テ此ヲ觀レバ全一ノ罪ニ對スル刑罰ハ大ニ趣ヲ異ニスト言ハザル可カラズ恰モ是レ義ノ法律ハ富者ノ賄賂ヲ受納シテ頼ルベキ貧者ヲ其足下ニ蹂躪セリト全一ニハアラザルカ更ニ今一例ヲ以テセンニ此ニ文明國人アリ彼ハ不道德ノ極一種ノ惡疾ヲ其身ニ受ケヌ此ハ實ニ罪ニ對スル自然ノ刑罰トモ見ル可キモノナルガ彼ハ幸ニモ現今比類ナキ進步

ヲナセル醫學ノ知識ニヨリ適當ナル藥劑ト適當ナル看護者ヲ得テ其病痾次第ニ快癒シ今若シ一層ノ注意ト謹慎トヲ用キバ其ノ健康ヲ回復スルヲ得ルニ至リキ他ノ一人ハ今之ヲ假ニ南洋諸島中ナル或野蠻國人ナリトセンニ彼ハ上等シキ不徳ノ行爲ヲ逞フシヌ然レモ彼ハ是非ヲ辨ズル事頗ル鈍ク心意甚ダシク幼稚ナルヲモテ之ヲ前ノ文明國人ノ知リテ且ツ爲スガ如キノ惡行ニ比スレバ寧ロ大ニ恕ス可モノアリトセザルベカラズ然レモ彼ハ不幸ニシテ醫學ノ恩澤ニ浴スルヲ得ザルガ故ニ病苦日ニ加ハリ其ノ身ハ全ク脱力ン去リテ遂ニ數年ノ後不幸淪落ノ中ニ落命シ不徳ノ報ヲ受ケヌ今此等ノ例ヲ以テ推斷シ來レバ罪ニ對スル刑罰ハ之ヲ等シキナリト云フヲ得ズ其外容何ゾ甚ダシク相違スルヤ無限ナル義ノ法律ハ無學者ヲ刑スル事酷ニシテ學識者ヲ寬待スル事何ゾ爾ク甚ダシキガ如ク見ユルヤ尙今一例ヲ舉ゲテ之ヲ證セン此ニ人アリ彼ハ極メテ巧ナル計略ヲモテ人目ヲ眩シ巨万ノ財ヲ畜積シ一躍ニ富豪家トナリヌ然ルニ彼ヲシテ從來不義不正

ニ誘導セル動機ハ自然ニ消失シ今ヤ彼惜氣モナク金錢ヲ散シ世人ヨリハ正直ナル慈善家テフ好評ヲ受クルニ至レリトセンニ彼ハ其ノ罪ノ刑罰ヲ免レシノミナラズ耻辱ヲ免レ其體面ヲ全フセリト云ハザルベカラズ今此ニ他ノ一人アリ彼ハ上等シキ巧妙ナル手段ヲモテ多クノ財ヲ畜ヘヌ然ルニ彼ハ曾テ受領スベキ金錢アリシガ爲メ日ヲ期シテ待チ居リシモ不幸ニシテ其ガ爲替券ヲ塔載セル蒸氣船ハ嵐籠ノ破損セルガ爲ニ延着シ彼ハ豫期ノ如ク此ヲ受取ル事能ハザリシ此ヲモテ彼ハ計圖ヲ畫併ニ歸セシメヌ或ハ彼ガ曾テ或方ニ向テ送達ス可キ金アリシニヨリ彼ハ郵便局ニ至リテ送達ノ手順ヲ爲シ置キシモ不幸ニシテ郵便局ノ間違ヲ生シ其先方ニ達セザリシガ爲メ彼ハ大ニ其信用ヲ墮シヌ此等彼此ノ事情此ニ相ヒ遭會シ端ナク破綻ヲ生シ彼ガ罪ハ公然世ニ發セラル、ニ至リ彼ガ半生涯ハ茲ニ一段落ヲ告ゲ爾來彼ハ次第ニ衰ヘ行キ惡評四面ニ纏綿シ富ハ去リテ輕賤來リ其友ハ變シテ彼ヲ阻フノ敵トナリ彼ハ途ニ法庭ニ出訴セラレ多年獄窓ニ呻吟

スルノ身トナリヌ故ニ彼ハ其土地ニモ居タマラズ外國ニマテサスラヘ行キ貧苦不幸落膽ノ中ニ落命シヌ此二人ノ者ニツキテ見ルニ罪ニ對スル見ルヘキ或ハ見エザル或ハ陽ナル或ハ陰ナル刑罰ノ同等均一ナラザルハ明カナリ蓋シ何レノ罪モ必ス刑罰ヲ受クルトハ容易ニ確定シ難キ事ナリトス限ナキ義ノ法律ハ或ハ人類ノ狡猾ナル手段ニ由テ抵抗セラレ或ハ不意ノ出來事ニヨリテ其刑罰ヲ逞フスルノ觀アリ今一例ヲ擧ゲテ之ヲ云ハン凡ソ大都府ニ住ヘル最モ賤ム可キ下等社會ノ内ニアリテモ其少時ニアリテハ隨分善良ナル家族ノ内ニ育テラレ敬愛ヲ博セシモノモ鮮カラザルベシ彼ハ令ヲ去ル二三十年前一度罪ヲ犯シタルガ爲メ今此ノ不幸ナル境界ニ沈落シヌ其ノ罪タルヤ固ヨリ一ナラズ或ハ一度酗酒シテ亂暴ナル舉動ヲナセシモノモアラン或ハ最モ重要ナル事ニツキ虚言ヲ吐キシモノモアラン或ハ其保管ニ屬スル金ヲ無斷ニテ消費セシモノモアラン此ル不心得ハ彼ガ社會ニ得タル名譽ト地位ト正當ナル收入トヲ奪ヒ去リ何人モ彼ヲ信用スル

第九章 赦罪ノ存否ヲ論ス

三百七十

モノナク彼ハ到底身の勢力ヲ再ヒ回復シ得ズ不幸更ラニ又不幸途ニ種々ナル罪惡ニ沈淪シ希望ナク自重心ナク避ク可カラザル滅亡ノ淵ニ顛墮スルニ至ル他ニ一人アリ彼ハ鮮麗ナル邸宅ニ住ヒ百草咲キ亂レタル花園ヲ以テ圍繞セラレ名譽アリ榮華アリ人生一ニ不如意ノ事ナキ境遇ニ成長セシガ彼モ亦一度誤テ上ニ等シキ罪惡ニ墮ツ然レモ幸ニシテ彼ニハ深厚ナル愛ヲ有テ爾親ノアルアリ其妻其友ハ身ヲ碎テ彼ガ靈ヲ救ハンガ爲メニ盡瘁ス嗚呼彼ガ知己ハ其悉皆ヲ擲テ彼ガ犠牲ニ供シ深キ同情ヲ以テ彼ヲシテ千鈞一髮ノ危機ニツナギトメ彼ヲシテ遂ニ再ヒ有徳ニシテ尊敬セラル可キ道ニ連レ歸リヌ此ノ二者ノ事情ニ就テ見ヨ罪ノ刑罰ノ異ナル事自ラ明白ナルニ非ズヤサレバ或ル罪ニ至リテハソガ全ク刑罰ヲ受クベシトスルハ頗ル疑ハシキ事ナリトス現今世界ノ事情ヲ通觀スルニ或者ハ余リニ多ク罪ニ苦シメラレ或者ハ余リニ少ク苦ヲ受ク世ニハ表テ立テタル刑罪ヲ免レタルモノナリトテ別段心ニ痛苦ヲ受ク可シトモ考ヘラレズ若シ之ヲ經驗

ニ照シ見レバ此ル人物ハ却テ平然タル處ナキニ非ラズサレバ疾病耻辱、財産ノ損害等ハ是レ罪ノ結果ナリトセバ却テ其人ヲシテ罪ノ性質ヲ知ラシメ自ラ大ニ反省シ且ツ自ラ賤ムルニ至ル可シ多クノ罪ヲ犯シタル者ハ却テ鋭キ心痛ヲ感セズ若シ人絶エズ罪ヲ犯サンニハ其意漸次力ヲ失ヒ後チハ少シモ感ズルコトナキニ至ルベシ幾度トナク惡シキ行爲ヲナセル者ハ深ク羞耻ノ情ヲ感ズル事ナクシテ唯タ少シク之ヲ感ズル事アルノミ吾入ハ經驗ニヨリテ之ヲ知ル凡ソ犯罪ハ其大ナルニ隨テ良心ノ刺戟力ハ隨テ微弱ナルヲ免レズ此等ノ理由ヨリスレバ無限ナル義ノ法律ガ人類ノ罪ニ對シテ刑罰ヲ下スコトハ世ノ普通ノ裁判ヨリモ寧ロ一層不確實ニ且ツ曖昧タルヲ見ル此ル刑罪ガ富ニヨリ學術ニヨリテ取り除カレ得ルハ宛然彼ノ避雷針ガ能ク電氣ヲ導キテ更ニ家屋ニ損害ヲ被ラシムル事ナク之ヲ地中ニ引キ入ル、ガ如キ也唯タ不意ノ出來事ニヨリテ其惡計ノ顯露セル場合ニノミ刑罰ハ其上ニ加ヘラル、事ナリト雖モ人類ノ熱キ仁愛心ヨリシ

第九章 赦罪ノ存否ヲ論ス

三百七十一

テ往々ニシテ其刑ヲ脱レシム現今何レノ國ニ於ケルモ寛容ナル心一般ニ増加シ來リ罪ノ結果ヨリシテ人類ヲ救ヒ出サントノ熱キ精神ヲ有スルモノ鮮カラズ最大ナル犯罪者ニシテ最少ノ痛ヲシカ感ゼザルモノアリ此等ノ諸點ヲ湊合シ檢討シ來レバドクトルヤンクガ主張セル無限ナル義ノ法律ノ刑罰ニ關スル論理ハ吾人生涯ノ經驗ニ照シテ甚ダ其不可ナルヲ知ル

吾人ハ今少シク論歩ヲ進メテドクトルヤンクガ神ヲモテ人間ノ道德的支酌者且ツ審判者トセズシテ單ニ之ヲ見物者ナリトセシ事ニツキ論究スル所アラントス蓋シ此ル議論ハ新舊約全書ヲ一貫セル教理ニ反對スル所ノ者タリ舊約全書ノ歴史中ニアリテ神ガ或ハ其個人ナルト一國民ナルトヲ問ハズ人類ノ惡行ニ向テ刑罰ヲ加ヘ玉ヒシ例ハ多々ナリトス即チノア時代ニ於テ大洪水ヲモテ人類ヲ亡シ玉ヒシガ如キ或ハ火ヲモテソドム、コモラノ人民ヲ燒キ盡クシ玉ヒシガ如キ埃及國民ノ上ニ下シ玉ヒタル十個ノ災害ノ如キ或ハ特ニ埃及國人ノ

各戸ノ長子ヲ殺シ玉ヒシガ如キ或ハモーセ、アロンヲ始トシテ殆ント凡テノイスラエル人ガ紅海ヲ渡リテカナン國ニ入ルヲ禁ジ玉ヒタルガ如キ此ル種々ナル刑罰ハ聖書ノ教ユル所ニヨレバ心靈的法律ノ自動ノ結果ニアラズ此ハ全ク生命アル神ガ人類ニ對シテ直接其刑罰ヲ與ヘ玉フ也ユダヤ人ノ信ゼシ所ニヨレバ活ル神ハ凡テ義ナルモノヲ愛シ凡テ不義ナルモノ即チ罪ヲ犯ス者ニ對シテハ親シク其刑罰ヲ與ヘ玉フト此ハ實ニ舊約全書中ノ詩人ト預言者等ノ信仰セシ所タル也彼等ハ時トシテ神ガ憐憫ノ心ヲ起シ玉ハン事ヲ願ヒ或ハ神ガ義憤ノ爲メニ將ニ世ニ遺リ玉ハントスル使者ヲ引キ返シ玉ハン事ヲ願ヒキ或ハ罪人ガ悔改ノ機會ヲ得ンガ爲メ神ガ暫ク其刑罰ヲ猶豫シ玉ハン事ヲ指示シ時トシテ彼等ハユダヤ人ト異邦人トノ内外ヲ問ハズ若シ神ノ寛容ノ時ニ方リテ改悛シテ以テ其罪ヲ棄テ神ノ命令ニ從フニアラズンバ神ノ怒ハ大ニシテ其災禍ノ一層大ナラン事ヲ告キ舊約全書中ノ神ハ罪アル人ノ罪ヲ罰シ或ハ義人ニ向テ褒美ヲ與フルヲ能クシ

玉ヲ活ケル神タルナリ新約書ノ教トテモ其主旨更ニ舊約書ト異ナル事ナシドクトルヤングガ云ヒシ凡ノ罪ハ心靈的法律ノ自動ニ由テ充分ニ罰セラルベキモノナリトノ教理ハ主キリスト、其弟子等ノ説キシ所トハ全ク相反ス主キリスト曰ク「それ父は誰をも鞫かず」(約五〇二二)彼ハ敢テ心靈的法律ノ自動ニヨリテトハ宣ハザリキ彼自己ヲ指シテ云ヒ玉ハク「審判は凡て子に委ねたり」(約五〇二二)又彼ハ心靈的法律ノ自動ハ罪人ニ對ヒテ充分ナル刑罰ヲ與フルト言ハズシテ來ル可キ時ニ「それ人の子は父の榮光を以てるの使等と偕に來らん其時各の行爲に由て報ゆべし」トハ宣マヒキ(太一六〇二七)聖徒ペテロハ斯教ノ初歩ヲ説クニ方リテ主キリストガ未來ニ於テ人類ヲ審判シ玉フヲ教ヘキ即チ徒一〇〇四二ニ説テ曰ク「キリストは其生者と死者の審判人に神より定られし事を我儕に證して民に宣よと命じたり」ト又聖徒ハウロアデン人ニ福音ヲ宣ベ傳ヘテ「神すでに其立し所の人により義を以て世を鞫くべき日を定めたり」トハ云ヘリキ(徒一七〇三一)又彼ハ

曾テ幸ベリクスト論ズルニ方リ心靈的法律ノ自動ニツキ何等ノ語ル事ナク只將ニ來ラントスル審判ヲ指示スル事ヲナセリ(徒二四〇二五)又彼ハ其書簡中ニ於テ信徒ノ互ニ相和ク可ク互ニ相忍ブ可ク互ニ相慈愛アル可キヲ勸メ將ニ來ラントスル審判ニ付キ屢々指示スル事ヲナセリ今一二例ヲ擧ゲンニ羅馬一四〇十ニ曰ク「爾なんぞ其兄弟を罪するや何ぞ其兄弟を藐視るや我儕ハ皆キリストの臺前に立べき者なり」ト又哥後五〇十ニ曰ク「われら必ず皆キリストの臺前に出て善にもあれ惡にもあれ各々自に居て爲し所のことに循ひ其報を受くべきものなり」ト彼又曾テ公會ノ教職ニ對ヒテ熱心忠實ニ其職ヲ奉ス可キヲ獎勵セル後提后四〇一ニ次ノ如クニ云ヒヌ曰ク「われ神の前およひ顯るゝ時その國に於て生る者死る者を審判するキリストイエスの前にて爾に求む」トドクトルヤングハ曰ク「神ニ對シテ仕拂ハレザルノ勘定ナク又買戻ヲ要ス可キ事モナシト然レモ羅馬二〇四ニ於テハ實ニ左ノ如ク記サレヌ曰ク「なんぢ神の豊厚なる仁愛と寛容なると恒忍玉ふ

とを藐視する乎」下此ハ果シテ何ヲ意味スルモノナルカ全二〇五ニ於テ「已の爲に神の怒を積みて其義鞠の顯はれん震怒の日に及ぶなり」下ハ果シテ此レ如何ナル言ナルカ全八九十二アル「争闘をなし眞理に順はず不義につく者には報ゆるに忿と怒と患難辛苦とを以てす」下ハ果シテ如何撒後一〇七八ニ記サレタル「主イエス火焰の中にて其能力の諸使と偕に天より顯れん時神を識ざる者およひ我儕の主イエスキリストの福音に服はざる者に報を予ふ」下其恐ルヘキハ如何ゾヤ此ハ是レ刑罰ノ如何ニ恐ル可キカヲ示サレタルモノニ非ズヤ若シ夫レ心靈的法律ノ自動ニシテ既ニ業ニ人類ニ刑罰ヲ與フル事充分ナランニハ罪人ニ取リテハ來ル可キ審判ト災禍ニ付テハ何等ノ關心スヘキモノモアラザル可シ太二五〇四一ニ記サレタル「罰せらるべき者よ我を離れて惡魔と其使者の爲に備たる燃ざる火に入れよ」下ハ果シテ如何ノ意味ナル可キ乎

世人ハドクトルヤングノ教理ヲモテ眞實ナリトスルモ此ハ是レ彼等

ガ未ダ眞相ヲ究メザルノ致ス所ノミ此クシテ眞宗教ノ害ヲ被ラサル、一決シテ少カラズ蓋シ其ノ理由タルヤ法律ナル術語ノ誤解ニ起因ス夫世ニハ心靈界ノ法律アリ物質界ノ法律アリ而シテ各別箇ノ思想ヲ成立ス物質界ノ法律ハ不變ナルモノニシテ理由ニ就キ恰當ナル結果アリ此理由ニ從ヘル結果ノ關係亦不變ナルモノナリ而シテ此種ノ法律ニハ一ノ自由ナシ心靈界ニ就キテハ二種ノ法律アリ一ハ道德ノ命令ニツケルモノ他ハ其ノ性質ニツケルモノナリ前者ニ對シテ人ハ自由ナルモノニシテ或ハ服従シ或ハ抵抗スルヲ得レ而シテ後者即チ人間ノ心靈的性質ニツケルモノハ不變ナルモノニシテ人ハ之ニ對シ一ノ自由ヲ有セザルモノナリトス例令バ犯罪ノ結果ハ常ニ吾人ノ心靈的性質ガ漸次惡ニ進ムコナルガ如シ又惡行ヲ屢々反復スルニ於テハ其結果ハ其惡癖ヲシテ倍鞏固ナラシムルノミ若シ人ノ情慾ニシテ其爲スガ儘ニ任セ更ニ制スルコトナカランニハ途ニハ挽回ス可カラザルニ至ル可シ又屢々罪惡ヲ犯ス事ヲセバ罪惡是非ヲ辨別スルノ力自然ニ

消失シテ義務ヲ致スノ心薄弱ニ放逸ナル邪心信強勢ヲ加ヘ隨テ良心ノ辨識力モ乃至良心ノ權威モ消失スルニ至ル換言スレバ人ハ罪ヲ犯スコトノ多キニ從テ罪ニ反抗スルノ力益薄弱トナル此ノ種ノ法律ヲ指シテ吾人ハ之ヲ自動的法律ト云フヲ得此法律ノ行爲ハ人間ノ意志ニ關係スル所ナク物理的法律及吾人肉體上組織ニ類似セリ而シテ此法律ハ人及神ノ護或ハ助ケヲ有セズ又々之レヲ要セズトノ說ハ眞ナリ

茲ニ吾人ヲシテ物理的法律ノ一例ヲ取ラシメヨ水壓學ニ於ケル規律ハ不變ニシテ常ニ同一ノモノタリ此レ規律ノアルヲモテ貯水所ノ壁ハ數百萬貫ノ壓力ヲ防グニ足ル可ク最モ堅固ニ建築セラル、ヲ常トス而ノ其ノ隣保モ危嶮ト損害トニ遠カリテ安全ナルヲ得セシメラル若シ此ノ壁ニシテ水壓力ニ抗スルニ充分ナラザンニハ其水ハ潰裂シテ其近キ邊ノ人畜家屋ヲモ亡ボスニ至ルベシ吾人ハ此ル場合ニ於テ建築技手ガ設計ヲ誤リタレバトテ彼ガ水壓學ノ法律ヲ破リタリトハ

云フベカラズ此ノ法律ニ從フノ適否ヲ定ムルハ人力以外ニアリ然ラバ彼技手ハ如何ノ法ヲ破リシヤ其義務ハ貯水所ヲ築ニ方リ豫メ先ツ水壓力ヲ計算スベキ也又壁ノ傾斜及垂直ノ力ヲ比較ス可キ也又壁ノ厚サト水ノ深サトヲ調査スベキ也又壁ノ材木ハ水及霜ノ力ニ能ク堪ヘ得可キヤ否ヲ深く研究セザルベカラズ此ノ法律ハ決シテ自動的ナラザル也此等ノ點ニ於テ人ハ其ノ意見ノ如ク如何様ニモ設計シ得テ一ノ制抑ヲ受クル事ナシ此ク技手ハ此等ノ法律ニ抗抵シ自家ノ設計ヲ試ムルヲ得ルヲモテ彼ハ自家ノ設計ニ從ヒテ一貯水所ヲ建築セリ然レモ技手設計ハ不幸ニシテ其當テ得ズ水壓力ハ遂ニ貯水所ヲ破壊シテ多クノ財産ハ之レガ爲メニ失ニレキ若シ吾人ニシテ抵抗スベカラザル物理的法律ト抵抗シ得可キ比例法トヲ混亂セバ此ハドクトルヤングノ教理ト全一ナル過誤ナリトス蓋シ水壓學ニ於ケル法律ハ自動的ニシテ審判及刑ノ執行者ヲ要セズト雖モ比例法ニ至テハ技手ノ全然從フ可キモノニシテ若シ技手ニシテ之ニ從ハザランニハ當ニ